

愛知県美術館年報

目次

はじめに(Forward)	07
主要記事(Events)	09
収集(New Aquisitions)	10
企画展(Temporary Exhibitions)	19
所蔵作品展(Permanent Collection)	38
貸出(Loan of Collection)	50
保存(Restoration)	52
教育普及(Educational Service)	53
調査・研究(Research)	55
貸館事業(ギャラリー)(Galleries for Rent)	57
管理・運営(Basic Concept/Major Objectives)	61
施設概要(Facilities and Equipment)	63
愛知県美術館組織図(Organization)	64
関係委員会名簿(Members of Committees)	65
美術館の利用状況(Statistics of Visitors)	66
関係法規(Laws and Regulations)	67
愛知県美術館沿革(History)	73
利用案内(Information)	74

はじめに

愛知県美術館が愛知芸術文化センターの10階と8階に開設されて二年目の1993年(平成5年)度の年報を発行いたします。開館が1992年10月30日でしたから初年度の年報は実質5ヵ月間についてでしたが、本年度は一年間を通じた活動概要の報告となります。

美術作品の収集は、開館前と変わらぬ重要な活動ですが、本年度は、海外のものではフォーヴィスムの代表的な画家のひとりアルベール・マルケの《ノートル＝ダムの後陣》(1902年)、自ら体験した第一次世界大戦の惨禍を抉り出したオットー・ディックスの50葉からなる版画連作《戦争》(1924年)、アメリカの抽象表現主義の画家サム・フランシスのきわめて質の高い《消失に向かう地点の青》(1958年)などを、国内では日本の近代彫刻史に大きな足跡を印した荻原守衛の滞欧作《女の胴》(1907年)、岸田劉生がその夫人を描いた力強い素描《葵》(1918年)などを取得し、島田章三《石庭女人図》(1976年)はじめ7点のご寄贈をいただきました。いずれも、20世紀美術の展開をテーマとする所蔵作品展をより充実させるのに役立つものばかりです。この場をかりて貴重な作品をご寄贈下さったご所蔵家や作家の方々に厚くお礼申し上げたいと思います。

企画展は、年度当初の「パウル・クレーの芸術」から最後の「色彩の宇宙 クプカ展」まで7本を開催しました。「パウル・クレーの芸術」が10万人を越える観客を迎えたことは、この展覧会がこれまで日本で開かれたクレー展のなかで最大規模の内容であったことにもよりますが、同時にクレーの絵画を愛する人々の層が大変厚くなっていることを示すものであったといえます。一方、フランティšek・クプカは欧米では抽象絵画の先駆者として高く認められているにもかかわらず、これまで日本にはほとんど紹介されていなかった画家で、この作家を初めて本格的に取り上げたということで評価されたのが「クプカ展」でした。「小川芋銭展」、「安田靉彦展」、「戸張孤雁と大正期の彫刻」は日本の近代美術史上重要な作家を回顧するもの、「現代の陶芸(1950-1990)」は現代美術の分野に目を向けた企画でした。企画展は、当館のコレクションの性格から20世紀美術に関するテーマが多くなることはもちろんですが、必ずしもその範囲にとらわれることはないと考えています。「リール市美術館所蔵 パロック・ロココの絵画」は、リール市美術館が改修工事に入って休館になったために可能になった展覧会で、17世紀前半のルーベンスやヴァン・ダイクの大作、あるいは19世紀初めのゴヤの名高い作品などに感銘を受けられた方も少なくなかったはずです。

そして、こうした企画展の際に講演会や連続講座を開くなど教育・普及の活動にも努めました。愛知県の多くの方々にとって美術館が優れた作品を見ることを楽しみ、また教養を高めていただく場となることを願っています。

また、8階ギャラリーの利用率は各展示室とも年間を通じて100%でした。多数のお申し込みをいただき調整に苦労したこと、および9月にAからD室の4室を使って「上海博物館展」が開催され7万人を越える入館者があったことを記しておきます。

本年度においても多くの方々や関係機関のご協力とご支援をいただきました。ここに感謝の意を表しますとともに、今後とも美術館の活動へのより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1995年3月

愛知県美術館長

浅 野 徹



©Estate of Sam Francis/ARS, New York/SPDA, Tokyo, 1995

サム・フランシス 《消失にむかう地点の青》 1958年、油彩、綿布

1993年	4月2日	企画展「パウル・クレーの芸術」開催 (会期4月2日～5月23日) 所蔵作品展第1期「20世紀の美術」開催 (会期4月2日～7月11日)
	5月20日	第42回全国美術館会議総会開催(会場地となる)
	6月4日	企画展「小川芋銭展」開催 (会期6月4日～7月4日)
	7月8日	1993年度第1回美術館ギャラリー運営会議開催
	12日	燻蒸実施(12日～13日、貴重品保管庫、収蔵庫2及び収蔵庫3)
	16日	企画展「現代の陶芸＝1950－1990＝」開催 「本多コレクション展」併催 (会期7月16日～8月22日) 所蔵作品展第II期「戦後美術の展開」開催 (会期7月16日～10月24日)
	19日	1993年度第1回美術品収集委員会開催
	26日	秋篠宮同妃両殿下視察
	9月3日	企画展「安田靉彦展」開催 (会期9月3日～10月17日)
	4日	上海博物館展を愛知県美術館共催により、 8階ギャラリーで開催 (会期9月4日～9月26日)
	10月5日	1993年度美術館運営会議開催
	29日	企画展「リール市美術館所蔵 バロック・ロココの絵画」開催 (会期10月29日～1994年1月16日) 所蔵作品展第III期「20世紀の美術」開催 (会期10月29日～1994年1月16日)
1994年	1月25日	企画展「戸張孤雁と大正期の彫刻」開催 (会期1月25日～3月6日) 所蔵作品展第IV期「戦後美術の展開」開催 (会期1月25日～3月13日)
	27日	1993年度第2回美術館ギャラリー運営会議開催
	2月4日	1993年度第2回美術品収集委員会開催
	3月18日	企画展「色彩の宇宙 クプカ展」開催 (会期3月18日～5月8日) 所蔵作品展「第1期」開催 (会期3月18日～6月2日)



所蔵作品展

収集方針

- (1)20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
- (2)現在を刻印するにふさわしい作品
- (3)愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
- (4)上記の作品・作家を理解する上で役立つ資料

この収集方針に沿って、1988年にあらたに設置された愛知県美術館美術品収集委員会において審議を経て収集した作品は、開館年度までの5年間に591点を数え、愛知県文化会館美術館時代に収集された1056点の作品および、藤井達吉コレクション1460点を加えて、総数3107点のコレクションとなった。1993年度は、下記の表のとおり23点を購入し、7点を受贈した。

美術品等収集状況

1994.3.31現在

種 別	1993年度		計	
	購入	寄贈		
	点数	点数	点数	
			購入	寄贈
日本画	0	0	194	
			125	69
洋 画	6	2	484	
			401	83
立 体	7	2	89	
			83	6
版 画	5	3	382	
			345	37
水彩・素描	5	0	436	
			366	70
資 料	0	0	2	
			1	1
工 芸	—	—	50	
			36	14
書	—	—	20	
			3	7
その他	—	—	20	
			11	9
計	30		1,667 *	
	23	7	1,361	306

* 藤井達吉コレクション1,460点を除く

■国内作家

[洋画]

1

佐々木四郎 1931-

閉ざされた空間

1979年 油彩、麻布 162.0×227.0cm

裏面に署名、年記、題名

購入 93-JO-001

SASAKI, Shiro

Closed Space III M-5

1979 oil on canvas 162.0×227.0cm

signed, dated and titled verso

93-JO-001

2

島田章三 1933-

石庭女人図

1976年 油彩、麻布 162.0×194.0cm

長谷川久道氏寄贈 93-JO-002

SHIMADA, Shozo

A Lady in a Rock Garden

1976 oil on canvas 162.0×194.0cm

Gift of Hisamichi Hasegawa 93-JO-002

3

藪野正雄 1907-1990

砂上

1939年 油彩、麻布 162.0×131.0cm

第26回二科展「20世紀愛知の美術」展(愛知県美術館、1993年)

小森武氏寄贈 93-JO-003

YABUNO, Masao

On the Beach

1939 oil on canvas 162.0×131.0cm

26th Nika-ten: 20th Century Art in Aichi, Aichi Prefectural Museum of Art, 1993

Gift of Takeshi Komori 93-JO-003

4

吉中太造 1928-1985

遺産

1964年 新聞紙のコラージュ、板 182.0×137.0cm

個展(東京、椿画廊)

購入 93-JO-004

YOSHINAKA Taizo

Heritage

1964 collage of newspaper on board 182.0×137.0cm

One-man show, Tokyo 93-JO-004

[水彩・素描]

1

海老原喜之助 1904-1970

抽象的な裸像と顔など

1951年 インク、紙 36.8×25.1cm

購入 93-JD-001

EBIHARA, Kinosuke

Abstract Nudes and Faces

1951 ink on paper 36.8×25.1cm

93-JD-001

2

海老原喜之助 1904-1970

母と子と顔かたちなど

1951年 インク、紙 35.3×24.3cm

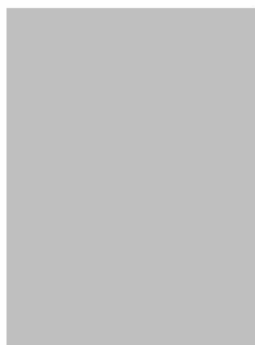
購入 93-JD-002

EBIHARA, Kinosuke

Mother, Child and Faces

1951 ink on paper 35.3×24.3cm

93-JD-002



3

海老原喜之助 1904-1970

抽象的な形と人

1953年 インク、紙 33.2×22.4cm

購入 93-JD-003

EBIHARA, Kinosuke

Abstract Figures

1953 ink on paper 33.2×22.4cm

93-JD-003



4

海老原喜之助 1904-1970

悲しみ

1955年 鉛筆・インク、紙 35.0×25.0cm

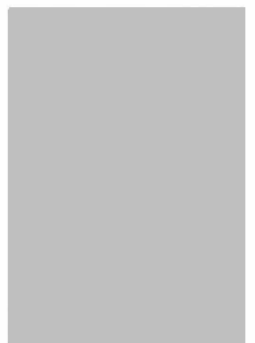
購入 93-JD-004

EBIHARA, Kinosuke

Grief

1955 pencil and ink on paper 35.0×25.0cm

93-JD-004



5

海老原喜之助 1904-1970

肘を上げる女

鉛筆・パステル、紙 25.5×17.3cm

購入 93-JD-005

EBIHARA, Kinosuke

Woman raising her Arm

date unknown pencil and pastel on paper 25.5×17.3cm

93-JD-005



6

大沢鉦一郎 1893-1973

手

1916年 コンテ、紙 29.2×38.1cm

購入 93-JD-006

OSAWA Seichiro

Hand

1916 conté on paper 29.2×38.1cm

93-JD-006



7

大沢鉦一郎 1893-1973

手

1918年 鉛筆、紙 47.6×62.3cm

購入 93-JD-007

OSAWA Seichiro

Hands

1918 pencil on paper 47.6×62.3cm

93-JD-007



8

大沢鉦一郎 1893-1973

自画像

1919年 鉛筆、紙 36.6×28.5cm

愛美社油絵素描展覧会、愛知県商品陳列館

購入 93-JD-008

OSAWA Seichiro

Self-Portrait

1919 pencil on paper

Group Exhibition of Aibisha, Nagoya

93-JD-008



9

大沢鉦一郎 1893-1973

婦人像

1919年 鉛筆、紙 38.0×29.0cm

購入 93-JD-009

OSAWA Seichiro

Portrait of a Lady

1919 pencil on paper 38.0×29.0cm

93-JD-009



10

大沢鉦一郎 1893-1973

少女

1919年 コンテ、紙 38.0×29.0cm

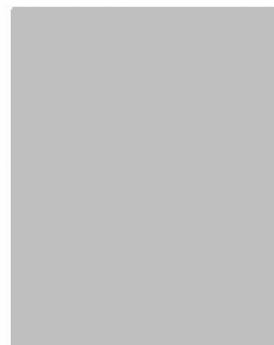
購入 93-JD-010

OSAWA Seichiro

A Girl

1919 conté on paper 38.0×29.0cm

93-JD-010



11

大沢鉦一郎 1893-1973

自画像

1919年頃 鉛筆、紙 39.0×29.0cm

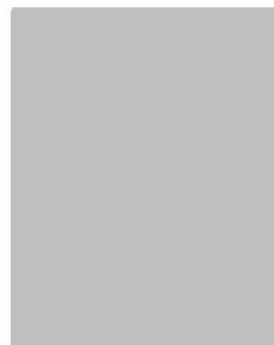
購入 93-JD-011

OSAWA Seichiro

Self-Portrait

c. 1919 pencil on paper 39.0×29.0cm

93-JD-011



12

大沢鉦一郎 1893-1973

その子像

1920年 コンテ、紙 41.1×34.0cm
購入 93-JD-012

OSAWA Seichiro

Portrait of Sonoko

1920 conte on paper 41.1×34.0cm
93-JD-012

13

大沢鉦一郎 1893-1973

婦人像

1920年 鉛筆・木炭・パステル、紙 75.0×58.5cm
購入 93-JD-013

OSAWA Seichiro

Portrait of a Lady

1920 paper, charcoal and pastel on paper 75.0×58.5cm
93-JD-013

14

大沢鉦一郎 1893-1973

少女

1923年 鉛筆・パステル、紙 62.5×47.6cm
購入 93-JD-014

OSAWA Seichiro

Portrait of a Girl

1923 pencil and pastel on paper 62.5×47.6cm
93-JD-014

15

大沢鉦一郎 1893-1973

裸婦

1923年 鉛筆、紙 62.6×47.5cm
購入 93-JD-015

OSAWA Seichiro

Female Nude

1923 pencil on paper 62.6×47.5cm
93-JD-015

16

岸田劉生 1891-1929

薬

1918年 本炭・チョーク、紙 33.5×24.5cm
左上に署名、右上に年記
個展（東京、京橋、日本電報通信社、1919年）
購入 93-JD-016

KISHIDA, Rhusai

Portrait of Shigeru

1918 charcoal, chalk on paper 33.5×24.5cm
signed u.l. and dated u.r.
One-man show, 1919, Tokyo
93-JD-016



17

島田章三 1933

植物園 (B)

1993年 ミクストメディア 109.0×79.0cm
個展（名古屋、丸栄スカイル）
購入 93-JD-017

SHIMADA, Shozo

Botanical Garden B

1993 mixed-media 109.0×79.0cm
One-man show, Nagoya
93-JD-017

18

松本竣介 1912-1948

ニコライ堂

1941年 鉛筆・木炭・インク、紙 37.9×45.5cm
購入 93-JD-018

MATSUMOTO, Shunshuke

St. Nicholas' Church

1941 pencil, charcoal and ink on paper 37.9×45.5cm
93-JD-018



〔立体〕

1

秋山 陽 1953-

Pho II

1990年 黒陶 181.0×47.0×47.0cm
「作法の遊戯」展（水戸芸術館現代美術ギャラリー）
「現代の陶芸 1950-1990」展（愛知県美術館、1993年）
購入 93-JS-001

AKIYAMA Yo

Pho II

1990 Ceramics 181.0×47.0×47.0cm
Group Exhibition, Mito: Contemporary Ceramics 1950-1990,
Aichi Prefectural Museum of Art, 1993
93-JS-001

2

出原次朗 1962-

星虫の死骸

1993年 ミクストメディア 157.0×246.0×25.0cm
「テーマ展示 出原次朗」（愛知県美術館、1993年）
購入 93-JS-002

IZUHARA, Jiro

Carcass of a Star Insect

1993 mixed-media 157.0×246.0×25.0cm
One-man Show, Aichi Prefectural Museum of Art
93-JS-002

3

出原次朗 1962-

逃げるものとはじこめる

1993年 ミクストメディア 247.5×79.0×19.0cm
「テーマ展示 出原次朗」（愛知県美術館、1993年）
作者寄贈 93-JS-003

IZUHARA, Jiro

Imprison Escaper

1993 mixed-media 247.5×79.0×19.0cm
One-man Show, Aichi Prefectural Museum of Art
Gift of the artist 93-JS-003

4

伊藤公象 1932-

木の肉・土の刃II(a)

1993年 磁土、プラチナ

個展(東京、村松画廊)「現代の陶芸 1950-1990」展(愛知県美術館, 1993年)

購入 93-JS-004

ITO, Koshiro

Tree Flesh, Earth Sword II

1993 kaolin and platinum h.15-30cm

One-man show, Tokyo:Contemporary

Ceramics 1950-1990, Aichi Prefectural Museum of

Art, 1993 93-JS-004

5

伊藤公象 1932-

木の肉・土の刃II(b)

1993年 磁土、プラチナ

個展(東京、村松画廊)「現代の陶芸 1950-1990」展(愛知県美術館, 1993年)

作者寄贈 93-JS-005

ITO, Koshiro

Tree Flesh, Earth Sword II

1993 kaolin and platinum c.1500 pieces

One-man show, Tokyo:Contemporary

Ceramics 1950-1990, Aichi Prefectural

Museum of Art, 1993

Gift of the artist 93-JS-005

6

荻原守衛 1879-1910

女の胴

1907年 ブロンズ 44.7×17.0×24.5cm

1993年 岡山美術館所蔵石膏原型より鋳造

購入 93-JS-006

OGIWARA, Morie

Woman's Torso

1907 bronze H.44.5cm

casted in 1993

93-JS-006

7

西村陽平 1947-

Iron Container for Mummified Magazines

1992年 鉄、紙、樹脂、ガラス 200.0×160.0×30.0cm

個展(セッラー小間、東京)「現代の陶芸 1950-1990」展(愛知県美術館, 1993年)

購入 93-JS-007

NISHIMURA, Yohei

Iron Container for Mummified Magazines

1992 Iron, paper, resin and glass 200.0×160.0×30.0cm

One-man Show, Tokyo:Contemporary

Ceramics 1950-1990, Aichi Prefectural

Museum of Art, 1993 93-JS-007

8

野水 信 1914-1984

コの記号 65-3

1965年 鉄 362.7×90.9×90.8cm

第8回日本国際美術展「20世紀愛知の美術」展(愛知県美術館, 1993年)

購入 93-JS-008

NOMIZU, Shin

Sign of a Japanese Character 'コ' 65-3

1965 Steel 362.7×90.9×90.8cm

8th International Art Exhibition, Japan;

20th Century Art in Aichi, Aichi

Prefectural Museum of Art, 1993 93-JS-008

【版画】

1

太田三郎 1884-1969

カフェーの女

1914年 木版、紙 20.7×11.3cm

購入 93-JP-001

OTA, Saburo

A Woman at a Café

1914 woodcut on paper 20.7×11.3cm

93-JP-001

2

小田 襄 1936-

彫刻のイメージ

エッチング、紙

作者寄贈 93-JP-002

ODA, Jo

Image of Sculpture

etching on paper

Gift of the artist 93-JP-002

1 A
1983年 18.0×18.0cm
ed.12/301 A
1983 18.0×18.0cm
ed.12/302 C
1983年 24.0×18.0cm
ed.13/302 C
1983 24.0×18.0cm
ed.13/303 E
1983年 19.5×18.0cm
ed.23/303 E
1983 19.5×18.0cm
ed.23/304 F
1983年 20.0×18.0cm
ed.19/304 F
1983 20.0×18.0cm
ed.19/305 G
1983年 18.0×18.0cm
ed.15/305 G
1983 18.0×18.0cm
ed.15/306 H
1983年 20.0×18.0cm
ed.19/306 H
1983 20.0×18.0cm
ed.19/307 I
1983年 20.0×18.0cm
ed.10/307 I
1983 20.0×18.0cm
ed.10/308 N
1983年 18.0×18.0cm
ed.28/308 N
1983 18.0×18.0cm
ed.28/309 O
1983年 24.0×18.0cm
ed.27/309 O
1983 24.0×18.0cm
ed.27/3010 P
1980年 24.0×18.0cm
ed.28/3010 P
1980 24.0×18.0cm
ed.28/30

3

小田 襄 1936-
円と方形 5つの色
シルクスクリーン・手彩色、紙
作者寄贈 93-JP-003

ODA, Jo
Circle and Square: 5 Colors
silkscreen and colored on paper
Gift of the artist 93-JP-003



1 赤紫
1982年 52.4×44.5cm
ed.47/50

1 Red-Purple
1982 52.4×44.5cm
ed.47/50



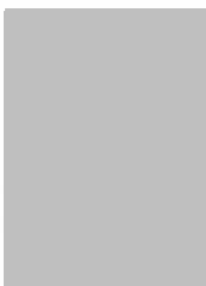
2 紫
1983年 52.5×40.0cm
ed.34/50

2 Purple
1983 52.5×40.0cm
ed.34/50



3 緑黒
1983年 52.5×40.0cm
ed.44/50

3 Green-Black
1983 52.5×40.0cm
ed.44/50



4 群青紫
1983年 52.4×40.0cm
ed.32/50

4 Ultramarine-Purple
1983 52.4×40.0cm
ed.32/50



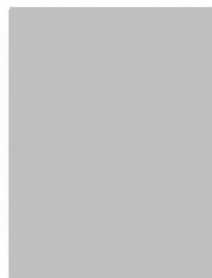
5 朱橙
1982年 50.0×40.0cm
ed.45/50

5 Vermilion-Orange
1982 50.0×40.0cm
ed.45/50

4

小田 襄 1936-
円と方形 10の色
シルクスクリーン・手彩色、紙
作者寄贈 93-JP-004

ODA, Jo
Circle and Square: 10 Colors
silkscreen and colored on paper
Gift of the artist 93-JP-004



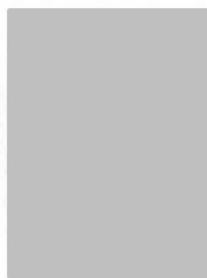
1 濃緑
1983年 51.7×40.0cm
ed.48/50

1 Dark Green
1983 51.7×40.0cm
ed.48/50



2 赤朱
1982年 42.2×40.0cm
ed.45/50

2 Red-Vermilion
1982 42.2×40.0cm
ed.45/50



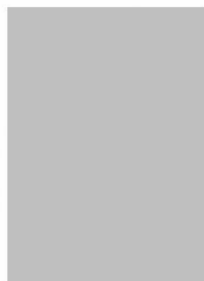
3 青紫
1983年 52.5×40.0cm
ed.48/50

3 Blue-Purple
1983 52.5×40.0cm
ed.48/50



4 青灰
1983年 55.9×40.3cm
ed.48/50

4 Blue-Gray
1983 55.9×40.3cm
ed.48/50



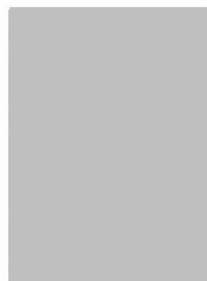
5 赤紫
1983年 55.2×40.0cm
ed.47/50

5 Red-Purple
1983 55.2×40.0cm
ed.47/50



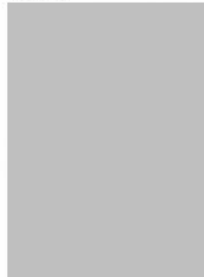
6 桃紫
1976年 51.8×40.0cm
ed.49/50

6 Peach-Purple
1976 51.8×40.0cm
ed.49/50



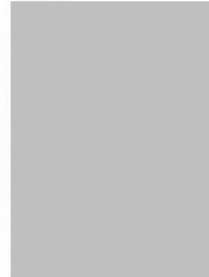
7 黄赤
1983年 54.0×41.3cm
ed.45/50

7 Yellow-Red
1983 54.0×41.3cm
ed.45/50



8 藍緑
1983 42.6×40.0cm
ed.40/50

8 Indigo-Green
1983 42.6×40.0cm
ed.40/50



9 赤桃
1982年 52.7×40.0cm
ed.49/50

9 Red-Peach
1982年 52.7×40.0cm
ed.49/50



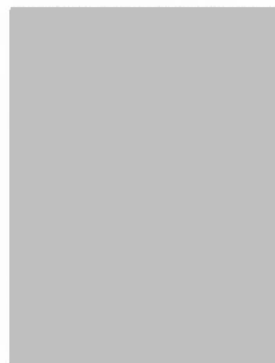
10 黄赤
1983年 54.3×42.5cm
ed.44/50

10 Yellow-Brown
1983年 54.3×42.5cm
ed.44/50

5

小野忠重 1909-1990
燈台の道
1951(1971)年 木板、紙 60.0×45.5cm
93-JP-005

ONO, Tadashige
Way to a Lighthouse
1951(1971) woodcut on paper 60.0×45.5cm
93-JP-005



6

小野忠重 1909-1990
廣島の水
1959年 木板、紙 60.5×45.5cm
ed.8/10
購入 93-JP-006

ONO, Tadashige
A River in Hiroshima
1959 woodcut on paper 60.5×45.5cm
ed.8/10
93-JP-006



■海外作家

〔絵画〕

1 マルケ、アルベール 1875-1947 ノートルダムの後陣

1902年 油彩、麻布 55.2×46.0cm
右下に署名、年記
購入 93-FO-001

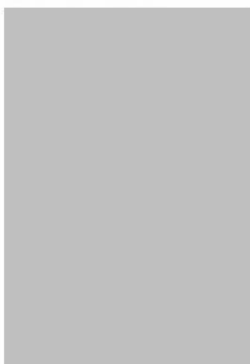
MARQUET, Albert
Apse of the Notre-Dame (L'Apside de Notre-Dame)
1902 oil on canvas 55.2×46.0cm
signed and dated l.r.
93-FO-001



2 ラインハート、アド 1913-1967 No.114

1950年 油彩、麻布 152.4×102.0cm
購入 93-FO-002

REINHARDT, Ad
No.114
1950 oil on canvas 152.4×102.0cm
93-FO-002



3 フランシス、サム 1923-1994 消失にむかう地点の青

1958年 油彩、綿布 182.8×238.7cm
購入 93-FO-003

FRANCIS, Sam
Blue on a Point towards Disappearance
1958 oil on canvas 182.8×238.7cm
93-FO-003

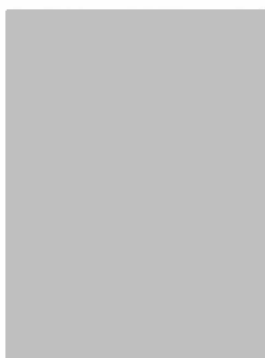


〔立体〕

1 ダイン、ジム 1935- 芝刈機

1962年 ミクストメディア
購入 93-FS-001

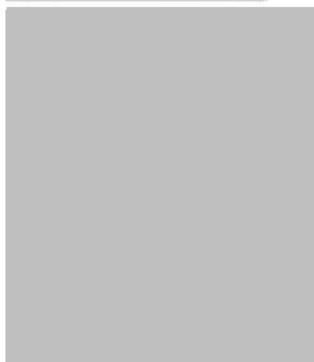
DINE, Jim
Lawnmower
1962 mixed-media
93-FS-001



2 コルヴィッツ、ケーテ 1867-1945 恋人たち II

1913年 ブロンズ 71.0×47.0×49.0cm
購入 93-FS-002

KOLLWITZ, Käthe
Lovers II (Liebespaar II)
1913 bronze 71.0×47.0×49.0cm
93-FS-002



〔版画〕

1 ディックス、オットー 1891-1969 戦争

1924年 エッチング・アット・ポイント・ドライ・ポイント、紙 35.5×47.5cm(シート)
93-EP-001

DIX, Otto
The War (Der Krieg)
1925 etching, aquatint and drypoint on paper 35.5×47.5cm(Sheet)
93-EP-001



1 前線兵士の墓
19.3×28.9cm

1 Soldiers' Grave between the Lines
(Soldatengrab zwischen den Linien)
19.3×28.9cm



2 生き埋め (1916年1月、シャンパーニュ)
14.0×19.7cm

2 Buried alive: January 1916, Champagne
(Verschüttet: Januar 1916, Champagne)
14.0×19.7cm



3 毒ガス死(タンブルール＝ラ＝フォックス、1916年8月)
19.4×28.9cm

3 Gas Victims: Templeux-La-Fosse, August 1916
(Gastote: Templeux-La-Fosse, August 1916)
19.4×28.9cm



4 照明弾に照らされたドントリオン近郊の弾痕
19.5×26.0cm

4 Crater Field near Dontrien, lit by Flares
(Trichterfeld bei Dontrien, von Leuchtkugeln erhellt)
19.5×26.0cm



5 馬の屍
14.5×19.7cm

5 Horse Cadaver
(Pferdekadaver)
14.5×19.7cm



6 負傷者 (1916年秋、バポム)
19.7×29.0cm

6 Wounded Man, Autumn 1916, Bapaume
(Verwundeter, Herbst 1916, Bapaume)
19.7×29.0cm



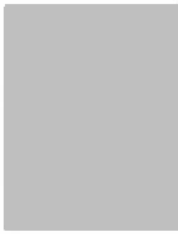
7 ランゲマルク近郊 (1918年2月)
24.7×29.3cm

7 Near Langemark, February 1918
(Bei Langemark, Februar 1918)
24.7×29.3cm



8 通信所 (シャンパーニュ、秋の戦い)
14.8×19.8cm

8 Relay Post, Autumn Battle in Champagne
(Relaisposten, Herbstschlacht in der Champagne)
14.8×19.8cm



9 崩壊した塹壕
30.0×24.4cm

9 Disintegrating Trench
(Zerfallender Kampfgraben)
30.0×24.4cm



11 ヌーヴィル近郊の忘れ果てた場所
19.7×14.6cm

11 Abandoned Position near Neuville
(Verlassene Stellung bei Neuville)
19.7×14.6cm



13 塹壕での食事 (ロレット高地)
19.6×29.0cm

13 Mealtine in the Trench, Loretto Heights
(Mahlzeit in der Sappe, Loretthöhe)
19.6×29.0cm



15 ヴィゼン＝アルトワ近郊の忘れ果てた場所
19.6×26.0cm

15 Abandoned Position near Vis-en-Artois
(Verlassene Stellung bei Vis-en-Artois)
19.6×26.0cm



17 照明弾に照らされたモナキュ農場
14.8×19.8cm

17 Flare illuminates the Monacu-ferme
Leuchtkugel erhellt die Monacu-Ferme
14.8×19.8cm



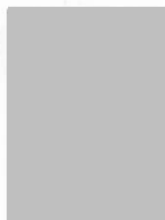
10 逃走の負傷兵 (1916年、夏の戦い)
19.7×14.0cm

10 Wounded Man fleeing, Summer Battle, 1916
(Fliehender Verwundeter, Sommerschlacht 1916)
19.7×14.0cm



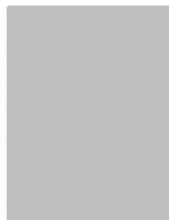
12 突撃隊、毒ガスの中を前進
19.6×29.1cm

12 Shock Troops advance under Gas
(Sturmtruppe geht unter Gas vor)
19.6×29.1cm



14 休息する中隊
26.0×19.8cm

14 Resting Company
(Ruhende Kompanie)
26.0×19.8cm



16 鉄条網の屍 (フランドル)
30.0×24.3cm

16 Corpse in barbed wire, Flanders
(Leiche im Drahtverhau, Flandern)
30.0×24.3cm



18 死せる対壕哨
19.8×14.7cm

18 Dead Sentry in the Trench
(Toter Sappenposter)
19.8×14.7cm



19 1917年の死の舞踏 (死した者たちの丘)
24.5×30.0cm

19 Dance of Death 1917, Dead Man's Hill
(Totentanz anno 17, Höhe toter Mann)
24.5×30.0cm



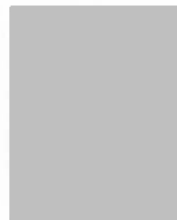
21 戦い疲れた部隊が戻る (ソムの戦い)
19.8×28.9cm

21 Battle-weary troops retreat, battle of the Somme
(Abgekämpfte Truppe geht zurück, Sommeschlacht)
19.8×28.9cm



23 ぬかるみの死者
19.5×25.8cm

23 Dead Man in the Mud
(Toter im Schlamm)
19.5×25.8cm



25 ランゲマルクの廃墟
30.0×24.6cm

25 The Ruins of Langemarck
(Die Truemmer von Langemarck)
30.0×24.6cm



27 ウィチャート平野の夕暮れ (1917年11月)
24.6×30.0cm

27 Evening on the Wijtschaete Plain, November 1917
(Abend in der Wijtschaete-Ebene, November 1917)
24.6×30.0cm



20 第二中隊、今夜交代予定
19.8×25.8cm

20 The second Company will be relieved tonight
Die zweite Kompanie wird heute Nacht abgelöst
19.8×25.8cm



22 狂人との夜の遭遇
26.2×19.7cm

22 Nocturnal Encounter with a Lunatic
(Nächtliche Begegnung mit einem Irren)
26.2×19.7cm



24 花咲く弾坑 (1916年早春)
14.8×19.8cm

24 Shell Crater with Flowers, Spring 1916
Granattrichter mit Blumen, Fruehling 1916
14.8×19.8cm



26 戦死兵
19.8×14.8cm

26 Dying Soldier
(Sterbender Soldat)
19.8×14.8cm



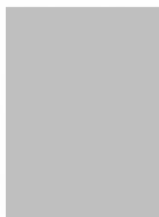
28 クレリー＝シュル＝ソムの斜面
26.0×19.6cm

28 Seen on the Escarpment at Clery-sur-Somme
(Gesehen am Steilhang von Clery-sur-Somme)
26.0×19.6cm



29 塹壕にて発見 (オーブリウ)
19.5×29.0cm

29 Found while digging a Trench, Auberville
Gefunden beim Grabendurchstich, Auberville
19.5×29.0cm



30 塹壕の前の鉄条網
26.0×19.5cm

30 Tangled barbed Wire before the Trench
(Drachtverhau vor dem Kampfgraben)
26.0×19.5cm



39 破壊した家 (トゥルネー)
29.8×24.4cm

39 House destroyed by aerial Bomb, Tournai
(Durch Fliegerbomben zerstörtes Haus)
29.8×24.4cm



40 皮膚移植
19.8×14.9cm

40 Skin Graft
(Transplantation)
19.8×14.9cm



31 きれこうべ
25.7×19.5cm

31 Skull
(Schädel)
25.7×19.5cm



32 アンントウェルベンの船員たち
24.5×30.0cm

32 Sailors in Antwerp
(Matrosen in Antwerpen)
24.5×30.0cm



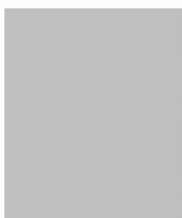
41 機関銃小隊、前進 (ソンム、1916年11月)
24.5×30.0cm

41 Machine gun Squad advances, Somme, November 1916
(Maschinengewehrzug geht vor, Somme, November 1916)
24.5×30.0cm



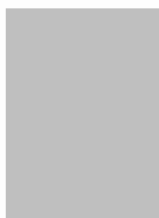
42 戦死者 (サン＝クレマン)
29.9×25.9cm

42 Dead Man, Saint-Clement
(Toter, Saint-Clement)
29.9×25.9cm



33 ランス市街、爆撃さる
29.8×24.6cm

33 Lens being bombed
Lens wird mit Bomben belegt
29.8×24.6cm



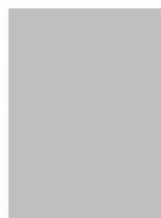
34 ブリュッセルの前線兵
28.8×19.8cm

34 Front-line Soldier in Brussels
Frontsoldat in Brüssel
28.8×19.8cm



43 ビルケム近郊の食事番
24.5×29.8cm

43 Ration Carriers near Pilkem
Essenholer bei Pilkem
24.5×29.8cm



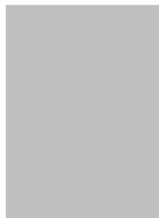
44 潜行斥候の奇襲
20.0×15.0cm

44 Surprise attack
Überfall einer Schleichpatrouille
20.0×15.0cm



35 サント＝マリ＝ア＝ピの狂女
28.8×19.8cm

35 The Madwoman of Sainte-Marie-à-Py
Die Irrsinnige von Sainte-Marie-à-Py
28.8×19.8cm



36 メリクールでマダム・ジェルメールを訪問
26.1×19.8cm

36 Visit to Madame Germaine's in Mericourt
(Besuch bei Madame Germaine in Mericourt)
26.1×19.8cm



45 地下壕
19.8×29.0cm

45 Foxhole
(Unterstand)
19.8×29.0cm



46 ヴェヌヌの眠れる者たち (毒ガス死)
24.8×29.8cm

46 The Sleeper of Fort Vaux: Gas Victims
Die Schlafenden von Fort Vaux: Gastote
24.8×29.8cm



37 アブランクールのレストラン
19.8×25.9cm

37 Canteen in Hapincourt
(Kantine in Hapincourt)
19.8×25.9cm



38 撃ち抜かれた者
14.9×20.1cm

38 Shot to Pieces
(Zerschossene)
14.9×20.1cm



47 フトゥルストの森の負傷兵運び
19.8×25.4cm

47 Transporting the Wounded in Houthulst Forest
Verwundetentransport im Houthulster Wald
19.8×25.4cm



48 月曜時、夜半の砲撃を継続すべし
24.7×30.0cm

48 The Outposts in the Trenches must maintain
the Bombardement at Night
Die Sappeposten haben nachts das Feuer zu unterhalten
24.7×30.0cm



49 帰還兵の点呼
19.8×28.8cm

49 Roll Call of returning Troops
Apell der Zurückgekehrten
19.8×28.8cm



50 タヌール近郊の戦死者
19.7×25.8cm

50 Dead Men before the Position near Tahure
Tote vor der Stellung bei Tahure
19.7×25.8cm

2 マルクーシ、ルイ 1883-1941

ギヨーム・アポリネールの肖像

1912-20年 トライポイント・アクアチント、紙 49.5×27.8cm(イメージ)

右下に署名・年記 ed. 22/30

購入 93-FP-002

MARCOUSSIS, Louis

Portrait of Guillaume Apollinaire (Portrait du Guillaume Apollinaire)

1912-20 drypoint and aquatint on paper 49.5×27.8cm (image)

signed and dated l.r. ed. 22/30

93-FP-002



愛知県美術館では20世紀の美術をコレクション形成の基本方針としているが、企画展に関してはコレクションの性格に沿ったものを中心にしつつ、幅広い時代・分野のものを取り上げることにしている。1993年度には、そうしたことを念頭におきつつ7本の企画展を開催した。日本の近代美術では安田靫彦や戸張孤雁らを、日本の現代美術では現代陶芸を取り上げた。また、西洋の20世紀美術では、パウル・クレーとフランティシェク・クプカを紹介した。とりわけ後者は抽象絵画のパイオニアのひとりとして美術史上重要な画家でありながら日本では馴染みが薄かった作家であるが、わが国ではじめて彼の画業をまとめたかたちで紹介した。さらに、コレクションの枠を超えて美術史の流れを紹介する企画展の一環として、バロック・ロココの絵画を紹介した。

一覧表（平成4年度まで）

Temporary exhibitions held until fiscal 1993

回数	展覧会名
	(1992年度)
1	フォーヴィスムと日本近代洋画 Fauvism and Modern Japanese Painting
2	近代の日本画—西洋との出会いと対話— Nihonga—Traditional-style Modern Japanese Painting—
3	20世紀 愛知の美術 20th Century Art in Aichi
	(1993年度)
4	パウル・クレーの芸術 Paul Klee Retrospective
5	小川芋銭展 Ogawa Usen Retrospective
6	現代の陶芸 (1950—1990) Contemporary Ceramics 1950—1990
7	安田靫彦展 Yasuda Yukihiro Retrospective
8	リール市美術館所蔵 バロック・ロココの絵画 From Veronese to Goya: Paintings and Drawings from Palais des Beaux-Arts of Lille
9	戸張孤雁と大正期の彫刻 Tobari Kogan and Modern Japanese Sculpture
10	クプカ展 František Kupka

パウル・クレーの芸術

Paul Klee Retrospective

会期：1993年4月2日(金)～5月23日(日)

主催：愛知県美術館、中日新聞社、東海テレビ放送、東海ラジオ放送

後援：スイス大使館、愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会、JR東海

協賛：安田火災

協力：スイス航空

観覧料：一般1100(900)円／高校・大学生800(600)円

小・中学生500(300)円

() 内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：103,239人(45日間：1日平均2,294人)

出品点数：油彩57点、水彩・素描など194点、版画21点、合計272点

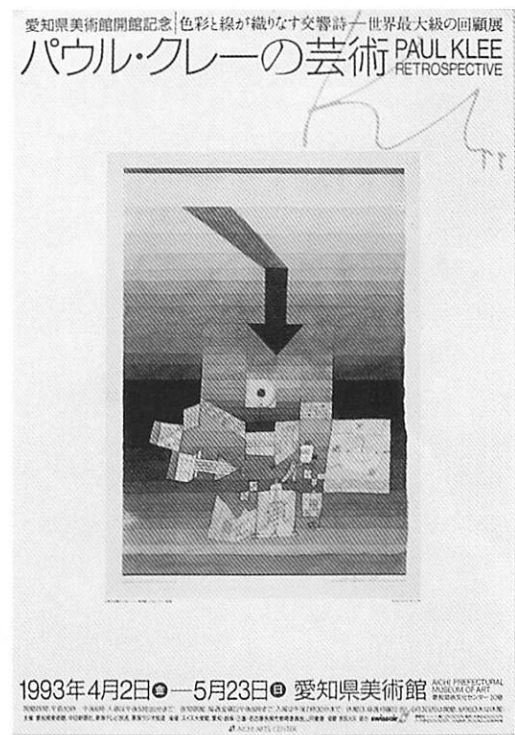
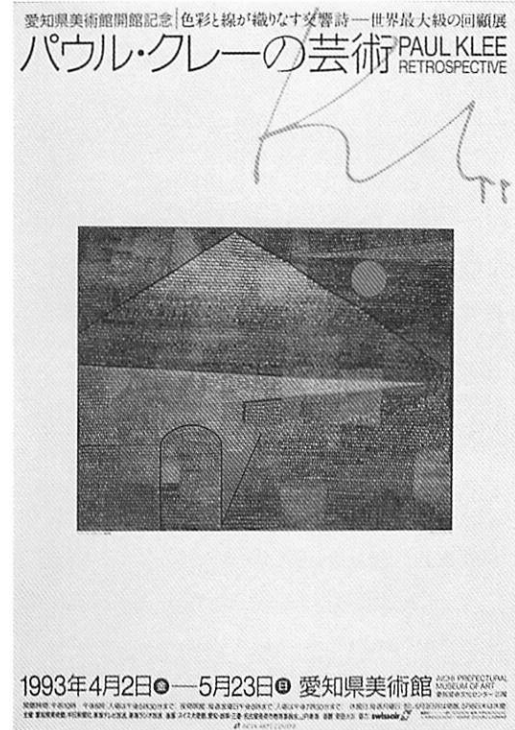
担当：寺門臨太郎／拝戸雅彦

今世紀前半の美術史のうえで最も重要な画家のひとりであるパウル・クレー (1879-1940) の日本での展覧会は、1961年にベルン美術館とクレー財団の管理下にある作品100点をもって紹介されて以来、1969年、1976年、1990年に各々クレー家が所蔵する作品によって開催されてきた。また、1980年には、クレー家のほかベルン美術館、クレー財団、ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館の作品を中心とした大規模な回顧展が行われた。

1993年の回顧展「パウル・クレーの芸術」は、従来日本での展覧に寄与した上記各所蔵先のほか、ミュンヘン市立レンバウハウス美術館、メトロポリタン美術館、ローゼンガルト・コレクションなど欧米の主要コレクションとスイス国内の個人所蔵家のもとにある作品に加え、日本国内にある作品も含み、1987-88年に、ニューヨーク近代美術館やベルン美術館で開催された回顧展に匹敵する規模と質をもつことが企図された。全体は、クレーの芸術がもつ豊かにして自在な様式の変遷に対応できるように、1899-1910年、1911-1914年、1914-1920年、1921-1924年、1925-1931年、1931-1933年、1934-1936年、1937-1940年の8章に分けられて構成された。さらにまた、これまで比較的その色彩の豊饒さに目が向けられがちであったことを踏まえて、素描の割合を増やすことによって彼の線描家としての位置も再確認することも目的とされた。

結果的に、地元新聞社による大々的な広報活動も手伝って、入館者数もほぼ予想に近いほどまで伸び、また272点という作品を少しの窮屈さを感じさせずに展示できる美術館として、内外にアピールすることもでき、美術関係者にも好評を得た。一方で、予め作品選定に片寄りがあったこと、回顧展と唱いながら欧米公立館への包括的な出品依頼を怠ったこと、さらにカタログも大部であった割に資料的側面から見て不満の残る内容であったことなど、大いに反省を促される点も多い。

制作年次別のカタログ・レゾネを準備中のクレー財団への財政的援助をきっかけとして出発したこの展覧会のプランは、クレー家、クレー財団、及びその学芸員たちと当館担当者とのあいだに生まれた相互信頼による望ましい協力関係によって開催実現へと漕ぎつけた。とくにクレー財団学芸員とのそうした関係は、現在もなお継続しており、ひとつの展覧会の開催という目的を達成したこと以上に、貴重な財産を得ることができたと言える。



カタログ：A4判変形（29.9×26.6センチ） 368頁

本文 序論（ヨーゼフ・ヘルフェンシュタイン、寺門臨太郎訳）

クレーとピカソ（ヴェルナー・シュマーレンバッハ、拝戸雅彦訳）

クレーと近代芸術—クレーの造形思考とフィードラーの芸術論をめぐって—（斎藤郁夫）

クレーと日本：受容の端緒（寺門臨太郎）

図版／Plates

章解説（ヨーゼフ・ヘルフェンシュタイン、寺門・拝戸・斎藤分担翻訳）

作品リスト／List of Work

クレーの著作解題（拝戸雅彦編）

クレーの年譜（拝戸雅彦編）

Selected Bibliography (Irene Rehmann)

邦語文献目録（寺門臨太郎編）

Exhibition History (Irene Rehmann)

Exhibition History inside Japan

(Rintaro Terakado)

展覧会歴（寺門臨太郎編）

Einleitung (Josef Helfenstein)

Klee und Picasso (Werner Schmalenbach)

Klee and Modern Art : Klee's Ideas on Form Considered in Terms of Fiedler's Theory of Art (Ikuo Saito, translated by Stanley N. Anderson)

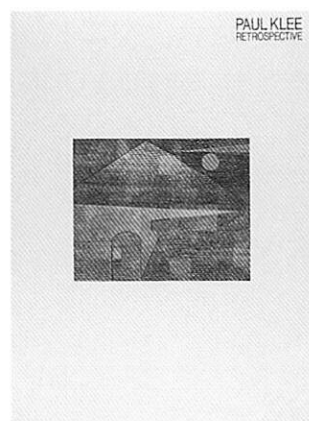
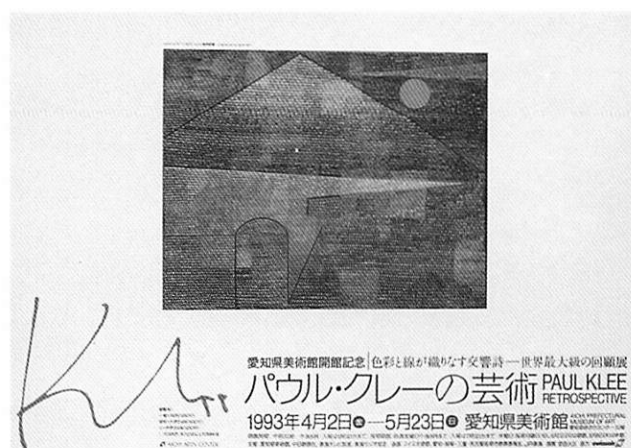
Klee in Japan : the Beginning of his Reception (Rintaro Terakado, translated by Stanley N. Anderson)

編集 愛知県美術館（寺門臨太郎／拝戸雅彦）

山口県立美術館（斎藤郁夫）

制作 印象社

発行 愛知県美術館、中日新聞社



カタログ表紙

展覧会巡回先：●山口県立美術館

(1993年6月1日～7月25日、入場者数：
35,470人)

●Bunkamuraザ・ミュージアム

(1993年7月31日～9月21日、入場者数：
140,784人)

関連行事

1) 第1回記念講演会：4月3日(土)

講師：アレクサンダー・クレー氏

(パウル・クレー財団理事長)

ヨーゼフ・ヘルフェンシュタイン氏 (同主任研究員)

2) 第2回記念講演会：4月24日(土)

講師：前田富士男氏 (慶應義塾大学教授)

主要関連記事

《定期刊行物》

長田謙一：「『新しい天使』の誕生、カタストローフの中から」

『藝術公論』1993年第10巻第2号 (4月号)

西村勇春：「クレーと画商たち」

『藝術公論』1993年第10巻第2号 (4月号)

篠田達美：「美術の四季、パウル・クレー展」

『三田文学』1993年第72巻第34号 (夏季号)

《新聞》

松尾葉子：「バラの園」

(美のハーモニー、[パウル・クレーの芸術]展1)

『中日新聞』1993年4月5日付夕刊。

笠井誠一：「蛮族の将軍」

(美のハーモニー、[パウル・クレーの芸術]展2)

『中日新聞』1993年4月6日付夕刊。

楠田枝里子：「わずかばかりの友情」

(美のハーモニー、[パウル・クレーの芸術]展3)

『中日新聞』1993年4月7日付夕刊。

寺門臨太郎：「雄鶏と近衛兵」

(美のハーモニー、[パウル・クレーの芸術]展4)

『中日新聞』1993年4月8日付夕刊。

須田 寛：「死と浄火」

(美のハーモニー、[パウル・クレーの芸術]展5)

『中日新聞』1993年4月9日付夕刊。

千足伸行：「当惑する場所」

(美のハーモニー、[パウル・クレーの芸術]展6)

『中日新聞』1993年4月10日付夕刊。

東 俊郎：「高分子化された世界—『パウル・クレーの芸術』展」

(展覧会評)

『朝日新聞』(地方版)1993年4月16日付夕刊。

木村重信：「現代の幻想、クレーの『パルナッソスへ』」

『信濃毎日新聞』1993年5月3日付朝刊。

小川芋銭展

Ogawa Usen Retrospective

会期：1993年6月4日(金)ー7月4日(日)

主催：愛知県美術館、東京国立近代美術館、日本経済新聞社、
テレビ愛知

後援：JR東海

協賛：興亜火災海上保険

観覧料：一般800(600)円／高校・大学生600(400)円

小・中学生300(200)円

()内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：26,106人(27日間：1日平均966人)

出品点数：日本画86点

担当：牧野研一郎／深山孝彰

小川芋銭は、大正期から昭和10年代にかけて独特の水墨表現による作品を描き続け、近代の日本画の中でも特異な位置を占める画家である。慶応4年(1868)に牛久藩大目付の長男として江戸に生まれた芋銭は、数え14歳の明治14年(1881)から18年まで本多錦吉郎の洋画塾彰技堂に学んだ。そして23歳の同23年(1890)から『朝野新聞』に挿絵や漫画を描き始め、父の厳命により同26年から牛久で農業を営みながらも『茨城新聞』や『平民新聞』などに漫画や挿絵を送った。その一方日本画にも取り組んだ芋銭は、大正4年(1915)川端龍子らと珊瑚会を結成し、横山大観や小杉未醒らに認められて同7年日本美術院同人となり、昭和13年(1938)に亡くなるまで、河童伝説のある牛久沼や農村などの自然や風土に向き合いながら、自己の美術世界を広げ、高めていった。

「近代日本画の異才ー自然と精霊との語らい」とサブタイトルをつけた本展は、出品作品を水墨を主とする日本画に限り、厳選した80点の作品によって、芋銭の芸術の粋を展覧しようとするものであった。

構成は、制作年代等による区分ではなく、芋銭の作品の主題を以下の5つに分類して、その芸術世界の特質と広がりを紹介しようとした。

- I 水魅山妖
- II 田園風景
- III 玄妙の自然
- IV 桃花源
- V 河童百図

Iは《若葉に蒸さる本精》《水魅戯》《畑のお化け》など、「山水に於ける自由の象徴」として芋銭が空想を働かせた、軽妙さのなかに時として妖しくもある妖怪たちの世界。IIは《夕風》《積雨収》など、自然と人間とが融和するのどかな農村の生活風景。IIIは《太古香》《海島秋来》など、厳粛で奥深い神秘感をもつ自然。IVは理想境としての《桃花源》や中国の神仙図。Vは芋銭が愛してやまず、自己の分身でもあった河童を最晩年

にまとめて描いた『河童百図』からのものである。この構成は成功したものと思われる。

本展は東京国立近代美術館が主体となって組織したものであったが、当館では初めての日本画家回顧展として、新しい来館者層を集めることともなった。また会期終了後、本展にも多数のご出品をいただいた所蔵家から作品の寄託を受けることができたことも、当館の施設と人員に対する信頼が得られたものとして喜ぶたい。



カタログ：カタログ：A4判変型 27.9×22.5cm 202頁

本文 小川芋銭 自然との語らい (尾崎正明)

小川芋銭 自然との語らい

(英文、Translated by Keiko Katsuya)

図版

出品目録

落款・印章

年譜

主要参考文献

出品作品一覧

編集 東京国立近代美術館

尾崎正明／田中淳／水谷長志

デザイン・制作 印象社

発行 日本経済新聞社

展覧会巡回先：東京国立近代美術館

(1993年4月8日－5月16日、入場者数：34,870人)

関連行事

1) 記念講演会「小川芋銭 自然との語らい」6月12日(土)

講師：尾崎正明氏 (東京国立近代美術館主任研究官)

主要関連記事

《新聞》

牧野研一郎：「自然との交感の世界へー小川芋銭展ー」

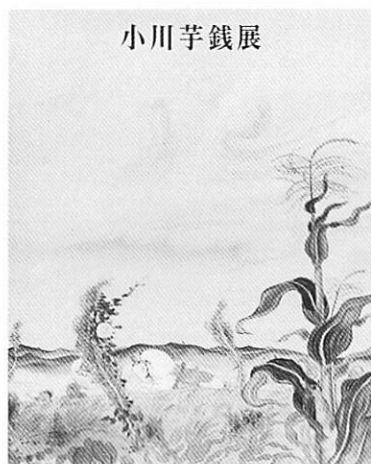
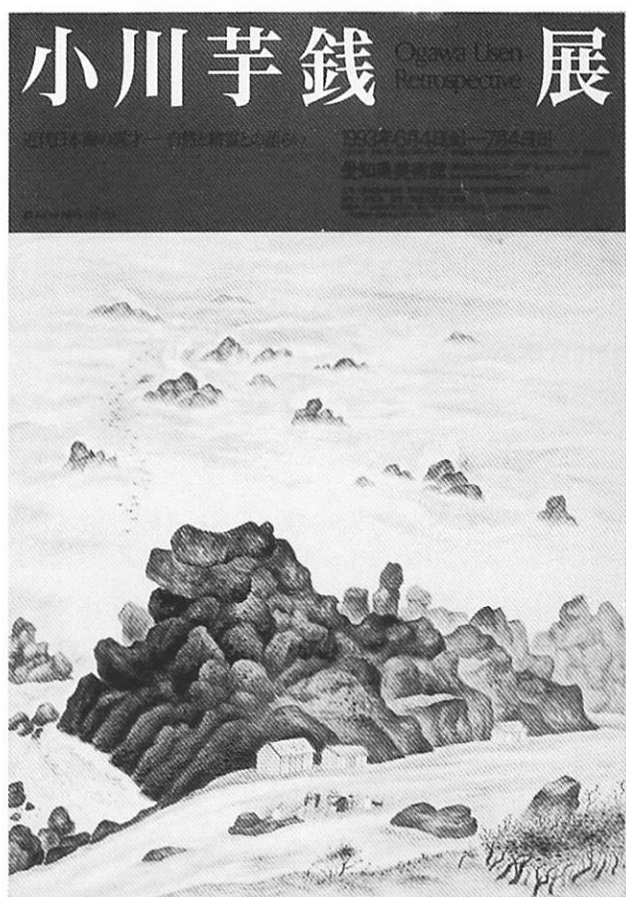
『日本経済新聞』5月8日朝刊

小川潔：「展覧会訪問ー小川芋銭展ー」

『名古屋タイムズ』6月3日

山脇一夫：「自然と人を結ぶー小川芋銭展ー」

『日本経済新聞』6月18日



カタログ表紙

現代の陶芸(1950~1990)

Contemporary Ceramics=1950~1990=

併催：愛知の古陶 猿投・瀬戸 本多コレクション

会期：1993年7月16日(金)～8月22日(日)

主催：愛知県美術館、愛知県陶磁資料館

後援：朝日新聞社、JR東海

観覧料：一般800(600)円／高校・大学生600(400)円

小・中学生300(200)円

() 内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：13,153人 (33日間：1日平均398人)

出品点数：立体99点

担当：牧野研一郎／長屋菜津子

浅田員由／唐沢昌宏 (愛知県陶磁資料館)

現代陶芸の源流のひとつに八木一夫を中心とする走泥社の運動がある。戦後の混乱期の京都で生まれた陶芸団体走泥社は、当初陶芸界の因習打破を目的としたが、次第に「用の美」という工芸の美意識から離れ、伝統的陶芸分野からは独立した展開を示すようになった。当時「オブジェ焼き」と称されたように、土と炎による立体造形として、絵画や彫刻などの現代美術の動向と接近した性格を持つものとなっていたのである。さらにこの時期、海外の抽象的陶芸の動向も紹介され、造形芸術としての作陶の試みが、一層多くの陶芸家によって行われることになった。

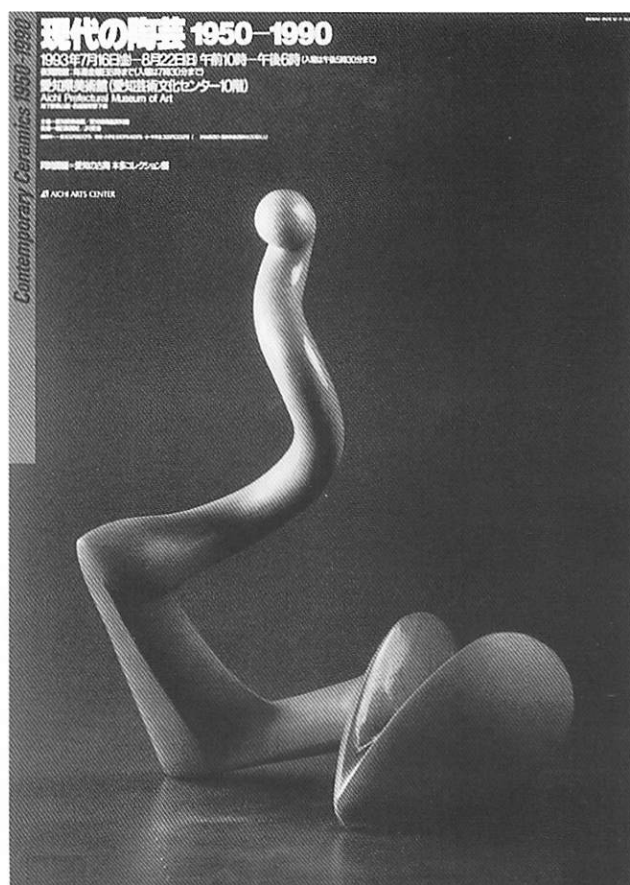
現在では、従来の陶芸概念にまったく囚われることなく、純粹に現代美術の技法材料として「土」ないしは「炎」を受け入れている作家も生まれてきている。また彼らの活動は現代美術の中においても、注目に値するものである。

この展覧会は、この流れを「現代の陶芸」というひとつの分野としてとらえ、走泥社を中心とした1950年代の動向から今日まで、約40年間の急激な展開の軌跡を検証し、今後の可能性を探るために企画された。全体の展示は4章で構成され、第1章では辻晉堂、八木一夫、熊倉順吉、藤平伸、山田光、鈴木治の作品、第2章では荒木高子、林康夫、加藤清之、坪井明日香、森野泰明、柳原睦夫、宮永理吉、林秀行の作品、第3章では伊藤公象、三島喜美代、佐藤敏、鯉江良二、笹山忠保、中村錦平、三輪輪作、金子潤、栗木達介の作品、第4章では寄神宗美、土門邦勝、星野暁、西村陽平、中村康平、杉浦康益、九谷葛枝、秋山陽、清水榎博、井上雅之、重松あゆみ、田島悦子の作品を取り上げた。

この分野をテーマとした展覧会は、これが初めてではないが、関係者からは高い評価を得た。新聞等の展評にも「なぜ土なのか」といった問題提起が見られ、「陶芸とは何か」という問いかけは十分にできたと考えている。また、この展覧会に出品した現存作家のうち、その後の活動に、明かな変化が認められる作家もいる。

しかし、全体として入場者数が少なかったことが示すように、この分野への関心を呼び起こせなかったこと、工芸としての陶芸が盛んなこの愛知県において、県内からの反響が少なかったこと等、問題点も残した。

なおこの展覧会には、本多静雄氏の猿投窯関係全資料の愛知県陶磁資料館へ寄贈を顕彰し、古代の猿投窯とその後継である中世の瀬戸窯の歴史を本多氏寄贈資料104点によって紹介する「愛知の古陶 猿投・瀬戸 本多コレクション展」が併催された。



カタログ：A4判変形（30.0×22.5cm） 128頁

本文 現代陶芸の展開（鈴木健二）

現代陶芸の展開（英文、S.N.Anderson訳）

図版・章解説（牧野研一郎、浅田員由、唐沢昌宏）

作家略歴（牧野、唐沢、長屋菜津子）

出品目録

出品目録（英文）

編集 愛知県美術館 牧野研一郎／長屋菜津子

愛知県陶磁資料館 浅田員由／唐沢昌宏

表紙デザイン 岡本滋夫

制作 印象社

発行 愛知県美術館

関連行事

1) 第1回記念講演会 7月24日(土)

講師：鈴木健二氏（美術評論家）

2) 第2回記念講演会 8月7日(土)

講師：中村錦平氏（陶芸家、多摩美術大学教授）

「愛知の古陶 本多コレクション」展記念講演会 8月6日(金)

講師：本多静雄氏（美術品収集家）

主要関連記事

《定期刊行物》

鈴木 治：「現代の陶芸 壺の口を閉じたときから…」

『月刊美術』1993年7月号

無署名：「現代の陶芸 1950-1990」

『書道界』1993年8月号

無署名：「移りゆく時代の中で」

『食器』No.142（1993年 秋）

《新聞》

井上隆生：「現代の陶芸の40年史」

『朝日新聞』（地方版）1993年7月24日夕刊

O生：「変革への息吹力強く—現代の陶芸—」

『京都新聞』1993年7月31日朝刊

石井洋次：「現代陶芸の一つの流れ概観」

『読売新聞』（地方版）1993年8月5日朝刊

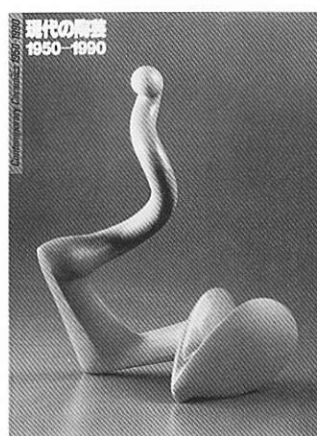
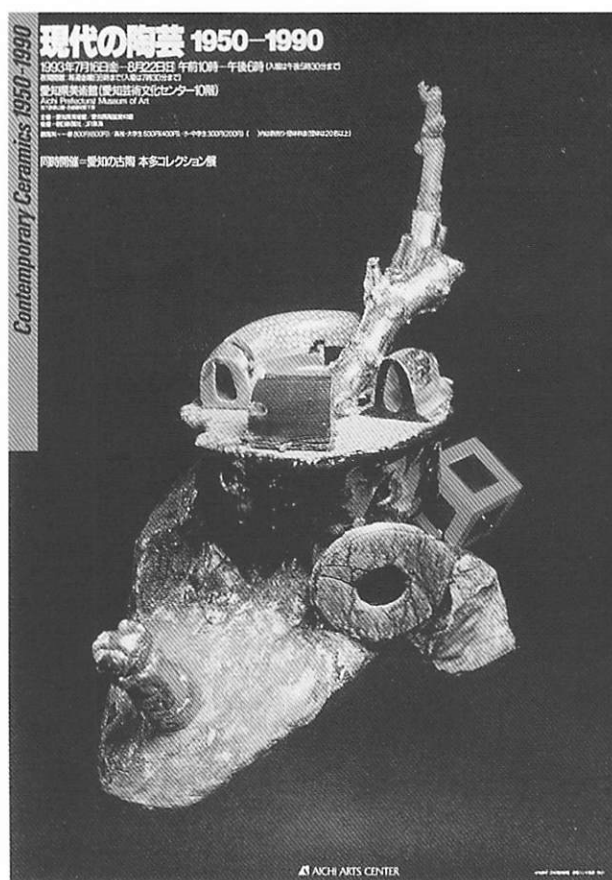
山脇一夫：「芸術性追究の軌跡—現代の陶芸展—」

『日本経済新聞』（地方版）1993年8月6日夕刊

三頭谷鷹史：「現代陶芸の弛緩」

『朝日新聞』（地方版）1993年10月1日夕刊

CASSIM(Julia), "Contemporary Ceramics on Goldenage",
Japan Times, August 8, 1993.



カタログ表紙

安田靫彦展

Yasuda Yukihiro Retrospective

会期：1993年9月3日(金)～10月17日(日)

主催：愛知県美術館、中日新聞社、中部日本放送

後援：JR東海、愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会

観覧料：一般1,000(800)円／高校・大学生600(400)円

小・中学生400(200)円

()内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：43,003人(39日間：1日平均1,102人)

出品点数：絵画97点、書1点、素描23点、合計121点

担当：村田真宏／木本文平

安田靫彦(1884-1978)は、中国や日本の古美術の研究を基礎として、これに西洋の近代的な造形感覚を積極的に取入れ、日本画の表現に一つの方向性を確立した画家として近代美術史上に重要な位置を占めている。その画業は明治30年代前半の日本画研究団体である紫紅会、紅児会の中心的なメンバーとしての活動や初期院展への出品に始まり、戦後の院展を中心にした活動まで約80年という長期にわたっている。彼は特に歴史画の表現を得意とし、大和絵を基礎として理知的で高雅な画風を完成し、小林古径や前田青邨などとともに昭和期前半のいわゆる日本画の新古典主義を代表する画家として注目すべき作品を世に送った。戦後は、その表現に明快さを加えてさらに円熟した画風へと深まりをみせた。

この展覧会は、愛知県美術館が企画展開催の基本的な方針の一つとしている近代日本美術の重要な美術家の回顧展として位置づけられるものであり、日本画家としては小川芋銭展に続いての開催であった。ここで靫彦を取りあげたのは、先にも触れたように近代日本画の確立に深く関わった画家であり、その芸術性も高く評価すべきものであったためである。また、中部地方では生前に一度だけ名古屋市内の百貨店で回顧展が開催されただけであり、この地方でまとまって彼の作品を紹介する意義も大きいものであった。

過去の美術館における靫彦の本格的な回顧展は、生前の東京国立近代美術館での「安田靫彦展」(1976年)、また没後の山種美術館「安田靫彦—その人と芸術—」(1982年)、神奈川県立近代美術館「安田靫彦とその一門展」(1987年)であり、これに何回かの百貨店での回顧展などが加わる。この展覧会での作品の基本的な選択はこれらの展覧会の成果を継承したものであった。彼は長期間にわたる制作活動を展開したとはいえ、寡作な傾向の画家であったため、院展を中心とする出品作がその制作活動を回顧するための柱となっている。また、靫彦自身が生前、自身の作品に対して厳しい姿勢をとっており、その作品評価が後の回顧展や出版の基本として尊重されてきたこともある。そのため今回の作品選択にあたっても、出品作を軸に画家自身が評価

していた作品を加えるという基本的な枠組みを継承することにした。これに初期の作品をある程度まとめたかたちで加え、明治30年代から大正期にいたる画風形成を把握できるように配慮した。このような事情もありカタログにおいては過去の展覧会の出品記録や各画集への掲載作品の再録を行い、画家自身による画業の評価をある程度把握できるよう配慮した。

この展覧会では、これまでの回顧展とは異なる新しい試みとして、彼の画業を大きく三つの時期に分けて分類し展示した。

第1章(その1) 画家としての出発

(その2) さまざまな試み

第2章 作風の確立と完成

第3章 靫彦芸術の円熟

以上の構成によって絵画97点、書1点、素描23点の計121点の作品を展示した。作家の遺族ならびに重要な所蔵家の理解と協力を得ることができ、各時期の代表作の多くを含めることができ、この画家の回顧展としては、望み得る最大の規模と内容を備えたものであった。ただ、一部の作品について、近年の所蔵者の変更によってその所在が把握できないものがあり、それを含めることができなかったことは残念であった。

出品作品の変更

No.40《花づと》 1937年 個人蔵

No.98《後南朝自天王像》1973年 個人蔵

以上、2点は所蔵家の都合により不出品。

カタログ：A4判変形(28.1×22.3cm) 210頁

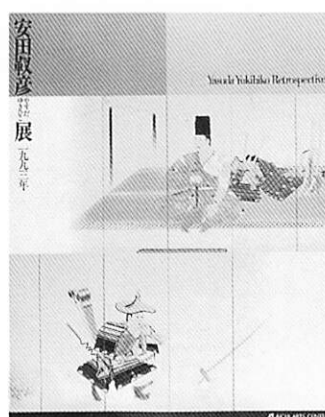
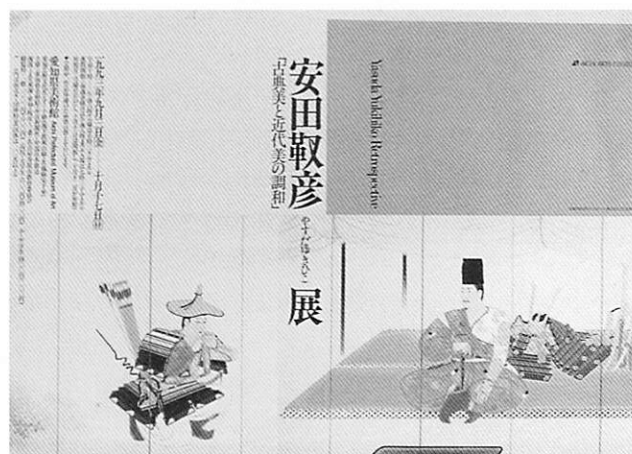
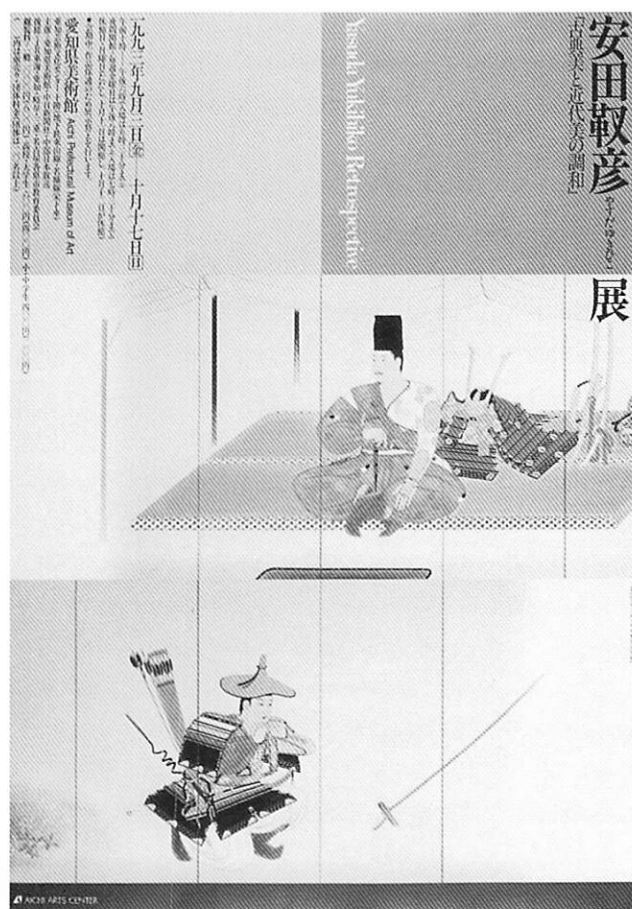
本文 安田靫彦展によせて (河北倫明)
戦時下の美術―〈黄瀬川陣〉を中心として (浅野 徹)
図版・章解説 (村田真宏)
画家としての出発―明治期の成果― (村田真宏)
主要作品解説 (村田真宏、木本文平)
安田靫彦年譜 (村田編)
安田靫彦関係文献 (木本編)
安田靫彦主要展覧会・画集の出品作品目録及
び掲載作品目録
出品目録
出品目録(英文)
章解説(英文、Translated by A.Tsuruoka)
安田靫彦展によせて
(英文、Translated by A.Tsuruoka)

編集 愛知県美術館 村田真宏／木本文平

表紙デザイン 岡本滋夫

制作 大塚巧藝社

発行 愛知県美術館、中日新聞社、中部日本放送



カタログ表紙

関連行事

1) 記念講演会 (対談) 9月25日(土)

講師：安田建一氏(安田靫彦長男、中央公論美術出版社長)

聞き手：浅野 徹

主要関連記事

《定期刊行物》

「安田靫彦展 節度の中の〈冷たい狂気〉」

『月刊美術』1993年9月号

《新聞》

「安田靫彦展 古典美と近代美の調和」

『新美術新聞』1993年9月1日

「安田靫彦展」 『信濃毎日新聞』1993年9月8日

山脇一夫：「〈安田靫彦展〉近代的な造形感覚」

『日本経済新聞』1993年9月17日夕刊

田中三蔵：「天性の洞察力で高雅な世界築く 安田靫彦展」

『朝日新聞』1993年9月28日

安田建一：「父 安田靫彦のこと」

『中日新聞』1993年9月29日朝刊

秋山光和：「《上宮太子》人間としての太子 端正に描き出す」

『中日新聞』1993年9月6日夕刊

遠藤恒雄：「《黄瀬川陣》若く情熱的な義経 優麗な線で描く」

『中日新聞』1993年9月7日夕刊

石丸正運：「《王昭訓》気品に満ちた美女見事に描ききる」

『中日新聞』1993年9月8日夕刊

原田 実：「《茶室》「静」の中にとらえた微妙な「動」を表現」

『中日新聞』1993年9月9日夕刊

村田真宏：「《梅花定窯瓶》愛した古美術と花画面に調和保つ」

『中日新聞』1993年9月10日夕刊

鎌倉秀雄：「《大和のヒミコ女王》天性の想像力もとに

大和のロマン描く」

『中日新聞』1993年9月11日夕刊

会期：1993年10月29日(金)～1994年1月16日(日)

主催：愛知県美術館、朝日新聞社

後援：外務省、文化庁、フランス大使館、名古屋テレビ放送、
JR東海

協賛：安田海上火災保険株式会社

協力：日本航空

観覧料：一般1,100(900)円／高校・大学生800(600)円

小・中学生500(300)円

() 内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：47,042人 (63日間：1日平均746人)

出品点数：油彩55点、素描37点、合計92点

担当：栗田秀法／拝戸雅彦

この展覧会は、改修工事で全面休館に入ったリール市美術館が、その所蔵品を広く世界に紹介しようとする三つのプロジェクトの一翼を担うものとして構想されたものである。ニューヨーク・メトロポリタン美術館で開催された名品展に引き続いて、ロンドン・ナショナルギャラリーでは「フランス美術館における伝統－1700年から1800年－」展が開催され、それとほぼ時を同じくして日本で「バロック・ロココの絵画」展が開催された。またこの展覧会は、当館の収集方針である20世紀美術からは外れるものであるが、企画展に関しては20世紀美術にはこだわらない形で企画を織り込んでいこうとするスタンスのなかに位置づけられる第1回の展覧会である。

展示作品に関しては横浜美術館学芸部と連携を取りつつ交渉が行われた。保存上の理由から板絵の日本への出品が許されないこと、ロンドンで同じ時期に当展と一部内容が重なる展覧会が開かれるという二つの障害があったが、油彩画55点が出品され、リール市美術館の所蔵品で16世紀後半から18世紀末にかけてのヨーロッパ絵画史をたどろうという当初の目論見のかなりの部分が実現された。併せて同時代の素描も出品されて、展覧会内容の充実が図られた。ただし、本会場ではルーベンスの巨大な祭壇画《十字架降下》がさまざまな理由で展示できなかったことは惜しまれる出来事であった。

全体の構成は、I バロック前史、II フランドルのバロック、III オランダのバロック、IV イタリアのバロック、V フランスのバロック、VI ロココという6つのセクションで構成された。I 章ではティントレット、ヴェロネーゼの追随者、エル・グレコ、パウル・ブリル、ヨアヒム・ウトワール、ディエゴ・ボエラの油彩画とアンドレア・ボスコリ、ロドヴィーコ・カルラッチ、アニーバレ・カルラッチの素描が、II 章ではピーテル・パウル・ルーベンス、ヤコブ・ヨルダーンス、アンソニー・ヴァン・ダイク、ヴァン・ダイクの追随者、パウル・デ・ヴォス(工房)、エラスムス・キューヌとヤン・フェイト共同制作、フランド

ル派の画家、ヒエロニムス・ヤンセンス、ダヴィッド・テニールス(子)、ヤン・シベレヒツの油彩画とヨルダーンス、ヘラルト・セーヘルス、ロデウィック・デ・ファダー、ヴィーゴル・ブッケの素描が、III 章ではフランス・ハルスの追随者、バルトロメウス・ファン・デル・ヘルスト、ヤン・ステーン、ヘルブラント・ファン・デン・エークハウト、エマヌエル・デ・ウィッテ、ピーテル・デ・ホーホ、アブラハム・ファン・ペイエレン、メトロポリタン美術館の画家、イサーク・ファン・オスターデ、ヘリト・ファン・ヘース、ヤコブ・ファン・ロイスダール、ルドルフ・バックハイセン(推定)、ロヘル・ヤコブスゾーン・ファン・ブルーメンダールの油彩画が、IV 章ではピエトロ・フェッティ、ニコラ・レニエ、ヨーハン・リス、リオネルロ・スパーダ、アレッサンドロ・ティアリーニ、ホセー・デ・リベラ、パオロ・ドメニコ・フィノーリア、アンドレア・ディ・リオネの油彩画とゲルチーノ、シモーネ・カンタリーニ、ピエトロ・ダ・コルトーナ、ギョーム・クルトワ、ステファノ・デルラ・ベルラ、クリストファノ・パオロ・ガリ(推定)の素描が、V 章ではフィリップ・ド・シャンパーニュ、ピエール・ミニャール、ウスタッシュ・ル・シュウール、セバステアーン・ブールドン、アルヌ・ド・ヴェエズ、ヴァルラン・ヴァイヤンの油彩画、ニコラ・プーサン、シャルル・パロセルの素描が、VI 章ではニコラ・ド・ラルジリエール、ジャン＝バティスト・ウードリー、シャルル＝アントワヌ・コワベル、アンリ・ド・ファヴァンヌ、ユベール・ロベール、フランツ・ジグリスト、カナレット(工房)、フランチェスコ・グアルディ、フランシスコ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテスの油彩画とクロード・ジロー、アントワヌ・ヴァトー、ニコラ・ランクレ、クラヴロ、ジャン＝バティスト・ル・ブラン、ジャン・ピルマン、ランタラ、ルイ・ジョセフ・ヴァトー、フランソワ・ヴァトー、アレクサンドル・モワットの素描が出品された。

カタログに関しては、リール側からの原稿に加え、日本側開催各館で丁寧な章解説が付され、この種の展覧会としては比較的充実したものになることができた。また、展覧会に関連して、開会式に出席されたりール市美術館長アルノ・ブルジョン・ド・ラヴェルニエ氏ら6名の講師による連続美術講座「バロック・ロココの芸術空間」を開催したが、予想を超える聴衆が集まりバロック・ロココ時代への理解を深めることができた。

カタログ：A4判変形(28.5×22.5cm) 308頁

本文 ヴェロネーゼからゴヤまでーリール市美術館
の絵画と素描(アルノ・ブルジョン・ド・ラウ
ヴェルニエ、木俣元一訳)

ヴェロネーゼからゴヤまで(仏文)

ヴェロネーゼからゴヤへ(イヴ・ボヌフォワ、
阿部良雄訳)

ヴェロネーゼからゴヤへ(仏文)

図版／章解説(沼田英子、高橋美彌子、拝戸
雅彦、松井秀法、前田淳子)

作品解説(J・パティクル、A・ブルジョン・
ド・ラヴェルニエ、B・ブルジョン・ド・ラウ
ヴェルニエ、A・ドネツコフ、E・フォーカールニ
ワルテル、T・ル・フランソワ、S・ロー、J-
L・ヴァニエ／上月裕子、小俣出美、鼓みどり、
愛知県美術館学芸スタッフ訳)

ピーテル・パウル・ルーベンス作《十字架降
下》について(中村尚明)

作家解説(和文、仏文)

参考文献目録(仏文)

展覧会一覧(仏文)

出品作品一覧

編集 横浜美術館学芸部

発行 朝日新聞社

企画協力 ホワイトPR

デザイン 米村隆

制作 美術出版デザインセンター

展覧会巡回先●東武美術館

(1993年5月1日～6月10日、入場者数：
64,051人)

●横浜美術館

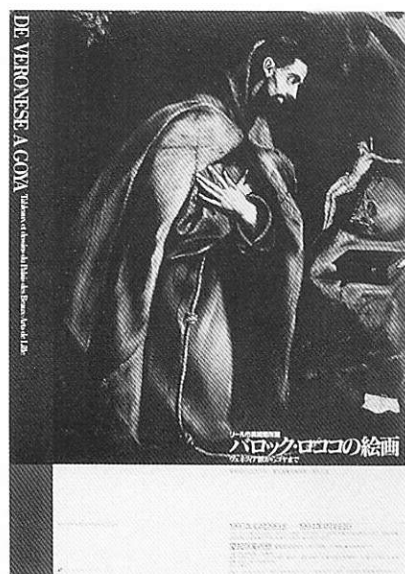
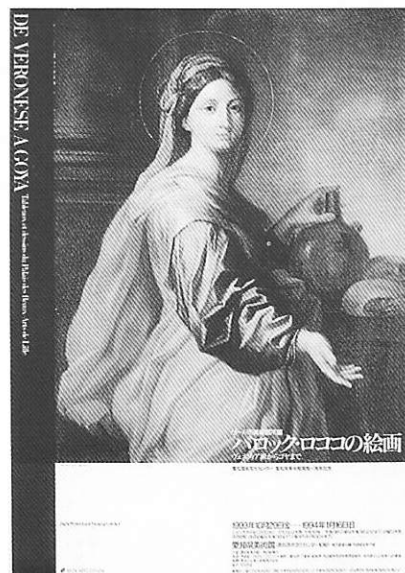
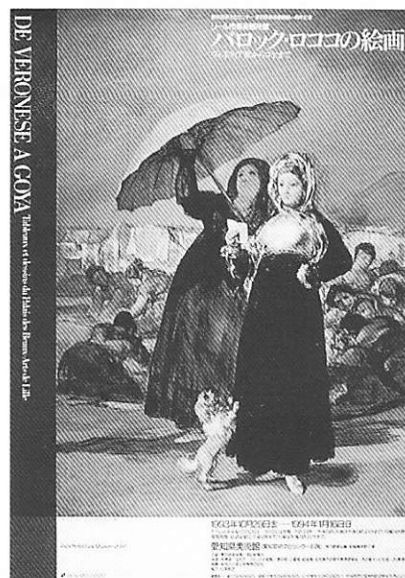
(1993年8月8日～10月17日、入場者数：
91,748人)

●北九州市立美術館

(1994年2月17日～3月27日、入場者数：
14,620人)

●奈良県立美術館

(1994年6月4日～7月10日、入場者数：
22,156人)



関連行事

連続美術講座「バロック・ロココの芸術空間」

- 1) 第1回 10月29日(金)
講師：アルノ・ブルジョン・ド・ラヴェルニエ氏
(リール市美術館館長)
- 2) 第2回 11月12日(金)
講師：河村錠一郎氏 (一橋大学教授)
- 3) 第3回 11月27日(土)
講師：中村俊春氏 (京都大学助教授)
- 4) 第4回 12月3日(金)
講師：谷川渥氏 (國學院大学助教授)
- 5) 第5回 12月11日(土)
講師：丹生谷貴志氏 (神戸市外国語大学助教授)
- 6) 第6回 12月12日(日)
講師：福田晴彦氏 (大阪市立大学助教授)

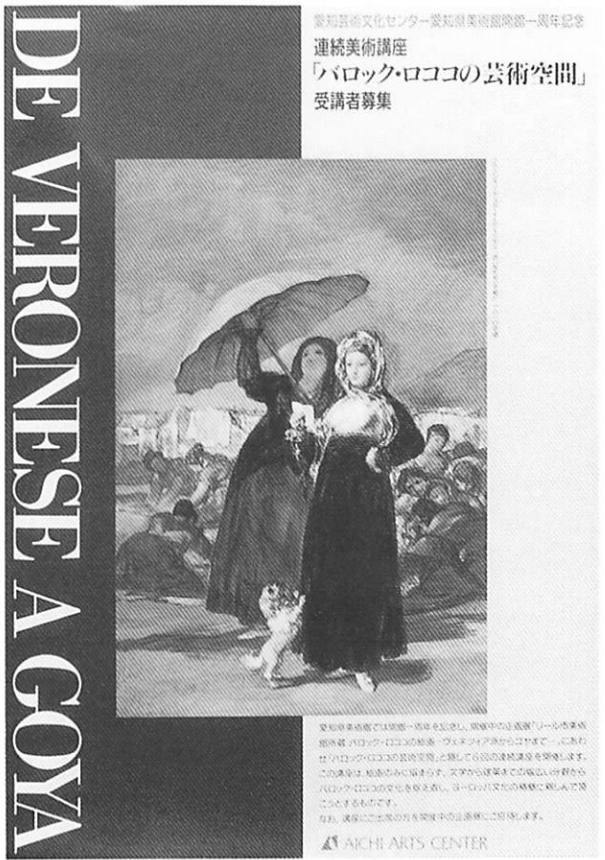
主要関連記事

「バロック・ロココの絵画」『朝日新聞』(地方版)朝刊
栗田秀法：「ルーベンス《マグダラのマリアの法悦》」

- | | |
|--------------------------------------|--------|
| 栗田秀法：「ルーベンス《マグダラのマリアの法悦》」 | 11月9日 |
| 栢戸雅彦：「ヴァン・ダイク《ろばの奇跡》」 | 11月10日 |
| 栢戸雅彦：「リバーラ《聖ヒエロニムス》」 | 11月11日 |
| 栗田秀法：「シャンパーニュ《降誕》」 | 11月12日 |
| 栗田秀法：「ゴヤ《若い女たち》」 | 11月16日 |
| 栢戸雅彦：「エル・グレコ《十字架像の前で祈りを捧げる聖フランチェスコ》」 | 11月17日 |
| 栗田秀法：「デ・ヴィッテ《デルフト新教会の堂内》」 | 11月18日 |
| 栢戸雅彦：「リス《水面から救われるモーセ》」 | 11月19日 |
| 栗田秀法：「デ・ホーホ《若い女性とその使用人》」 | 11月23日 |
| 栢戸雅彦：「ローベル《ローマの宮殿のテラス》」 | 11月25日 |



カタログ表紙



戸張孤雁と大正期の彫刻

Tobari Kogan and Modern Japanese Sculpture

会期：1994年1月25日(金)～3月6日(金)

主催：愛知県美術館

後援：JR東海

観覧料：一般700(500)円／高校・大学生500(300)円

小・中学生300(200)円

()内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：7,996人 (36日間：1日平均222人)

出品点数：彫刻76点、油彩・水彩・素描など61点、版画24点、

版本5枚、年賀状4枚、書籍3冊、合計173点

担当：深山孝彰／村田真宏

明治末からの個人主義的近代思想の高まりは、芸術において個性や生命感などの表現意欲として現れた。日本の洋風彫刻は、ロダンに傾倒した荻原守衛や高村光太郎らによって真の意味での近代が始まったといえる。1901(明治34)年に渡ったアメリカで荻原守衛と親交した戸張孤雁(1882-1927)は、1906年に帰国後洋風の挿絵の普及に努めながら、守衛を介して中原悌二郎や中村彝などいわゆる「中村屋グループ」の美術家と交流したが、1910年の守衛急死後、その跡を継ぐように彫刻に転じた。そして柔らかな肉づけと陰影豊かな造形に、初期の《足芸》(1914)にみる生動感や晩年の《煌めく嫉妬》(1924)のような象徴的感情表現を満たした作品により、大正期の彫刻に大きな足跡を残した。また孤雁は大正の初めから創作版画にも本格的に取り組み、1918年に山本鼎らと日本創作版画協会を結成、1922年には日本初の版画技法書『創作版画と版畫の作り方』を刊行するなど、その制作と普及両面に力を注いだほか、水彩画や評論などにもわたって新時代の芸術を追究した。この展覧会は、こうした孤雁の芸術の全貌を紹介するとともに、彼が活動した明治末から昭和初期の彫刻を展覧し、彫刻家戸張孤雁の位置を探ろうとしたものであった。

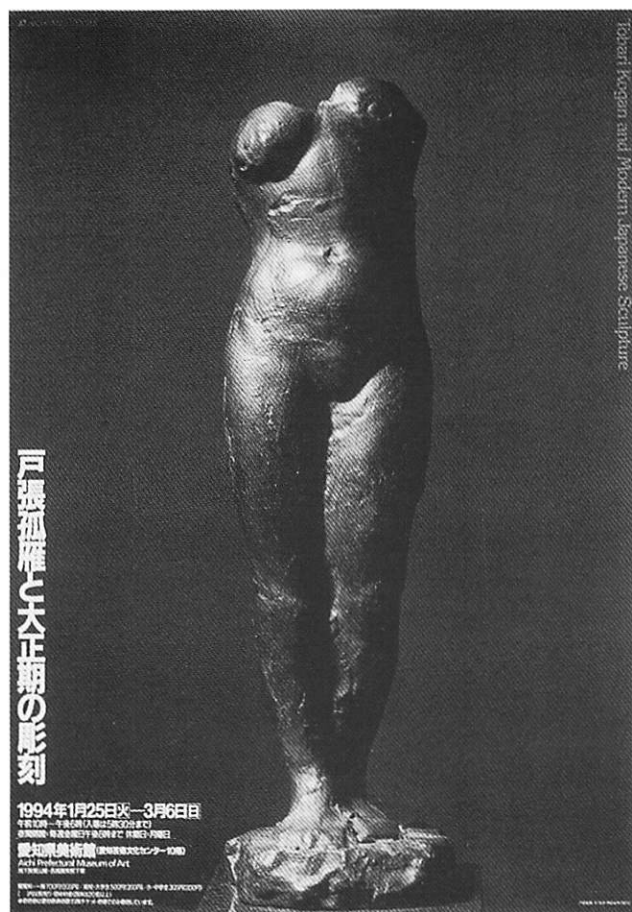
展覧会の構成は、第1章「戸張孤雁の芸術」と第2章「明治末から昭和初期の彫刻」に大きく分け、展示の上でさらに下記の節を設けた。

第1章は「前期の彫刻と素描」「初期の挿絵と絵画」「版画」「後期の彫刻」の4節に分け、彫刻36点(カタログでは出品されないとした、参5《影》を含む)、素描や水彩など絵画61点、版画24点(同作異刷4点を含む)に加え、版本5枚と木版年賀状や孤雁の著書を展示した。彫刻と版画は現存するほぼ全作品である。

第2章はまず「ロダン、荻原守衛と近代彫刻の自覚」で守衛の代表作とそれに造形的関連の深いロダンの作品を示し、続いて「日本美術院の彫刻家たち」として、孤雁とともに個性豊かな表現をめざした中原悌二郎、石井鶴三、堀進二など院展の作家や高村光太郎、藤川勇造などから、孤雁の教えを受けた喜多

武四郎や山本豊市など、さらに彼らに対する「官展と東京美術学校系の彫刻」として朝倉文矢や北村西望、建畠大夢など17作家の40点で構成した。

彫刻展の多くがそうであるように、残念ながら観覧者数は多くはなかったが、全国紙や京都の新聞にも評論が掲載され、内容には評価を受けた。《煌めく嫉妬》や《海女》の未完成感による実在感と現代性が指摘されたり、守衛や悌二郎とはまた別の高所に立った作家であったとの認識がなされたことは、主催者の意図が理解されたものと思う。



カタログ：A4判変型 27.9×22.5cm 158頁

本文 戸張孤雁の芸術とその意義 (深山孝彰)
ロダンと日本の彫刻家たち (長谷川三郎)
カタログ・章解説 (深山)
作家解説 (村田真宏)
戸張孤雁年譜 (千田敬一編)
戸張孤雁論説目録 (千田敬一編)
戸張孤雁関係文献 (深山編)
出品目録
章解説
(英文, Translated by Keiko Hirayama)
ロダンと日本の彫刻家たち
(英文, Translated by Keiko Hirayama)
編集 愛知県美術館 深山孝彰／村田真宏
発行 愛知県美術館
表紙デザイン 岡本滋夫
制作 求龍堂

関連行事

- 1) 第1回記念講演会「戸張孤雁とその時代」2月5日(土)
講師：岡田隆彦氏 (美術評論家、慶応義塾大学教授)
- 2) 第2回記念講演会「戸張孤雁の人と芸術」2月26日(土)
講師：深山孝彰

主要関連記事

《定期刊行物》

半田滋男：

「他所で見た展覧会〈戸張孤雁と大正期の彫刻〉展」
『繪』1994年1月号

《新聞》

「生命表現の展開〈戸張孤雁と大正期の彫刻〉」

『新美術新聞』1994年1月21日

小川潔：「展覧会訪問 戸張孤雁らの彫刻、絵画を」

『名古屋タイムズ』1994年1月20日

「戸張孤雁と大正期彫刻」

『読売新聞』1994年1月25日

「戸張孤雁遺作を軸に 名古屋で彫刻展」

『中日新聞』1994年2月3日朝刊

山脇一夫：「〈戸張孤雁と大正期の彫刻〉日本人の美、輝く」

『日本経済新聞』1994年2月4日夕刊

藤慶之：「戸張孤雁と大正期の彫刻展 人間の内奥に迫る」

『京都新聞』1994年2月3日

田中三蔵：「〈戸張孤雁と大正期の彫刻〉

“未完成”作品に実在感と現代性」

『朝日新聞』1994年2月4日

千田敬一：「よみがえる戸張孤雁 小品に込められた生命感

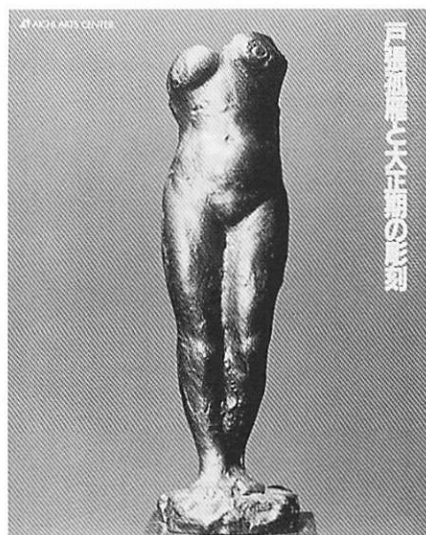
— 〈戸張孤雁と大正期の彫刻〉展に寄せて—」

『産経新聞』1994年2月27日

関連テレビ番組

「彫刻家戸張孤雁—生命ある彫刻—」

NHK教育テレビ『日曜美術館』1994年2月6日



カタログ表紙

色彩の宇宙 クプカ展

František Kupka

会期：1994年3月18日(金)～5月8日(日)

主催：愛知県美術館、中日新聞社、東海テレビ放送

後援：チェコ大使館、JR東海

協力：日本航空

観覧料：一般1,100(900)円／高校・大学生800(600)円

小・中学生500(300)円

() 内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：33,652人(45日間：1日平均747人)

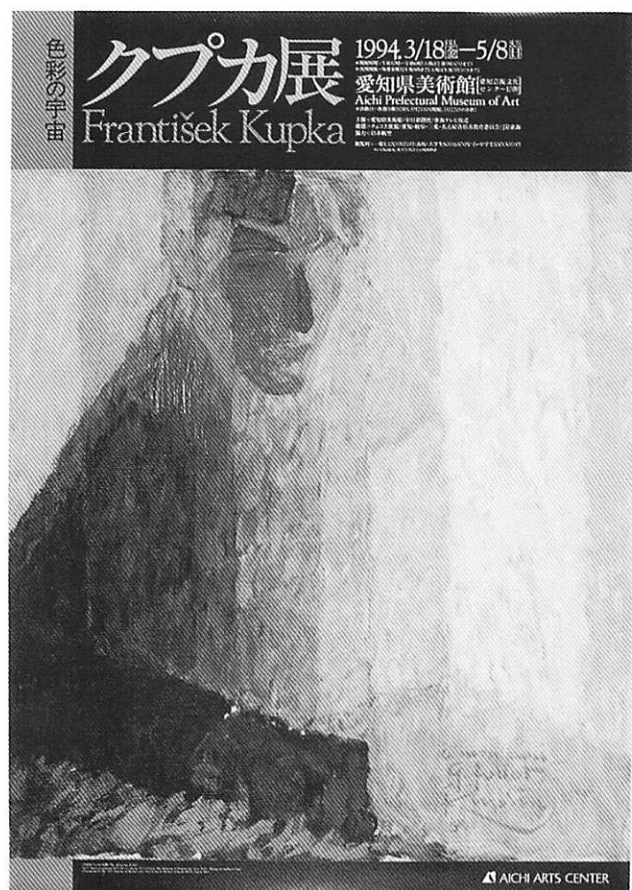
出品点数：油彩66点、水彩・素描55点、版画8点、合計129点

(他に参考作品として彫刻1点)

担当：村上博哉／古田浩俊

チェコ出身の画家フランティšek・クプカ(1871-1957)は、カンディンスキー、モンドリアンらと並ぶ抽象絵画のパイオニアのひとりである。彼は早くも1912年に純粋な抽象作品をサロン・ドートンヌに発表し、それ以後も一貫して非具象絵画を制作したが、その芸術は世紀末の中部ヨーロッパの象徴主義的土壌に生まれ、独自の神秘主義的な生命観を反映しているという点で、フランス近代美術の流れとは一線を画していた。そのため、彼の業績が正当な評価を受けるようになったのは、没後に欧米の美術館で大規模な回顧展が開かれた後のことである。日本においては、プラハ国立美術館の所蔵品展などでいくつかの作品が紹介される機会はあったものの、一般には名前すらほとんど知られていない存在であった。

今回の展覧会は、この知られざる画家を紹介する日本で初めての回顧展であり、プラハ国立美術館、パリ国立近代美術館、ニューヨーク近代美術館をはじめ、欧米各地の美術館、画廊、個人コレクターから出品を得た129点の作品によって構成された。比較的長い準備期間を持って交渉を重ねた結果、代表作のいくつかを欠いたとはいえ、初期から晩年までの展開を万遍なくとりうる充実した作品群を集めることができた。展示および図録は、I 寓意と象徴主義、II 人間の諸相、III 空間と運動の分析、IV アモルファー抽象絵画の誕生、V 有機的な形・宇宙的な形、VI 垂直の面と斜めの面、VII 機械絵画と幾何学的抽象、という7つのセクションから構成された。特に1910年前後の数年間について、具象的なモチーフから出発して「垂直線」と「円環」というふたつの本質的な形態が生み出されるまでの過程をかなり綿密に再現できたことは、抽象芸術に対する鑑賞者の理解を深めるうえで少なからぬ意義があったと言えるであろう。名古屋・仙台・東京の三館での開催期間中に多くの批評が寄せられたが、その中に、クプカの豊饒な色彩と神秘的な魅力への賛辞に加えて、一般になじみのない重要な作家をとりあげた企画者の意図を評価する声があったことは喜ばしい。



カタログ：A4判変形(28.0×22.5cm)268頁

本文 展覧会の意図および謝辞 (浅野徹)

普遍性に向かう「もう一つの現実」

(ルドミラ・ヴァフトヴァー、村上博哉訳)

素描家としてのクプカ

(ヤナ・ブラブツォヴァー、ウラスト・チハーコヴァー訳)

フランティシェク・クプカ、色彩への道

(アレナ・ポマイズロヴァー、ウラスト・チハーコヴァー訳)

パリ国立近代美術館 (ポンピドゥー・センター) のクプカ作品 (ジェルマン・ヴィアット、村上訳)

カタログ (章解説：村上、古田浩俊／作品解説：J. ブラブツォヴァー、A. ポマイズロヴァー、村上、古田)

見えないものに終始する

(ウラスト・チハーコヴァー)

クプカと東洋 (古田浩俊)

《垂直の面》と《夢》 (村上博哉)

年譜 (メダ・ムラテク編、古田訳)

展覧会歴・日本国内 (古田編)

邦語文献目録 (古田編)

論文 (英文または仏文)

カタログ (英文)

展覧会歴 (英文)

主要文献目録 (英文)

編集 愛知県美術館 村上博哉／古田浩俊

制作 美術出版デザインセンター

デザイン 桑畑吉伸

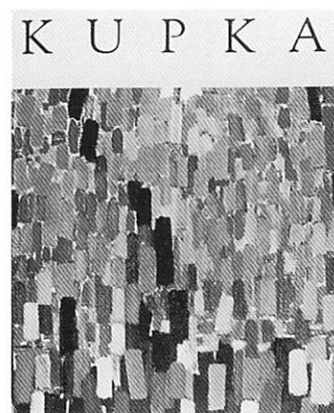
発行 愛知県美術館、東京新聞

展覧会巡回先：●宮城県美術館

(1994年5月21日～6月26日、入場者数：10,492人)

●世田谷美術館

(1994年7月9日～8月28日、入場者数：27,131人)



カタログ表紙

関連行事

- 1) 第1回記念講演会「クプカの生涯と芸術」1994年3月26日(土)
講師：高見堅志郎氏（武蔵野美術大学教授）
- 2) 第2回記念講演会「抽象絵画の見かた」1994年4月16日(土)
講師：本江邦夫氏（東京国立近代美術館美術課長）

主要関連記事（＊は東京展関連）

《定期刊行物》

- 滝本 誠：「色彩の宇宙-クプカ展<コク>というしかない風情」
『美術手帖』1994年4月号 pp.146-155
- 篠田達美：「モンドリアンの〈死にゆく菊〉」
（「名作の過去、未来」第2回）
『草月』1994年6月号 pp.40-43
- 榎木野衣：「クプカ展」
『アートニュース日本版』1994年7月号 p.86
- 「神秘の画家 フランティシェク・クプカ」／古田浩俊「クプカと日本」
『芸術倶楽部』1994年7-8月号 pp.2-16
- Jana A. Brabcova, "František Kupka Japonsku", *atelier, Prague*, nos.14-15, July 14, 1994, p.16.
- "La Chronique des Arts", *Gazette des Beaux-Arts*, Paris, no.1509, oct. 1994, p.13.
- ＊谷古宇尚：「クプカ展-抽象への軌跡-〈宇宙の法則〉を
探求したチェコ人画家の全貌」
『art vision』1994年夏 pp.98-101
- ＊三田晴夫：「クプカ展 豊かなリズム広がる抽象の世界」
『婦人画報』1994年8月号

《新聞》

連載 「クプカ 神秘の世界」

- 『中日新聞』1994年3月22日～3月25日夕刊
- 本江邦夫：「馬車の窓からの眺め」3月22日
- 古田浩俊：「水（浴女）」3月23日
- カレル・フィアラ：「ノクターン」3月24日
- 石垣定哉：「音楽家フォロの肖像」3月25日
- （隆）：「クプカ展 東洋で初の展覧会」
『読売新聞』1994年3月24日朝刊
- 高島直之：「クプカ展 抽象先取り、近代を内面化」
『読売新聞』1994年4月9日夕刊
- Julia Casim, "Long overdue credit for Kupka",
The Japan Times, April 10, 1994.
- 高階秀爾：「クプカ 華麗なる魔術師」
『中日新聞』1994年4月12日夕刊

宝玉正彦：「一貫して命の本質に迫る クプカ展」

『日本経済新聞』1994年4月25日朝刊

＊連載「クプカ展 神秘の小宇宙」

- 『東京新聞』1994年7月12日～7月18日夕刊
- 司 修：「夢」7月12日
- 村井志摩子：「生命の始まり（睡蓮）」7月13日
- 石井かほる：「《アモルフア、2色のフーガ》および
《アモルフア、暖色》のための習作」7月14日
- 谷古宇尚：「生命力ある線」7月15日
- 横尾忠則：「静寂の道」7月18日
- ＊生田 誠：「クプカ《ニュートンの円盤》色彩の集合、絵
画を見る喜び」『産経新聞』1994年7月15日夕刊
- ＊三田晴夫：「クプカ展 没後37、感銘深い全貌」
『毎日新聞』1994年7月19日夕刊
- ＊田中三蔵：「クプカ展〈時間〉追求し抽象へ 霊的な生命
感を表現」『朝日新聞』1994年7月26日夕刊
- ＊大島清次：「ボヘミアとの遭遇 クプカ展開催によせて」
『東京新聞』1994年8月19日
- ＊（M）：「クプカ展 豊かな諧調を生む形と色彩」
『産経新聞』1994年8月21日
- ＊山梨俊夫：「色彩が奏でる交響 クプカ展」
『東京新聞』1994年8月26日夕刊

所蔵作品展 Permanent Collection

1993年度は、所蔵作品展を別表のとおり4期にわけて行った。とくに展示室6では、テーマ展として「新収蔵品展」「ジャン・ティンゲリー＝哲学者たち」「出原次朗展」「石黒鏘二展」「原裕治展」を開催した。

1993年度の所蔵作品展実施状況

所蔵作品展名		会期・展示室	日数	入場者数	1日平均
1993年度第Ⅰ期 「20世紀の美術」		1993年4月2日～7月11日 (前期:4月2日～5月23日/展示室5～8) (後期:6月4日～7月11日/展示室3～8、ただし第3室は7月4日まで)	82	131,976	1,609
内 訳	企画展共通入場者数			129,345	1,847
	所蔵品展のみの入場者数			2,631	32
1993年度第Ⅱ期 「戦後の美術」		1993年7月16日～10月24日 (前期:7月16日～8月29日/展示室4～8/展示室6テーマ展示「新収蔵品展」) (後期:9月3日～10月24日/展示室4～8/展示室6テーマ展示「ジャン・ティンゲリー＝哲学者たち」)	84	60,155	716
内 訳	企画展共通入場者数			56,156	668
	所蔵品展のみの入場者数			3,999	48
1993年度第Ⅲ期 「20世紀の美術」		1993年10月29日～1994年1月16日 (前期:10月29日～11月28日/展示室4～8/展示室6テーマ展示「出原次朗展」) (後期:11月30日～1月16日/展示室4～8/展示室6テーマ展示「石黒鏘二展」)	63	48,232	765
内 訳	企画展共通入場者数			47,042	746
	所蔵品展のみの入場者数			1,190	19
1993年度第Ⅳ期 「戦後の美術」		1994年1月25日～3月13日 (展示室3～8/展示室6テーマ展「原裕治展」)	42	9,049	219
内 訳	企画展共通入場者数			7,996	190
	所蔵品展のみの入場者数			1,053	25
1994年度第Ⅰ期		1994年3月18日～(3月31日)(展示室4～8)	12	7,206	600
1993年度合計			283	256,618	906

Temporary exhibitions held in the Exhibition Room 6

Jean Tinguery: Philosophers September 3 1994 - October 24 1994

Jiro Izuhara October 29 1994 - November 28 1994

Shoji Ishiguro November 30 1994 - January 16 1995

Yuji Hara January 25 1995 - March 13 1995

■1993年度第Ⅰ期展示作品リスト 前期1993.4.2～1993.5.23

種別	作家名 制作年	作品名
----	------------	-----

展示室5

絵画	ニコラ・ド・スタール 1948年	コンポジション
絵画	ジャン・デュビュッフェ 1953年	二人の脱走兵
絵画	ルーチョ・フォンターナ 1960年	空間概念
絵画	フランク・ステラ 1969年	River of Ponds IV
絵画	アンディ・ウォーホル 1975年	レディース・アンド・ジェントルメン
絵画	アントニ・タビエス 1977年	コンポジション
立体	アレクサンダー・コールダー 1944年	片膝ついて
立体	ルイズ・ニーヴェルソン 1959-66年	漂う天界
立体	イヴ・クライン 1962年	肖像レリーフ アルマン
立体	若林奮 1982年	大気中の緑色に属するものⅠ
立体	北山善夫 1984年	はなはだ大きいというべきである
洋画	村井正誠 1950年	天使
洋画	森芳雄 1954年	女たち
洋画	小山田二郎 1956年	愛
洋画	瑛九 1957-58年	黄色い花
洋画	オノサト 1958年	トシノブ 三つの黒
洋画	杉全直 1958年	窪んだ空間B
洋画	中村宏 1958年	内乱期
洋画	難波田龍起 1961年	萌
洋画	斎藤義重 1962年	作品
洋画	山口長男 1963年	屏形
洋画	麻生三郎 1964年	胴体と頭と電球

洋画	菅井汲 1964年	ナショナル・ルートNo.11
洋画	桑山忠明 1968年	茶白青
洋画	上田薫 1976年	なま玉子G
洋画	宇佐見圭司 1987年	ビッグ・バン
洋画	加納光於 1988年	繁み・運動・エレメントB

展示室6

立体	エルンスト・バルラッハ 1920年	母なる大地Ⅱ
版画	ジェームズ・アンソール 1888年	悪魔の戦い
版画	ジェームズ・アンソール 1898年	キリストのブリュッセル入城
版画	ケーテ・コルヴィッツ 1903年	青い服の女工
版画	ケーテ・コルヴィッツ 1906年	畠を耕す者
版画	エミール・ノルデ 1906年	騎士
版画	エミール・ノルデ 1908年	自画像
版画	オスカー・ココシュカ 1908年	夢見る少年たち
版画	ライオネル・ファイニンガー 1910-11年	緑色の橋
版画	エーリヒ・ヘッケル 1913年	疲れ
版画	ヴィルヘルム・レームブルック 1913年	母と子
版画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 1917年	三本の道
版画	エミール・ノルデ 1917年	おしゃべり
版画	マックス・ベックマン 1917年	新年おめでとう
版画	マックス・ベックマン 1918年	カフェ・ミュージック
版画	マックス・ベックマン 1918年	あくびをする人達
版画	ライオネル・ファイニンガー 1918年	ダースドルフ
版画	マックス・ベックマン 1919年	自画像

版画	エーリヒ・ヘッケル 1920年	〈新時代のドイツ美術展Ⅰ〉のポスター
版画	ケーテ・コルヴィッツ 1921年	死の膝に抱かれる女
版画	ラーズロー・モホリ＝ナジ 1922-23年	コンストラクション
版画	ラーズロー・モホリ＝ナジ 1922-23年	コンストラクション
版画	ラーズロー・モホリ＝ナジ 1922-23年	コンストラクション
版画	ライオネル・ファイニンガー 1923年	無題
版画	ヴァシリイ・カンディンスキー 1923年	楽しき飛翔
版画	パウル・クレー 1923年	恋人
版画	ラーズロー・モホリ＝ナジ 1923年	無題

展示室7

絵画	バプロ・ピカソ 1902年	青い肩かけの女
絵画	グスタフ・クリムト 1903年	人生は戦いなり(黄金の騎士)
絵画	ラウル・デュフィ 1906年	サンタドレスの浜辺
絵画	ピエール・ボナール 1906年頃	子供と猫
絵画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 1912年	グラスのある静物
絵画	エミール・ノルデ 1915年	静物Ⅰ(アマゾン、能面等)
絵画	フランティšek・クプカ 1919年	灰色と金色の展開
絵画	クルト・シュヴィッターズ 1920年	メルツ絵画52、美容
絵画	ジャック・ヴィヨン 1920年	存在
絵画	クルト・シュヴィッターズ 1921年	メルツ絵画305、ロボッツ
絵画	アンリ・マティス 1921-22年	待つ
絵画	ライオネル・ファイニンガー 1927年	夕暮れの海Ⅰ
絵画	ベン・ニコルソン 1933年	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)
絵画	ポール・デルヴォー 1943年	こだま

絵画	マックス・エルンスト	ポーランドの騎士
	1954年	
立体	オシップ・ザツキン	チェロのトルソ
	1956-57年	

展示室8

洋画	黒田清輝	暖き日
	1897年	
洋画	山下新太郎	白耳義の少女
	1909年	
洋画	中村彝	少女裸像
	1914年	
洋画	岸田劉生	高須光治君之肖像
	1915年	
洋画	大沢鉦一郎	大曾根風景
	1919年	
洋画	小出楯重	N夫人像
	1918年	
洋画	藤田嗣治	青衣の女
	1925年	
洋画	前田寛治	褐衣婦人像
	1925年	
洋画	古賀春江	夏山
	1927年	

洋画	長谷川利行	酒売場
	1927年	
洋画	海老原喜之助	雪山と樵
	1930年	
洋画	安井曾太郎	承德喇嘛廟
	1938年	
洋画	須田国太郎	夏
	1941年	
洋画	山口薫	ボタン雪と騎手
	1953年	
洋画	香月泰男	散歩
	1953年	

ロビーなど

立体	エルンスト・バルラッハ	忘我
	1911-12年	
立体	ジャーコモ・マンズー	踊りのステップ
	1953年	
立体	柳原義達	黒人の女
	1956年	
立体	工藤哲巳	果てしなく幾米がまどわるワルセル・デュシャン-予定された未来と固定化された過去の間の联想-
	1977年	

屋外展示スペースなど

立体	コルネリス・ジットマン	カリブの女
	1983年	
立体	アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間
	1984年	
立体	柳原義達	風の中の鴉
	1982年	
立体	加藤昭男	大地
	1986年	
立体	小田襄	円柱の構造
	1988年	
立体	今井瑾郎	大地
	1992年	
立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	ベネロープ
	1909年	
立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	力
	1914-15年	
立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	勝利
	1916年	
立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	雄弁
	1916年	
立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	自由
	1916年	

■1993年度第1期展示作品リスト 後期1993.6.4～1993.7.11

展示室3（～1993.7.4）

素描	安井曾太郎	人物立像
	1905年	
素描	安井曾太郎	人物立像
	1905年	
素描	安井曾太郎	人物立像
	1905年	
素描	安井曾太郎	人体坐像
	1905年	
素描	安井曾太郎	人体坐像
	1905年	
素描	安井曾太郎	人体立像
	1905年	
素描	安井曾太郎	風景
	1905年	
素描	安井曾太郎	風景
	1905年	
素描	安井曾太郎	人体立像
	1905年	

素描	安井曾太郎	裸婦
	1905年	
素描	安井曾太郎	人物立像
	1906年	
素描	安井曾太郎	人体坐像
	1906年	
素描	安井曾太郎	静物
	1906年	
素描	安井曾太郎	静物
	1906年	
素描	安井曾太郎	人体(男)
	1907年	
素描	安井曾太郎	人体(女)
	1907年	

展示室4

日本画	橋本雅邦	秋景山水図
	1885年頃	
日本画	横山大観	飛泉
	1900年頃	
日本画	山元春挙	溪村暮靄図
	1900年頃	

日本画	竹内栖鳳	狐狸図
	1908年頃	
日本画	小茂田青樹	柿
	1919年頃	
日本画	小茂田青樹	漁村早春
	1921年	
日本画	速水御舟	西郊小景
	1923年	
日本画	村上華岳	魔障之図
	1923年	
日本画	小林古径	洗濯場 その1
	1926年	
素描	小林古径	洗濯場 その1下絵
	1926年	
日本画	小林古径	洗濯場 その2
	1926年	
素描	小林古径	洗濯場 その2下絵
	1926年	
素描	土田麦僊	蓮華(下図)
	1930年	
日本画	安田靫彦	月の兎
	1934年	

日本画	上村松篁 1968年	玄鶴
日本画	西内利夫 1977年	白鷺
日本画	竹内浩一 1983年	雨まじか
日本画	東山魁夷 1991年	雪の山郷

展示室5

絵画	ニコラ・ド・スタール 1948年	コンポジション
絵画	ルーチョ・フォンターナ 1960年	空間概念
絵画	ジョーゼフ・アルバース 1962年	正方形頌
絵画	アントニ・タピエス 1977年	コンポジション
絵画	アンディ・ウォーホル 1975年	レディース・アンド・ジェントルメン
絵画	フランク・ステラ 1969年	River of Ponds IV
洋画	瑛九 1954年	白い輪
洋画	山田正亮 1958年	Work No.B 182
洋画	オノサト・トシノブ 1958年	三つの黒
洋画	杉全直 1958年	窪んだ空間B
洋画	今井俊満 1960年	東方の光
洋画	元永定正 1961年	作品
洋画	堂本尚郎 1962年	絵画 1962-25
洋画	斎藤義重 1962年	作品
洋画	山口長男 1963年	屏形
洋画	桑山忠明 1968年	茶白青
洋画	上田薫 1976年	なま玉子G
洋画	三尾公三 1982年	鏡の前
洋画	難波田龍起 1987年	原初的風景B
洋画	加納光於 1988年	繁み・運動・エレメントB

立体	イヴ・クライン 1962年	肖像レリーフ アルマン
立体	ルイズ・ニューヴェルスン 1959-66年	漂う天界
立体	若林 奮 1982年	大気中の緑色に属するもの I
立体	北山善夫 1984年	はなはだ大きいと言うべきである

展示室6

版画	フェルナン・レジェ 1950年	サーカス
立体	アレクサンダー・コールダー 1944年	片膝ついて

展示室7

絵画	パブロ・ピカソ 1902年	青い肩かけの女
絵画	グスタフ・クリムト 1903年	人生は戦いなり(黄金の騎士)
絵画	ビエール・ボナール 1906年頃	子供と猫
絵画	ラウル・デュフィ 1906年	サントドレスの浜辺
絵画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 1912年	グラスのある静物
絵画	エミール・ノルデ 1915年	静物L(アマゾン、能面等)
絵画	フランティšek・クプカ 1919年	灰色と金色の展開
絵画	ジャック・ヴィヨン 1920年	存在
絵画	アンリ・マティス 1921-22年	待つ
絵画	ライオネル・ファイニンガー 1927年	夕暮れの海 I
絵画	ベン・ニコルソン 1933年	1993(スペインの絵葉書のあるコラージュ)
絵画	ポール・デルヴォー 1943年	こだま
絵画	マックス・エルンスト 1954年	ポーランドの騎士
素描	フランシス・ピカビア 1921-22年	糸巻き
立体	オシップ・ザツキン 1956-58年	チェロのトルソ

展示室8

洋画	黒田清輝 1897年	暖き日
----	---------------	-----

洋画	山下新太郎 1909年	白耳義の少女
洋画	中村彝 1914年	少女裸像
洋画	岸田劉生 1915年	高須光治君之肖像
洋画	小出檐重 1918年	N夫人像
洋画	大沢鉦一郎 1919年	大曾根風景
洋画	藤田嗣治 1925年	青衣の少女
洋画	前田寛治 1925年	褐衣婦人像
洋画	長谷川利行 1927年	酒売場
洋画	古賀春江 1927年	夏山
洋画	海老原喜之助 1930年	雪山の樵
洋画	安井曾太郎 1938年	承德喇嘛廟
洋画	須田国太郎 1941年	夏
洋画	香月泰男 1953年	散歩
洋画	山口薫 1953年	ボタン雪と騎手

ロビーそのほか

立体	柳原義達 1956年	黒人の女
立体	樫尾正次 1965年	葉っぱのように
立体	工藤哲巳 1977年	果てしなく綾糸がまとわるマルセル・デュシャン
立体	エルンスト・バルラッハ 1911-12年	忘我
立体	レイモン・デュシャン＝ヴィヨン 1913年	恋人たち
立体	ヴィルヘルム・レームブルック 1913年	立ち上がる青年
立体	ジャコモ・マンズー 1947-66年	ある主題によるヴァリエーション
立体	ジャコモ・マンズー 1953年	踊りのステップ

屋外展示スペースなど

立体	柳原義達 1982年	風の中の鴉
----	---------------	-------

立体	コルネリス・ジットマン 1983年	カリブの女
立体	加藤昭男 1986年	大地
立体	小田襄 1988年	円柱の構造
立体	今井瑾郎 1992年	大地

立体	アルナルド・ボモドーロ 1984年	飛躍の瞬間
立体	エミール=アントワーン・ブールデル 1909年	ペネロープ
立体	エミール=アントワーン・ブールデル 1914-15年	力
立体	エミール=アントワーン・ブールデル 1916年	勝利

立体	エミール=アントワーン・ブールデル 1916年	雄弁
立体	エミール=アントワーン・ブールデル 1916年	自由

■1993年度第Ⅱ期展示作品リスト 1993.7.16~1993.10.24 (前期:7.16~8.29/後期:9.3~10.24) (★は前期のみ、★★は後期のみ展示)

展示室4 (前期)

日本画	加山又造 1957年	黒い鳥
日本画	吉岡堅二 1959年	鶴
日本画	下村良之介 1964年	鼓舞
日本画	星野真吾 1965年	喪中の作品(昇天)
日本画	三上誠 1967年	環1・経絡
日本画	中村正義 1968年	おねえちゃん
日本画	中川とも 1968年	歎異抄
日本画	田淵俊夫 1969年	青木ヶ原
日本画	片岡球子 1980年	面構(国貞・種彦)
日本画	近藤弘明 1981年	幽光
日本画	小嶋悠司 1985年	穢土
日本画	平山郁夫 1990年	楼蘭の遺跡・昼

展示室4 (後期)

日本画	平川敏夫 1974年	樹峽
日本画	今野忠一 1977年	妙義
日本画	森田曠平 1980年	清滝川
日本画	嶋谷自然 1981年	阿蘇
日本画	池田遙邨 1981年	稲掛け

日本画	広田多津 1982年	ひとり
日本画	麻田鷹司 1982年	鬼界ヶ島
日本画	稗田一穂 1982年	雨晴海岸
日本画	月岡栄貴 1982年	覆
日本画	鎌倉秀雄 1983年	回想
日本画	郷倉和子 1986年	気
日本画	田淵俊夫 1989年	すぎばやし
日本画	平山郁夫 1990年	楼蘭の遺跡・昼
日本画	東山魁夷 1991年	雪の山郷
立体	舟越保武 1979年	シオン

展示室5

絵画	ニコラ・ド・スタール 1948年	コンポジション
絵画	ルーチョ・フォンターナ 1960年	空間概念
絵画	ジョーゼフ・アルバース 1962年	正方形頌
絵画	アントニ・タピエス 1977年	コンポジション
絵画	フランク・ステラ 1969年	River of Ponds IV
絵画	アンディ・ウォーホル 1975年	レディース・アンド・ジェントルメン
洋画	瑛九 1954年	白い輪★
洋画	瑛九 1957-58年	黄色い花★★

洋画	山田正亮 1958年	Work No.B 182
洋画	オノサト・トシノブ 1958年	三つの黒
洋画	杉全直 1958年	窪んだ空間B
洋画	今井俊満 1960年	東方の光★
洋画	元永定正 1961年	作品
洋画	堂本尚郎 1962年	絵画 1962-25
洋画	斎藤義重 1962年	作品★
洋画	山口長男 1963年	屏形★
洋画	大沢昌助 1965年	赤い幻想★★
洋画	桑山忠明 1968年	茶白青
洋画	上田薫 1973年	なま玉子G★
洋画	斎藤義重 1973年	ゼロイスト★★
洋画	三尾公三 1982年	鏡の前
洋画	難波田龍起 1987年	原初的風景B★
洋画	加納光於 1988年	繁み・運動・エレメントB★
素描	谷川晃一 1965年	ペリカン反射★★
素描	クリスト 1986年	旧ドイツ帝国国会議事堂の欄包★★
立体	若林 奮 1982年	大気中の緑色に属するもの I
立体	北山善夫 1984年	はなはだ大きいと言うべきである

立体	アレクサンダー・コールドー 1944年	片膝ついて★
立体	ルイズ・ニーヴェルソン 1959-66年	漂う天界
立体	イヴ・クライン 1962年	肖像レリーフ アルマン
立体	ジム・ダイン 1962年	芝刈機★★
版画	銭嘯 グッドバイ ムッシュ ゴーギャン★★ 1973年	
版画	荒川修作 1978年	それはその中に★★

展示室6（前期）

テーマ展示 新収蔵作品展

洋画	野間仁根 1940年	松原湖畔より八ヶ岳を望む
洋画	福沢一郎 1942年	海
洋画	川島理一郎 1943年頃	フィリピン服の女
洋画	吉中太造 1964年	遺産
洋画	島田章三 1976年	石庭女人図
立体	ジム・ダイン 1962年	芝刈機
版画	ルイ・マルクーシ 1912-20年	ギヨーム・アポリネールの肖像
版画	小田襄 1982-83年	円と方形・5つの色
版画	小田襄 1982-83年	円と方形・5つの色
版画	小田襄 1976-83年	円と方形・10の色
版画	小田襄 1976-83年	円と方形・10の色
版画	小田襄 1976-83年	円と方形・10の色
版画	小田襄 1979-83年	彫刻のイメージ
版画	小田襄 1979-83年	彫刻のイメージ
版画	小田襄 1979-83年	彫刻のイメージ
版画	小田襄 1979-83年	彫刻のイメージ
版画	小田襄 1979-83年	彫刻のイメージ

版画	小田襄 1979-83年	彫刻のイメージ
版画	小田襄 1979-83年	彫刻のイメージ
版画	小田襄 1979-83年	彫刻のイメージ
版画	小田襄 1979-83年	彫刻のイメージ
版画	小田襄 1979-83年	彫刻のイメージ
素描	松本竣介 1941年	ニコライ堂

展示室6（後期）

テーマ展示 ジャン・ティンゲリー 哲学者たち
(協力:アキラ イケダ ギャラリー)

立体	ジャン・ティンゲリー 1988年	アフリカン・クイーン
立体	ジャン・ティンゲリー 1988年	ノーナ・フォン・アイゼンシュタイン
立体	ジャン・ティンゲリー 1988年	ベルンハルト・ルーギンビュール
立体	ジャン・ティンゲリー 1988年	アルトゥール・ショーペンハウアー
立体	ジャン・ティンゲリー 1988年	オットー・フォン・ゲーリケ

展示室7

絵画	バプロ・ピカソ 1902年	青い肩かけの女
絵画	グスタフ・クリムト 1903年	人生は戦いなり(黄金の騎士)
絵画	ピエール・ボナール 1906年頃	子供と猫
絵画	ラウル・デュフィ 1906年	サントドレスの浜辺
絵画	エミール・ノルデ 1915年	静物L(アマゾン、能面等)
絵画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 1912年	グラスのある静物
絵画	フランティšek・クプカ 1919年	灰色と金色の展開
絵画	ジャック・ヴィヨン 1920年	存在
絵画	クルト・シュヴィッターズ 1920年	メルツ絵画52、美容★
絵画	クルト・シュヴィッターズ 1921年	メルツ絵画305、ロボジッツ★
絵画	アンリ・マティス 1921-22年	待つ

絵画	ライオネル・ファイニンガー 1927年	夕暮れの海 I
絵画	ポール・デルヴォー 1943年	こだま
絵画	マックス・エルンスト 1954年	ポーランドの騎士
素描	フランシス・ヒカビア 1921-22年	糸巻き★
素描	ロバート・ラウシェンバーク 1958年	コース★★
立体	オシップ・ザツキン 1956-58年	チェロのトルソ★
立体	アレクサンダー・コールドー 1944年	片膝ついて★★
版画	ジャック・ヴィヨン 1913年	横顔のイヴォンヌ
版画	ジャック・ヴィヨン 1913年	食卓

展示室8

洋画	久米桂一郎 1892年	秋景★★
洋画	黒田清輝 1897年	暖き日
洋画	山下新太郎 1909年	白耳義の少女
洋画	梅原龍三郎 1909年	若き羅馬人★★
洋画	中村彝 1914年	少女裸像
洋画	岸田劉生 1915年	高須光治君之肖像
洋画	小出檜重 1918年	N夫人像
洋画	大沢延一郎 1919年	大曾根風景★
洋画	藤田嗣治 1925年	青衣の少女
洋画	前田寛治 1925年	褐衣婦人像★
洋画	長谷川利行 1927年	酒売場
洋画	古賀春江 1927年	夏山★
洋画	海老原喜之助 1930年	雪山と樵★
洋画	野口弥太郎 1930年	門★★
洋画	里見勝蔵 1930年	裸婦★★

洋画	安井曾太郎	承德喇嘛廟
洋画	須田国太郎	夏★
洋画	香月泰男	散歩★
洋画	山口薫	ボタン雪と騎手★
洋画	鳥海青児	うずくまる★★
洋画	森芳雄	女たち★★
立体	高田博厚	女のトルソ★★
ロビーそのほか		
立体	エルンスト・バルラッハ	忘我
立体	レイモン・デュシャン＝ヴィヨン	恋人たち

立体	ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年
立体	ジャーコモ・マンズー	ある主題によるヴァリエーション
立体	ジャーコモ・マンズー	踊りのステップ
立体	柳原義達	黒人の女
立体	檀尾正次	葉っぱのように
立体	工藤哲巳	果てしなく幾糸がまわるマルセル・デュシャン ー予定された未来と固定化された過去との間での脱離ー

屋外展示スペース、屋外庭園

立体	柳原義達	風の中の鴉
立体	加藤昭男	大地
立体	小田襄	柱の構造

立体	今井瑾郎	大地
立体	コルネリス・ジットマン	カリブの女
立体	アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間
立体	エミール＝アントワヌ・ブールデル	ペネロープ
立体	エミール＝アントワヌ・ブールデル	力
立体	エミール＝アントワヌ・ブールデル	勝利
立体	エミール＝アントワヌ・ブールデル	雄弁
立体	エミール＝アントワヌ・ブールデル	自由

■1993年度第III期展示作品リスト 前期：1993.10.29～11.28 後期：1993.11.30～1994.1.16（★は前期のみ、★★は後期のみ展示）

展示室4

絵画	パブロ・ピカソ	青い肩かけの女
絵画	グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)
絵画	ラウル・デュフィ	サントドレスの浜辺
絵画	ピエール・ボナール	子供と猫
絵画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物
絵画	エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)
絵画	ジャック・ヴィヨン	存在
絵画	アンリ・マティス	待つ
絵画	ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 1
絵画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	日の当たる庭
絵画	ポール・テルヴォー	こだま
絵画	マックス・エルンスト	ポーランドの騎士

立体	ケーテ・コルヴィッツ	恋人たち II
立体	エルンスト・バルラッハ	母なる大地 II
洋画	久米桂一郎	秋景
洋画	黒田清輝	暖き日★★
洋画	黒田清輝	花と猫★
洋画	梅原龍三郎	若き羅馬人★
洋画	山下新太郎	白耳義の少女
洋画	安井曾太郎	婦人像★★
洋画	中村彝	少女裸像
洋画	岸田劉生	高須光治君之肖像
洋画	木村莊八	壺を持つ女
洋画	河野通勢	自画像
洋画	小出楯重	N夫人像

洋画	神原泰	生命の流動
洋画	清水登之	森に憩う人
洋画	藤田嗣治	青衣の女
洋画	古賀春江	夏山
洋画	長谷川利行	酒売場
洋画	海老原喜之助	雪山と樵
洋画	里見勝蔵	裸婦
洋画	野口弥太郎	門
洋画	矢橋六郎	南仏サントロペにて★★
洋画	北川民次	メキシコ三童女
洋画	安井曾太郎	承德喇嘛廟★
素描	藤田嗣治	婦人像 不詳

展示室5

絵画	ニコラ・ド・スタール	コンポジション
	1948年	
絵画	アド・ラインハート	No.114
	1950年	
絵画	ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵
	1953年	
絵画	サム・フランシス	消失にむかう地点の青
	1958年	
絵画	ルーチョ・フォンターナ	空間概念
	1960年	
絵画	ジョーゼフ・アルパース	正方形頌
	1962年	
絵画	フランク・ステラ	River of Ponds IV
	1969年	
絵画	アンディ・ウォーホル	レディース・アンド・ジェントルメン
	1975年	
絵画	アントニ・タビエス	コンポジション
	1977年	
立体	ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界
	1959-66年	
立体	イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン
	1962年	
立体	ジム・ダイン	芝刈機
	1962年	
洋画	村井正誠	天使
	1950年	
洋画	山口薫	ボタン雪と騎手
	1953年	
洋画	森芳雄	女たち
	1954年	
洋画	小山田二郎	愛
	1956年	
洋画	瑛九	黄色い花
	1957-58年	
洋画	オノサト	トシノブ 三つの黒
	1958年	
洋画	杉全直	窪んだ空間B
	1958年	
洋画	中村宏	内乱期
	1958年	
洋画	山田正亮	Work No.B 182
	1958年	
洋画	尾藤豊	拠点の崩壊
	1959-60年	
洋画	堂本尚郎	絵画1962-25
	1962年	
洋画	麻生三郎	胴体と頭と電球
	1964年	

洋画	吉仲太造	遺産
	1964年	
洋画	島田章三	石庭女人図
	1976年	
洋画	斎藤義重	ゼロイスト
	1973年 (原作1950年)	
洋画	三尾公三	FICTION SPACE(X)
	1974年	
洋画	上田薫	なま玉子G
	1976年	
洋画	佐々木四郎	閉ざされた空間III M-5
	1979年	
洋画	白髪一雄	黒大佛(寄託作品)
	1988年	
日本画	下村良之介	鼓舞
	1964年	
立体	戸谷成雄	地霊
	1990年	

展示室6 (前期)

テーマ展示 出原次朗

立体	出原次朗	EWAIPNOMA(作者蔵)
	1991年	
立体	出原次朗	哲学者の故郷(作者蔵)
	1991年	
立体	出原次朗	月の密造(個人蔵)
	1992年	
立体	出原次朗	獣・1(作者蔵)
	1992年	
立体	出原次朗	獣・2(作者蔵)
	1992年	
立体	出原次朗	獣・3(ギャラリー・あおい蔵)
	1992年	
立体	出原次朗	獣・4(個人蔵)
	1992年	
立体	出原次朗	獣・6(個人蔵)
	1992年	
立体	出原次朗	獣・7(作者蔵)
	1992年	
立体	出原次朗	化石のヒト・3(ギャラリー・あおい蔵)
	1992年	
立体	出原次朗	星虫の死骸(作者蔵)
	1993年	
立体	出原次朗	PRIVATE PARADISE(作者蔵)
	1993年	
立体	出原次朗	こうゆうかたちの愛 II(作者蔵)
	1993年	
立体	出原次朗	逃げるものとはじこめる(作者蔵)
	1993年	

展示室6 (後期)

テーマ展示 石黒鏘二

立体	石黒鏘二	Wedge in... (作者蔵)
	1993年	
	1) 金属性の茄子(400×400×h.600)40点	1993年作
	ただし、鉄溶接による初原型は1971年作	
	金属性の植栽(500×500×h.500)1点	1970年作
	金属性の植栽(300×300×h.300)2点	1970年作
	2) B2写真拡大コピー(910×710)13点	1993年作

展示室7

日本画	橋本雅邦	秋景山水図
	1887年頃	
日本画	山元春挙	溪村暮靄図
	1900年頃	
日本画	横山大観	飛泉
	1900年頃	
日本画	竹内栖鳳	狐狸図
	1908年頃	
日本画	村上華岳	梅溪山道
	1914年	
日本画	前田青邨	江島詣
	1917年	
日本画	小茂田青樹	柿
	1919年頃	
日本画	萬鐵五郎	砂丘風雨
	1919-27年	
日本画	小茂田青樹	漁村早春
	1921年	
日本画	入江波光	南欧小景
	1923年	
日本画	村上華岳	魔障之図
	1923年	
日本画	小林古径	洗濯場 その1
	1926年	
日本画	小林古径	洗濯場 その2
	1926年	
日本画	小川芋銭	陶淵明桃花源詩意
	1926年頃	
素描	小林古径	洗濯場 その1 下絵
	1926年	
素描	小林古径	洗濯場 その2 下絵
	1926年	
素描	土田麦僊	蓮華(下図)
	1930年	

展示室8 (前期)

版画	アンリ・マティス 1932年	マラルメ詩集
版画	アンリ・マティス 1948年	ロンサール恋愛詞華集
展示室8（後期）		
版画	瑛九 1951年	驚き
版画	瑛九 1951年	しゃがんで
版画	瑛九 1956年	航海
版画	瑛九 1957年	舞台のピエロ
版画	瑛九 1957年	輪
版画	瑛九 1957年	春のおとずれ
版画	瑛九 制作年不詳	作品
版画	恩地孝四郎 1946年	イマージュ No.2 白い花
版画	恩地孝四郎 1953年	リリック No.24
版画	駒井哲郎 1951年	海底の祭
版画	駒井哲郎 1951年	夜の魚
版画	駒井哲郎 1952年	時間の迷路
版画	駒井哲郎 1960年	蝕果実

版画	駒井哲郎 1973年	魔法陣
版画	関野準一郎 1946年	貝のある静物
版画	関野準一郎 1974年	日本橋
版画	長谷川潔 1930年	アレクサンドル三世橋とフランスの飛行船
版画	長谷川潔 1962年	飾り棚のオブジェ
版画	浜口陽三 1957年	ざくろ
版画	浜口陽三 1961年	黒いさくらんぼ
素描	瑛九 不詳	作品
ロビーなど		
立体	メダルド・ロッソ 1893年	病める子
立体	エルンスト・バルラッハ 1911-12年	忘我
立体	レイモン・デュシャン＝ヴィヨン 1913年	恋人たち
立体	ヴィルヘルム・レームブルック 1913年	立ち上がる青年
立体	アレクサンダー・コールダー 1944年	片膝ついて
立体	ジャコモ・マンズー 1947-66年	ある主題によるヴァリエーション
立体	久野真 1962年	鉛による作品

立体	樫尾正次 1965年	葉っぱのように
立体	野水信 1965年	コの記号 65-3
立体	工藤哲巳 1977年	果てしなく緩急がまどわるマルセル・デュシャン ー予定された未来と固定化された過去の間の脱線ー
屋外展示スペースなど		
立体	コルネリス・ジットマン 1983年	カリブの女
立体	アルナルド・ポモドーロ 1984年	飛躍の瞬間
立体	柳原義達 1982年	風の中の鴉
立体	加藤昭男 1986年	大地
立体	小田襄 1988年	円柱の構造
立体	今井瑾郎 1992年	大地
立体	エミール＝アントワーン・ブールデル 1909年	ベネローブ
立体	エミール＝アントワーン・ブールデル 1914-15年	力
立体	エミール＝アントワーン・ブールデル 1916年	勝利
立体	エミール＝アントワーン・ブールデル 1916年	雄弁
立体	エミール＝アントワーン・ブールデル 1916年	自由

■1993年度第VI期展示作品リスト 1994.1.25～3.13

展示室3		
洋画	森芳雄 1954年	女たち
洋画	島海青児 1954年	うずくまる
立体	エミール＝アントワーン・ブールデル 1908年	両手のペートーヴェン
立体	高田博厚 1937年	女のトルソ
立体	柳原義達 1956年	黒人の女
立体	本郷新 1970年	無辜の民「仏生」

立体	本郷新 1970年	無辜の民「油田地帯」
立体	高田博厚 1979年	裸婦
立体	舟越保武 1979年	シオン
立体	佐藤忠良 1980年	レイ
素描	舟越保武 1979年	シオンのためのエスキス
展示室4		
絵画	パブロ・ピカソ 1902年	青い肩かけの女

絵画	グスタフ・クリムト 1903年	人生は戦いなり(黄金の騎士)
絵画	ラウル・デュフィ 1906年	サントドレスの浜辺
絵画	ピエール・ボナール 1906年頃	子供と猫
絵画	エルンスト・ルードヴィヒ・キルヒナー 1912年	グラスのある静物
絵画	エミール・ノルデ 1915年	静物L(アマゾン、能面等)
絵画	ジャック・ヴィヨン 1920年	存在
絵画	アンリ・マティス 1921-22年	待つ

絵画	ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 1	1927年
絵画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	日の当たる庭	1935年
絵画	ポール・デルヴォー	こだま	1943年
絵画	マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954年
立体	ケーテ・コルヴィッツ	恋人たち II	1913年
立体	エルンスト・バルラッハ	母なる大地 II	1920年
洋画	久米桂一郎	秋景	1892年
洋画	黒田清輝	暖き日	1897年
洋画	安井曾太郎	婦人像	1912年頃
洋画	中村彝	少女裸像	1914年
洋画	坂本繁二郎	海岸の家	1915年
洋画	木村荘八	壺を持つ女	1915年
洋画	岸田劉生	高須光治君之肖像	1915年
洋画	河野通勢	自画像	1917年
洋画	小出楢重	N夫人像	1918年
洋画	清水登之	森に憩う人	1925年
洋画	長谷川利行	酒売場	1927年
洋画	古賀春江	夏山	1927年
洋画	野口弥太郎	門	1931年頃
洋画	川口軌外	二婦	1939年
洋画	須田国太郎	夏	1941年

展示室5

絵画	ニコラ・ド・スタール	コンポジション	1948年
絵画	アド・ラインハート	No.114	1950年
絵画	ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1953年

絵画	サム・フランシス	消失にむかう地点の青	1958年
絵画	ジョー・ゼフ・アルバース	正方形頌	1962年
絵画	フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969年
絵画	アンディ・ウォーホル	レディース・アンド・ジェントルメン	1975年
絵画	アントニ・タビエス	コンポジション	1977年
洋画	香月泰男	散歩	1953年
洋画	山口薫	ボタン雪と騎手	1953年
洋画	金山康喜	静物	1956年
洋画	瑛九	黄色い花	1957-58年
洋画	山田正亮	Work No.B 182	1958年
洋画	オノサト トシノブ	三つの黒	1958年
洋画	杉全直	窪んだ空間B	1958年
洋画	島海青児	石の街(ハルー マチュ・ピチュ)	1961年
洋画	山口長男	屏形	1963年
洋画	菅井汲	ナショナル ルート No.11	1964年
洋画	猪熊弦一郎	マンハッタンA	1966年
洋画	脇田和	黄いろの鳥	1970年
洋画	斎藤義重	ゼロイスト	1973年(原作1950年)
洋画	島田章三	石庭女人図	1976年
洋画	佐々木四郎	閉ざされた空間III M-5	1979年
洋画	中西夏之	紫・むらさき XIX	1983年
洋画	百瀬寿	Square-NE XIV: Twelve Stripes E	1987年
洋画	加納光於	繁み・運動・エレメントB	1988年
日本画	下村良之介	鼓舞	1964年
立体	戸谷成雄	地霊	1990年

立体	ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界	1959-66年
立体	ジム・ダイン	芝刈機	1962年
立体	イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン	1962年

展示室6

テーマ展示 原 裕治

立体	原 裕治	溢水No.9(作家蔵)	1993年
立体	原 裕治	溢水No.10(作家蔵)	1994年
立体	原 裕治	溢水No.11(作家蔵)	1994年
立体	原 裕治	溢水No.12(作家蔵)	1994年
立体	原 裕治	アポクリファNo.1(作家蔵)	1994年
立体	原 裕治	アポクリファNo.2(作家蔵)	1994年
立体	原 裕治	アポクリファNo.3(作家蔵)	1994年
立体	原 裕治	アポクリファNo.4(作家蔵)	1994年
立体	原 裕治	アポクリファNo.5(作家蔵)	1995年

展示室7 (*は、半田市個人蔵)

版画	平川清蔵	をんな(『詩と版画』第2輯、1923年所収)*	1923年
版画	萬歳五郎	ヴェールの人(『HANGA』第3輯、1924年所収)*	1924年
版画	深澤栄一	土蔵のある風景(『HANGA』第3輯、1924年所収)*	1924年
版画	逸見亨	畔橋(『詩と版画』第9輯、1925年所収)*	1925年
版画	川上澄生	うなち(『詩と版画』第10輯、1925年所収)*	1925年
版画	川上澄生	レダ(『版藝術』第17号、1933年所収)*	1933年
版画	藤森静雄	(『詩と版画』第13輯、1925年表紙)*	1925年
版画	藤森静雄	(『版藝術』第29号、1934年表紙)*	1934年
版画	棟方志功	花と少女(『版藝術』第2号、1932年所収)*	1932年
版画	谷中安規	『影繪芝居』第9景(『版藝術』第8号、1932年所収)*	1932年

版画	谷中安規	「影繪芝居」第12景(合本「版画」1933年再収)*
版画	谷中安規	祭り(「版藝術」1933年4月号所収)*
版画	谷中安規	鍵(「白と黒」第41号、1933年所収)*
版画	谷中安規	怪鳥(「白と黒」第43号、1933年所収)*
版画	山本鼎	漁夫
版画	山本鼎	風景
版画	深沢索一	丘上走土
版画	川上澄生	異国雨の夕景
版画	平川清蔵	風景
版画	谷中安規	飛ぶ首
版画	谷中安規	朝鮮(民家)
版画	谷中安規	赤い人魚
版画	谷中安規	自画像
版画	谷中安規	蝶を吐く人
版画	谷中安規	虎ねむる
版画	谷中安規	詩巻(こころの花1)
版画	谷中安規	ゴンドラの月
版画	谷中安規	堂庵夢がたり
版画	谷中安規	童子騎像
版画	前川千帆	渋谷百軒店
版画	前川千帆	本所工場地帯
版画	前川千帆	神田青物市場
版画	前川千帆	深川木場
版画	前川千帆	新宿夜景
版画	永瀬義郎	香港夜景

版画	藤牧義夫	銀行
版画	藤牧義夫	まくら橋
版画	川西英	古道具屋
展示室B		
版画	恩地孝四郎	丘頂
版画	恩地孝四郎	卓上静物
版画	恩地孝四郎	花
版画	恩地孝四郎	明治神宮
版画	恩地孝四郎	腰越海岸
『月映』		
版画	田中恭吉	病める夕
版画	田中恭吉	太陽と花
版画	藤森静雄	自然と人生
版画	藤森静雄	夜
版画	藤森静雄	あゆめるもの
版画	藤森静雄	心のながれ
版画	藤森静雄	人類
版画	恩地孝四郎	友病あり(抒情IV)
版画	恩地孝四郎	抒情I
版画	恩地孝四郎	抒情III
版画	恩地孝四郎	ただよえるもの
版画	恩地孝四郎	夏日小景
版画	田中恭吉	そこにのみかがやくひかり
版画	田中恭吉	ひそめるもの
版画	藤森静雄	夜のピアノ

版画	藤森静雄	ピアノと木
版画	藤森静雄	こころのかげ
版画	藤森静雄	妹は病みぬ
版画	藤森静雄	わがかけ
版画	恩地孝四郎	底のくろしみ
版画	恩地孝四郎	抒情II
版画	恩地孝四郎	抒情VIII(われいかる)
版画	恩地孝四郎	抒情IX(のぞみすてず)
版画	田中恭吉	絢はれゆく歓喜と悲愁
版画	藤森静雄	無限への瞳
版画	藤森静雄	たましひの孤独
版画	藤森静雄	地に泪するもの
版画	藤森静雄	太陽
版画	藤森静雄	地をたがやす心
版画	恩地孝四郎	わかれとのぞみと1(抒情五種のうち)
版画	恩地孝四郎	わかれとのぞみと2(抒情五種のうち)
版画	恩地孝四郎	わかれとのぞみと3(抒情五種のうち)
版画	恩地孝四郎	わかれとのぞみと4(抒情五種のうち)
版画	恩地孝四郎	わかれとのぞみと5(抒情五種のうち)
版画	恩地孝四郎	告別
版画	藤森静雄	失題
版画	永瀬義郎	「詩と版画」第1輯、1922年表紙*
版画	藤森静雄	鐘丘(「詩と版画」第3輯、1923所収)*
版画	恩地孝四郎	白昼浴(「詩と版画」第3輯、1923所収)*

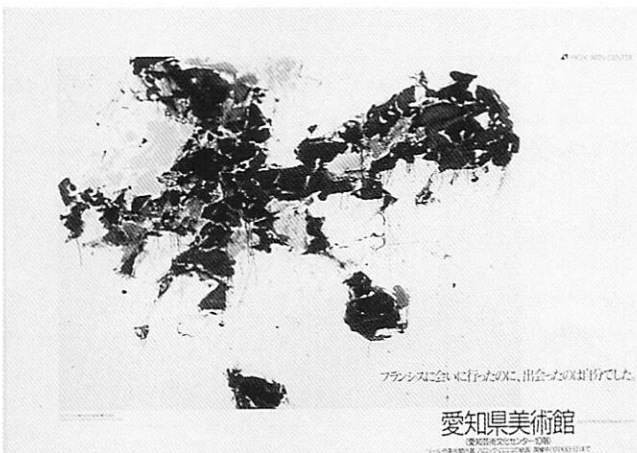
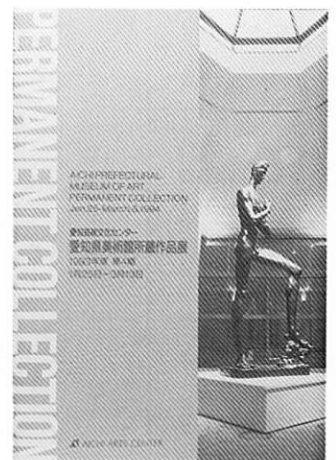
版画	恩地孝四郎	人貌(『詩と版画』第8輯、1924年表紙)* 1924年	立体	エルンスト・バルラッハ	忘我 1911-12年	立体	アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間 1984年
版画	恩地孝四郎	幸秋(『詩と版画』第7輯、1924年所収)* 1924年	立体	ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年 1913年	立体	柳原義達	風の中の鴉 1982年
版画	恩地孝四郎	人体-少女(『詩と版画』第11輯、1925年所収)* 1925年	立体	レイモン・デュシャン=ヴィヨン	恋人たち 1913年	立体	加藤昭男	大地 1986年
版画	恩地孝四郎	「版画を始めた頃の思い出」(『詩と版画』1925年)* 1925年	立体	アレクサンダー・コールドー	片膝ついて 1944年	立体	小田襄	円柱の構造 1988年
版画	恩地孝四郎	浴室午前(『HANGA』第13輯、1928年所収)* 1928年	立体	ジャーコモ・マンズー	ある主題によるヴァリエーション 1947-66年	立体	今井瑾郎	大地 1992年
版画	恩地孝四郎	衣をつけたる(人体考察No.3)* (『風』再刊第1号、1929年所収)	立体	樺尾正次	葉っぱのように 1965年	立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	ペネロープ 1909年
版画	恩地孝四郎	『季節様』恩地孝四郎詩文集、アオイ書房 1935年	立体	野水信	コの記号 65-3 1965年	立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	力 1914-15年
版画	恩地孝四郎	抒情 私は信ずる(『版藝術』第1号、1932年所収) 1932年	立体	久野真	鋼鉄による作品 1982年	立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	勝利 1916年
版画	恩地孝四郎	新膚(『版藝術』第5号、1932年所収) 1932年	立体	荒木高子	砂の聖書 1983年	立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	雄弁 1916年
版画	恩地孝四郎	『版藝術』第31号、1934年表紙 1934年	立体	北山善夫	はなはだ大きいと言ふべきである 1984年	立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	自由 1916年

ロビーなど

版画 メダルド・ロッソ 病める子
1893年

屋外展示スペースなど

立体 コルネリス・ジットマン カリブの女
1983年



貸出 Loan of Collection

貸出作品一覧

No.	作家名	作品名	貸出先、会場	貸出期間	展覧会名
1.	平山郁夫	楼蘭の遺跡、昼	茨城県近代美術館・富山県立近代美術館	1993.3.29-6.30	平山郁夫展
2.	中村正義 吉岡堅二	爽爽 鶴	栃木県立美術館 同上	1993.4.8-6.2 "	戦後の日本画の転換期 1950年代を中心に
3.	山本芳翠	西洋裸婦	丸栄スカイル・郡山市立美術館 ・岐阜県美術館	1993.4.8-8.22	山本芳翠の世界
4.	須田 寿 須田 寿	国境の家 寒村	世田谷美術館 同上	1993.4.10-5.16 "	須田 寿展 同上
5.	東山魁夷	雪の山峡	丸栄スカイル	1993.4.15-20	東山魁夷 雪月花展
6.	上村松篁	玄鶴	丸栄スカイル	1993.4.29-5.11	美の系譜 上村松園、松篁淳之
7.	金山康喜	静物	石巻文化センター	1993.6.6-8.5	静物のある風景 ちいさきものたちの詩
8.	児島善三郎	伊豆の海	福岡市美術館・茨城県近代美術館 ・三重県立美術館	1993.7.5-94.2.26	児島善三郎展
9.	中村善策	新雪の頃	市立小樽美術館	1993.7.10-9.30	中村善策展
10.	モホリ・ナジ	コンストラクション	徳島県立近代美術館	1993.7.25-10.6	亡命者の軌跡 アメリカに渡った芸術家たち
11.	伊東深水	大島の黎明	高松市美術館	1993.9.1-12.25	美人画の巨匠 伊東深水展
12.	中村正義 中村正義	人物 峠への路	練馬区立美術館 同上	1993.9.2-10.31 "	昭和日本画の軌跡 同上
13.	木村荘八 木村荘八	壺を持つ女 わたしのラヴァさん	練馬区立美術館・福島県立美術館 同上	1993.9.11-11.23 "	木村荘八展 同上
14.	藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉	夢に見し山 すみえの山 雨	宮城県美術館 同上 同上	1993.9.16-10.24 " "	近代の文人画展 同上 同上
15.	山口長男	屏形	鹿児島市立美術館	1993.9.20-12.15	山口長男展
16.	北川民次 中山 巍 小島善太郎 海老原喜之助	南国の花 街角 房州風景 ゲレンデ	豊橋市美術博物館 同上 同上 同上	1993.9.27-11.7 " " "	日本近代洋画の歩み 同上 同上 同上
17.	岡田三郎助	山県有朋像	佐賀県立美術館	1993.9.28-11.14	近代日本洋画の栄華 岡田三郎助

No.	作家名	作品名	貸出先、会場	貸出期間	展覧会名
18.	佐藤太清	旅の夕暮	小倉そごう・札幌そごう・神戸そごう	1993.9.30-11.25	日本芸術院会員展
19.	ベン・ニコルソン	1993(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	テイト・ギャラリー、ロンドン	1993.9.30-94.1.24	ベン・ニコルソン展
20.	速水御舟	西郊小景	山種美術館	1993.10.9-11.23	速水御舟展
21.	猪熊弦一郎 鈴木 誠	馬と裸婦 横臥裸婦	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 同上	1993.10.11-12.25 "	藤島武二と9人の若き洋画家たち 同上
22.	ロバート・ラウシェンバーク	コース	広島市現代美術館	1993.10.25-94.1.26	ロバート・ラウシェンバーク展
23.	黒田清輝 黒田清輝	暖き日 花と猫	稲沢市荻須記念美術館 同上	1993.10.30-11.28 "	黒田清輝と藤島武二 同上
24.	三尾公三 三尾公三	FICTION SPACE 鏡の前	国立国際美術館 同上	1993.11.30-94.2.10 "	三尾公三展 同上
25.	前田青邨 大沢鉦一郎	雨の蘇州 ジンベを着た少女	東京日本橋高島屋 ・大阪なんば高島屋 同上	1993.12.13-94.3.11 "	日本美術院百年史刊行記念 新芸術の樹立展 同上
26.	上村松篁	玄鶴	パリ三越・東京日本橋三越・大阪高麗橋三越	1993.12.15-94.4.15	上村松篁・淳之自選展
27.	梅原龍三郎 安井曾太郎	若き羅馬人 承德喇嘛廟	千葉そごう美術館・河口湖美術館 ・東京都庭園美術館 同上	1993.12.15-94.4.15 "	全国美術館コレクション名品展 同上
28.	川崎千虎 川崎千虎	佐々木高綱被甲図 頼朝朽木隠れ	福岡県立美術館 同上	1993.12.18-94.2.16 "	川辺御楯と近代大和絵展 同上
29.	宮本三郎	家族	石川県立美術館	1993.12.20-94.2.6	石川の美術
30.	小山田二郎 小山田二郎	こわす者 愛	小田急美術館・栃木県立美術館 同上	1994.1.2-4.10 "	小山田二郎展 同上
31.	横山大観	飛泉	名都美術館	1994.1.17-2.20	細川家旧蔵 勅題画を中心とした横山大観展
32.	森 緑翠	蘇州追憶	豊橋市美術博物館	1994.3.1-3.30	森 緑翠展
33.	海老原喜之助	雪山と樵	目黒区美術館	1994.3.1-4.20	めぐろの美術史展 洋画・版画之巻
34.	山本丘人	幻雪	東京国立近代美術館	1994.3.1-5.11	山本丘人展
35.	守屋多々志 守屋多々志	聴聞（北条政子） 大原寂光	岐阜県美術館 同上	1994.3.31-5.18 "	守屋多々志展 同上

修復作品一覧

NO	作家 名	作品名	種別	状態	修復内容	修復者
1	アンドレ・ポーシャン	フィアンセを訪ねて	油彩	支持体の変形、支持体の脆弱化	コールドプレス、 ストリップライニング、 木枠の取り替え	森京子(館内修復)
2	恩地孝四郎	腰越海岸	版画	紙の酸化	画面洗浄 (バスブリーチ)	森京子(館内修復)
3	恩地孝四郎	明治神宮	版画	紙の酸化	画面洗浄 (バスブリーチ)	森京子(館内修復)
4	恩地孝四郎 他	月映 III	版画	形状冊子・紙の酸化 平面性の欠如	解体・画面洗浄 マット装	岩井絵画修復
5	恩地孝四郎 他	月映 IV	版画	形状冊子・紙の酸化 平面性の欠如	解体・画面洗浄 マット装	岩井絵画修復
6	恩地孝四郎 他	月映 V	版画	形状冊子・紙の酸化 平面性の欠如	解体・画面洗浄 マット装	岩井絵画修復
7	恩地孝四郎 他	月映 VI	版画	形状冊子・紙の酸化 平面性の欠如	解体・画面洗浄 マット装	岩井絵画修復
8	榎尾正次	葉っぱのように	立体	破損 (和紙部の裂け)	破損部修繕、展示金具の増補	榎尾正次
9	川上澄生	異国雨の夕景	版画	紙の酸化	画面洗浄 (バスブリーチ)	森京子(館内修復)
10	谷中安規	詩巻 こころの花	版画	紙の酸化	画面洗浄 (バスブリーチ)	森京子(館内修復)
11	谷中安規	朝鮮民家	版画	紙の酸化	画面洗浄 (バスブリーチ)	森京子(館内修復)
12	平川清蔵	風景	版画	紙の酸化	画面洗浄 (バスブリーチ)	森京子(館内修復)
13	深沢索一	丘上走土	版画	紙の酸化	画面洗浄 (バスブリーチ)	森京子(館内修復)
15	前川千帆	神田青物市場	版画	紙の酸化	画面洗浄 (バスブリーチ)	森京子(館内修復)
16	前川千帆	渋谷百軒店	版画	紙の酸化	画面洗浄 (バスブリーチ)	森京子(館内修復)
17	前川千帆	新宿夜景	版画	紙の酸化	画面洗浄 (バスブリーチ)	森京子(館内修復)
18	前川千帆	深川木場	版画	紙の酸化	画面洗浄 (バスブリーチ)	森京子(館内修復)
19	前川千帆	本所工場地帯	版画	紙の酸化	画面洗浄 (バスブリーチ)	森京子(館内修復)
20	村井正誠	Cité B	油彩	埃による汚染 虫の分泌物による汚染	画面洗浄、ルースライニング、 木枠取り替え、補彩、ニス塗布	渡辺健一
21	村井正誠	ゴルフジュアンの船	油彩	埃による汚染 虫の分泌物による汚染 支持体のたるみ	画面洗浄、ルースライニング、 木枠取り替え、補彩、ニス塗布	渡辺健一

教育普及事業実施状況

Educational Service

1993(平成5)年度は下記の事業を実施した。

1) 展覧会カタログ等の資料作成

《パウル・クレーの芸術》

A4判変形、367ページ 1993.4発行

《小川芋銭展》

A4判変形、201ページ 1993.6発行

《現代の陶芸=1950-1990》

A4判変形、127ページ 1993.7発行

《安田靫彦展》

A4判変形、199ページ 1993.9発行

《リール市美術館所蔵 バロック・ロココの絵画》

A4判変形、308ページ 1993.5発行

《戸張孤雁と大正期の彫刻》

A4判変形、158ページ 1994.1発行

《フランティシェク・クプカ》

A4判変形、268ページ 1994.3発行

《愛知県美術館所蔵作品展 1993年度 第3期》

21×14.8センチ 16ページ 1993.10発行

《愛知県美術館所蔵作品展 1993年度 第4期》

21×14.8センチ 16ページ 1994.1発行

《愛知県美術館展覧会のご案内 1994.4-1995.3》

リーフレット 1993.3発行

《愛知県美術館 新収蔵作品展》

リーフレット 1993.7発行

2) 企画展関連の記念講演会の開催

『パウル・クレーの芸術』

第1回記念講演会：4月3日(土)

講師：アレクサンダー・クレー氏

(クレー財団理事長)

ヨーゼフ・ヘルフェンシュタイン氏

(クレー財団主任学芸員)

第2回記念講演会：4月24日(土)

講師：前田富士男氏(慶應義塾大学教授)

『小川芋銭展』

記念講演会：6月12日(土)

講師：尾崎正明氏(東京国立近代美術館主任研究官)

『現代の陶芸(1950-1990)』

第1回記念講演会：7月24日(土)

講師：鈴木健二氏(美術評論家)

第2回記念講演会：8月7日(土)

講師：中村錦平氏(陶芸家・多摩美術大学教授)

愛知の古陶-本多コレクション展記念講演会：

8月6日(金)

講師：本多静雄氏(美術品収集家)

『安田靫彦展』

記念講演会(対談)：9月25日(土)

講師：安田建一氏

(安田靫彦長男・中央公論美術出版社長)

聞き手：浅野 徹(愛知県美術館長)

『リール市美術館所蔵 バロック・ロココの絵画』

※開館1周年記念事業として「バロック・ロココの芸術空間」と題した全6回の連続講座を開催した。

第1回：10月29日(金)

講師：アルノ・ブルジョン・ド・ラヴェルニエ氏
(リール市美術館長)

第2回：11月12日(金)

講師：河村錠一郎氏(一橋大学教授)

第3回：11月27日(土)

講師：中村俊春氏(京都大学助教授)

第4回：12月3日(金)

講師：谷川 渥氏(國學院大学助教授)

第5回：12月11日(土)

講師：丹生谷貴志氏(神戸市外国語大学助教授)

第6回：12月12日(日)

講師：福田晴慶氏(大阪市立大学助教授)

『戸張孤雁と大正期の彫刻』

第1回記念講演会：2月5日(土)

講師：岡田隆彦氏(美術評論家)

第2回記念講演会：2月26日(土)

講師：深山孝彰(愛知県美術館学芸員)

『フランティシェク・クプカ』

第1回記念講演会：3月26日(土)

講師：高見堅志郎氏(武蔵野美術大学教授)

第2回記念講演会：4月16日(土)

講師：本江邦夫氏(東京国立近代美術館美術課長)

3) ビデオテークでのAV機器を活用した鑑賞教育

ア ハイビジョン番組の制作

所蔵作品ならびに企画展に関係する番組を制作した。

「色彩の宇宙 フランティシェク・クプカ」

ウ ビデオ番組の購入

美術関連のビデオ番組を4本購入し、自主制作番組とともに公開した。

エ 所蔵作品画像検索情報の作成

既に公開している200件の画像情報に追加するため、新たに50件の画像情報を制作した。

4) ワークシートの制作とそれによる鑑賞教育の実施

小・中学学生を対象とした所蔵作品に関するワークシートを発行し、所蔵作品展観覧の小・中・高校生に配布した。作品はグスタフ・クリムト《人生は戦いなり(黄金の騎士)》を取り上げた。

5) 博物館実習生の受け入れ

本年度は、下記の通り三期に分け計6名の博物館実習生を受け入れた。

第一期 1995年7月19日(月)ー7月23日(金)

加藤みどり (武蔵野美術大学4年)

深谷拓吾 (金沢美術工芸大学4年)

第二期 1995年7月26日(月)ー7月30日(金)

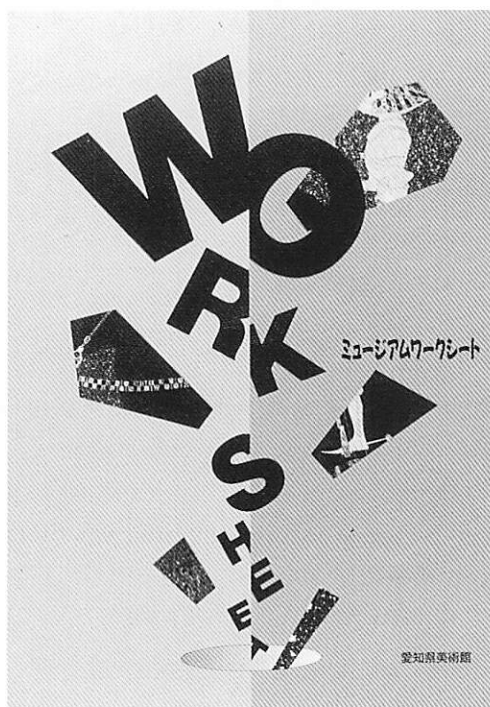
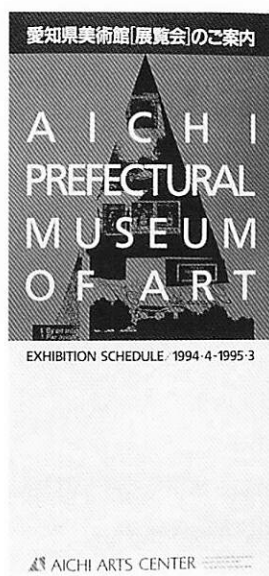
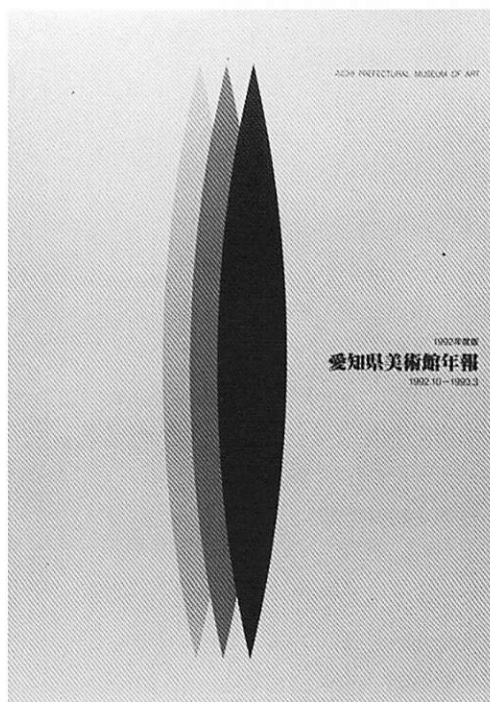
津田直子 (多摩美術大学大学院)

長縄 宣 (金沢美術工芸大学4年)

第三期 1995年8月2日(月)ー8月6日(金)

梶原康宏 (多摩美術大学4年)

加藤かおり (名古屋芸術大学4年)



学芸員の調査研究

浅野 徹 ・「フォーヴィスムと日本近代洋画―斎藤与里と高村光太郎の役割―」『フォーヴィスムと日本近代洋画』カタログ
・「戦時下の美術―《黄瀬川陣》を中心として―」『安田靫彦展』カタログ

木本文平 ・「作家・作品解説」『愛知県美術館所蔵作品選』
「作家解説」『近代の日本画―西洋との出会いと対話―』カタログ
・「戦後愛知の美術―復興から現代へ―」『愛知の美術館関係年表』
「作家解説」『20世紀愛知の美術』カタログ
・「作品解説」『安田靫彦関係文庫』
「安田靫彦展」カタログ
・テーマ展示「原裕治」

栗田秀夫 ・「作家・作品解説」『愛知県美術館所蔵作品選』
・「日本画―〈風景〉と〈美術〉の時代の伝統絵画」
「章解説」『近代の日本画―西洋との出会いと対話―』カタログ
・「作家解説」『20世紀愛知の美術』カタログ
・「17世紀のフランス絵画」『バロック・ロココの絵画』カタログ
・「人生は戦いなり(黄金の騎士)」『AAC』2号
・「近代の日本画 速水御舟《洛北修学院村》」
『AAC』3号
・「〈所蔵作品研究〉グスタフ・クリムト《人生は戦いなり》―様式が含意するものをめぐって―」
『愛知県美術館研究紀要』第1号

坂下雄彦 ・「作家解説」『20世紀愛知の美術』カタログ

高橋秀治 ・「作家・作品解説」『愛知県美術館所蔵作品選』
・「作家解説」『近代の日本画―西洋との出会いと対話―』カタログ
・「作家解説」『20世紀愛知の美術』カタログ
・テーマ展示「石黒鏞二」

寺門臨太郎 ・「作家・作品解説」『愛知県美術館所蔵作品選』
・「作家解説」『近代の日本画―西洋との出会いと対話―』カタログ
・「作家解説」『20世紀愛知の美術』カタログ
・「クレイと日本：受容の端緒」『邦語文献目録』
「展覧会歴」『バウル・クレイの芸術』カタログ
・「Permanent Collection」『AAC』7号
・「日本におけるクレイ受容の端緒」『愛知県美術館研究紀要』第1号

長屋菜津子 ・「作家解説」『近代の日本画―西洋との出会いと対話―』カタログ

・「作家解説」『現代の陶芸=1950~1990=』カタログ

・「現代の陶芸=1950~1990=」『AAC』5号

・「愛知県美術館の保存対策」『愛知県美術館研究紀要』第1号

拝戸雅彦 ・「作家・作品解説」『愛知県美術館所蔵作品選』
・「作家解説」『20世紀愛知の美術』カタログ
・「クレイの著作解題」『クレイ年譜』
「バウル・クレイの芸術」カタログ
・「イタリアのバロック」『バロック・ロココの絵画』カタログ

・「バロック・ロココ バロックからの8つのチチェローネ」『AAC』6号

長谷川三郎 ・「ロダンと日本の彫刻家たち」『戸張弧雁と大正期の彫刻』カタログ

藤島美菜 ・「ワークシート グスタフ・クリムト《人生は戦いなり》」
・「ワークシート制作に関する報告」(第5回アミューズ・ヴィジョン研究会、1993年1月)

古田浩俊 ・「作家・作品解説」『愛知県美術館所蔵作品選』
・「作品解説」『作家解説』
「フォーヴィスムと日本近代洋画」カタログ
・「作家解説」『近代の日本画―西洋との出会いと対話―』カタログ

・「作家解説」『20世紀愛知の美術』カタログ

・「クプカと東洋」
「章解説」
「作品解説」
「参考文献」
『フランティシエク・クプカ』カタログ

牧野研一郎 ・「作家・作品解説」『愛知県美術館所蔵作品選』
・「フォーヴィスムの日本的展開」
「作品解説」
「作家解説」
「フォーヴィスムと日本近代洋画」カタログ

・「作家解説」『近代の日本画―西洋との出会いと対話―』カタログ

・「作家解説」『20世紀愛知の美術』カタログ

・「章解説」
「作家解説」
『現代の陶芸=1950~1990=』カタログ

深山孝彰 ・「作家・作品解説」『愛知県美術館所蔵作品選』
・「作家解説」『近代の日本画―西洋との出会いと対話―』カタログ

・「近代愛知の美術―明治から昭和戦前まで―」

「愛知の美術関連年表」
「参考文献」
「作家解説」
『20世紀愛知の美術』カタログ

- ・「戸張弧雁の芸術とその意義」「章解説」「参考文献」「戸張弧雁と大正期の彫刻」カタログ
- ・「大正期 愛知美術の近代化」『AAC』3号
- ・「戸張弧雁と大正期の彫刻」『AAC』7号
- ・テーマ展示「出原次朗」
- ・「愛知県美術館 美術情報検索システム」『アートエデュケーション』17号
- ・「コンピューターによる美術館業務支援」『アート・ドキュメンテーション通信』19号

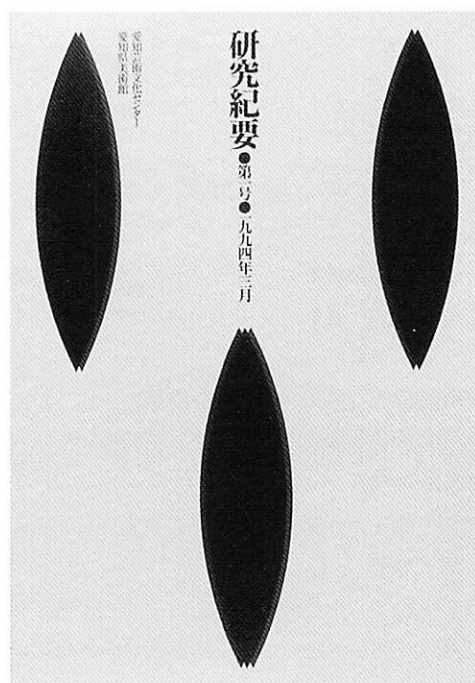
村上博哉

- ・「作家・作品解説」『愛知県美術館所蔵作品選』
- ・「フランスのフォーヴィスム」「作品解説」「作家解説」『フォーヴィスムと日本近代洋画』カタログ

- ・「作家解説」『近代の日本画－西洋との出会いと対話－』カタログ
- ・「作家解説」『20世紀愛知の美術』カタログ
- ・「《垂直の面》と《夢》」「章解説」「作品解説」『フランティシエク・クブカ』カタログ
- ・「Collection + Exhibition」『AAC』1号
- ・「フォーヴィスム」『AAC』2号
- ・「パウル・クレー 人と芸術」『AAC』4号
- ・「色彩の宇宙 クブカ展」『AAC』7号

村田真宏

- ・「作家・作品解説」『愛知県美術館所蔵作品選』
- ・「近代日本画の出発－その運命づけられたもの－」「章解説」「作家解説」「年譜」『近代の日本画－西洋との出会いと対話－』カタログ
- ・「作家解説」『20世紀愛知の美術』カタログ
- ・「画家としての出発－明治期の成果－」「章解説」「作品解説」「年譜」『安田靫彦展』カタログ
- ・「近代の日本画 菱田春草《落葉》」『AAC』3号
- ・「安田靫彦展」『AAC』5号
- ・「作品情報システム報告」（美術館等運営研究協議会《美術館教育と情報》口頭発表、1993年2月）
- ・「作品画像情報検索システム報告」（全国ハイビジョン大会口頭発表、1993年2月）
- ・「美術館と画像データベース」シンポジウム（パネラー参加、1993年2月）



貸館事業（ギャラリー）

Galleries for Rent

ア 利用状況（1993年度）

美術館ギャラリーの展示室において開催された展覧会は、174件で、各展示室の利用率は、すべて100%となっている。また入場者数は80万人を越えており、多数の県民に親しまれ、利用されてきている。

（ア）展示室別利用状況

利 用 月	展 示 室 別 利 用 日 数											
	A室	B室	C室	D室	E室	F室	G室	H室	I室	J室	審査保管室	
											第 1	第 2
1993年 4月	26 ^日	26 ^日	26 ^日	26 ^日	26 ^日	26 ^日	26 ^日	26 ^日	26 ^日	26 ^日	7 ^日	9 ^日
5月	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	13	15
6月	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	4	2
7月	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	11	11
8月	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	10	13
9月	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	5	9
10月	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	15	14
11月	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	9	16
12月	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	1	9
1994年 1月	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	2	6
2月	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	—	8
3月	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	14	4
計	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	91	116
利用可能 日数(A)	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	358 ^日	358 ^日
利用日数 (B)	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	298 ^日	91 ^日	116 ^日
利用率 (B/A)	100 [%]	100 [%]	100 [%]	100 [%]	100 [%]	100 [%]	100 [%]	100 [%]	100 [%]	100 [%]	25.4 [%]	32.4 [%]

(イ) 展覧会種別利用状況及び入場者数

利 用 月	展 覧 会 種 別 利 用 件 数								入場者数
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	計	
1993年 4月	4 件	6 件	— 件	— 件	6 件	— 件	— 件	16 件	63,165 人
5月	3	10	2	—	2	—	—	17	63,955
6月	5	5	2	2	2	—	1	17	51,605
7月	5	4	—	1	5	—	3	18	42,401
8月	5	8	—	—	4	—	—	17	71,908
9月	5	2	—	—	3	—	2	12	116,783
10月	5	5	—	1	2	2	—	15	57,715
11月	6	5	—	2	3	—	—	16	52,447
12月	6	6	—	—	2	—	—	14	43,918
1994年 1月	3	8	—	—	3	1	—	15	178,369
2月	1	—	—	—	1	1	—	3	12,763
3月	6	1	—	—	4	2	1	14	49,658
計	54	60	4	6	37	6	7	174	804,687

(注) 総合展とは、複数の種別にまたがる展覧会であり、規模の大小には関係ない。なお、件数及び入場者数は、展覧会会期の初日に属する月で整理してある。

(ウ) その他

「上海博物館展」について

1993年9月4日から26日まで8階ギャラリーA～D室において、愛知県美術館の共催により実施。7万人を越える入場者があった。

主 催 上海博物館、愛知県美術館、中日新聞社、東海テレビ放送、東海ラジオ放送

企画協力 東京国立博物館

内 容 中国三大博物館の一つとして、そのコレクションの質の高さが世界的に知られている上海博物館の優品（海外初公開の宋・元時代の絵画、書跡を始め青銅器、玉器、彫刻、陶磁、漆工、染織など）126件を展示した。

入場者数 70,500人

1993年度ギャラリー展示室利用団体一覧表

[illegible]

管理・運営

Basic Concept/Major Objectives

美術館運営の基本方針

美術館の運営に当たっては、次に掲げる基本理念等のもと、県民に親しまれる事業展開を図ることとしている。

●基本理念

県民の芸術文化ニーズの高度化・多様化に応じていく美術館として、我々の生きる“現代の視点”に立ち、美術文化の動向とその新たな展開に積極的に取り組んでいく、“活動する”美術館をめざす。

●基本的性格

ア 美術文化の将来を切り拓く視点の確保

現代美術の動向を踏まえつつ、他の芸術分野との結びつきも含めた新しい美術文化動向に柔軟に対応する。

イ 中部圏の美術文化の発振力向上への寄与

中部圏を中心とする美術館等の協力と連係による活動のセンター的性格を有することにより、美術文化の発振力の向上に寄与する。

ウ 国際的な美術文化の交流の場

国際的な視野にたった美術文化の交流を促進する上で、わが国の拠点の一つとして活動し、その中から新たな創造の芽を育む。

エ 日常生活と美術文化がコミュニケーションする場の形成

日常生活の中で気軽に優れた美術に接することができ、その中で親しみや潤いの得られる開かれた美術館とする。

オ 県民の参加による積極的な活動の展開

あらゆる世代の県民が美術について知性・感性を磨き、また、創造の喜びを味わうことのできるような活動の場としての美術館をめざす。

カ 複合機能を活かした柔軟な活動の展開

複合施設としての芸術文化センターの一翼を担う美術館として、その諸機能を活かして他部門の協力のもと、施設枠を超えた機能・スペースの活用などにより、広がり多様性のある展示等を柔軟に展開する。

●事業展開

ア 収集・保存

旧美術館の30余年にわたるコレクションに加え、以下の収集方針のもとにコレクションの一層の充実をめざして収集に取り組んでいる。

- (ア) 20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解するうえで役立つ作品
 - (イ) 現代を刻印するにふさわしい作品
 - (ウ) 愛知県としての位置を踏まえた特色あるコレクションを形成する作品
 - (エ) 上記の作品・作家を理解するうえで役立つ資料
- 収集した美術品を良好な状態に保ち、後世に伝えていく

ために、作品の保存には十分な配慮が払われねばならない。そのため、5階及び6階に収蔵庫、5階に企画保管庫、修復室などの設備などが設けられており、保存・修復の専門的な知識と経験をもった専門の学芸スタッフが配属されている。

イ 調査研究

作品収集や企画展開の基盤となるのは、豊かな経験と知識を有する学芸スタッフによる専門的で幅広い研究活動である。研究用の施設として5階に撮影室と暗室、11階に研究資料室が設けられている。その他、調査研究に欠くことのできない文献資料は、貴重な「西洋美術文献資料」22,398冊を含め、1階のアートライブラリーに収蔵されている。

ウ 企画展示

美術館の企画による展覧会は、10階の展示室1～3で開催される。美術の様々な領域に目を向け、歴史に残る優れた芸術家の回顧や新しい美術動向の紹介など、多彩なテーマの企画展を概ね下記の方針に沿って開催している。

- (ア) 20世紀美術を系統的に紹介する国際展
- (イ) 世界の現代美術を紹介する国際展
- (ウ) 時代・地域に限定されない国際展
- (エ) 近代日本美術に関するテーマ展、回顧展
- (オ) 現代日本美術に関するテーマ展、個展
- (カ) 愛知県、東海地域に関する美術展
- (キ) 地域に関連の深い近現代作家の小規模展または学芸員の研究成果をもとにした小規模展

エ 所蔵作品展示

美術館が収集した作品は、10階の展示室4～8及び10階と12階に設けられた屋外展示スペースで、原則として以下の展示構成に基づいて公開している。

展示室4 20世紀前半の国内外の美術動向の展示

展示室5 20世紀後半の国内外の美術動向の展示

展示室6 音や光を伴う作品の展示、各種のテーマによる特集展示

展示室7 近現代日本画の展示

展示室8 20世紀版画・素描の展示

屋外展示スペース 屋外での展示が望ましい大型彫刻・立体の展示

展示室の一部に自然光を取り入れるなど、個々の作品を最適の条件のもとで鑑賞できるように配慮されている。これらの展示室、展示スペースを一巡することにより、20世紀初頭から今日に至るまでの国内外の美術の歴史的展開をたどることができる。また、各展示室の基本的性格に基づいたテーマ設定を行い、年間4～6回の展示替

えを行っている。

オ 教育普及

あらゆる世代の人々が美術に対する親しみと理解を深めることができるよう、以下の活動を行っている。

(ア) 10階ビデオテークでのAV機器による情報提供

54インチハイビジョンプロジェクター2台に企画展の見所や展示作品の解説、所蔵品に関連するものなどのビデオソフトを放映し、作品鑑賞の手引きとしている。また、32インチハイビジョン受像機2台を備えた画像検索ブースでは、所蔵作品をはじめとする美術作品を、精細な静止画像と文字情報を組み合わせて紹介している。

(イ) 移動展

美術館の活動を日常的に利用することが困難な地域において、年に1～2回、所蔵作品の公開とこれに関連する講座・講演等を行う。(開催に向けて準備中)

(ウ) 講座・講演会

12階のアートスペースにおいて、外部講師または自館学芸員による企画展に関連した講演会や様々なテーマによる定期講座を開いている。

カ ギャラリー

8階の展示室A～Jでは、公募展、団体展から地域の人々による作品発表まで多彩な展覧会が行われている。10室ある展示室は、展覧会の規模や性格に応じて自由に使い分けることが可能となっている。



8階ギャラリー

施設概要（展示・保存環境等）

Facilities and Equipment

作品展示

ワイヤーによる壁面展示、小型作品は壁面釘止め可能
固定展示ケースのほか移動型展示ケース、展示台等保有

区分	室名	固定壁長	可動壁長	ケース長	床材	天井高	積載荷重 t/m ²
企画・所蔵作品展示室（10階）	展示室1	68.0	25.2	28.0	タイルカーペット	4.50	1
	展示室2	102.0	126.5	28.5	タイルカーペット	5.50	1
	展示室3	32.5	—	—	タイルカーペット	3.50	1
	展示室4	53.2	24.0	17.5	ナラフローリング	5.35	1
	展示室5	82.5	67.2	21.0	ナラフローリング	6.00	1
	展示室6	32.2	—	—	タイルカーペット	6.25	0.5
	展示室7	37.0	—	20.0	タイルカーペット	4.00	1
	展示室8	36.8	—	20.5	タイルカーペット	4.50	1
	前室2	—	—	3.6	タイルカーペット	—	—
	展示室A	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
ギャラリー展示室（8階）	展示室B	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室C	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室D	62.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室E	43.5	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室F	43.5	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室H	48.0	18.0	—	タイルカーペット	5.50	1
	展示室I	48.0	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室G	79.0	30.0	—	長尺シート	4.90	1
	展示室J	70.0	—	—	長尺シート	5.80	1

（単位:m）

照明

区分	部屋名	照明器具
企画・所蔵作品展示室（10階）	展示室1～4	ウォールウォッシャー（ハロゲン） ＋蛍光灯間接照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室5	自然光間接照明 ＋ウォールウォッシャー（ハロゲン） ＋蛍光灯間接照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室6	スポットライト（昇降トラス）
	展示室7～8	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示ケース	蛍光灯 ＋スポットライト（着脱式）
ギャラリー展示室（8階）	展示室A～I	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室G	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（昇降トラス）
	展示室J	光天井（蛍光灯＋ルーバー） ＋スポットライト（着脱式）

すべて紫外線防止、高演色タイプ、無段階調光可能

空調

●美術館（10階）、収蔵庫 ●ギャラリー（8階）

各収蔵庫、展示室及び各展示 各展示室で独立空調可能、8
ケースで独立空調可能、24時間 時間運転、中性能フィルター装
運転、中性能フィルター及び化 備
学吸着フィルター装備

区 分	展示室1～8	収 蔵 庫	区 分	展示室A～J
設定温度	夏期 25℃	22℃	設定温度	夏期 25℃
	冬期 22℃			冬期 22℃
温度変化	1日	±1℃	温度変化	1日
設定湿度	通年	55%（変更可能）	設定湿度	通年
湿度変化	1日	±3%	湿度変化	1日

収蔵・保管設備

区 分	数	階	備 考
収 蔵 庫	4室	5、6	1,823m ²
企画保管庫	1室	5	178m ²
荷解梱包室	1室	5	94m ²
専用搬入口	2箇所	1	他に1箇所（B5）使用可能
専用昇降機	3機		最大積載量3.5t W3×D4×H3m

防災設備・体制

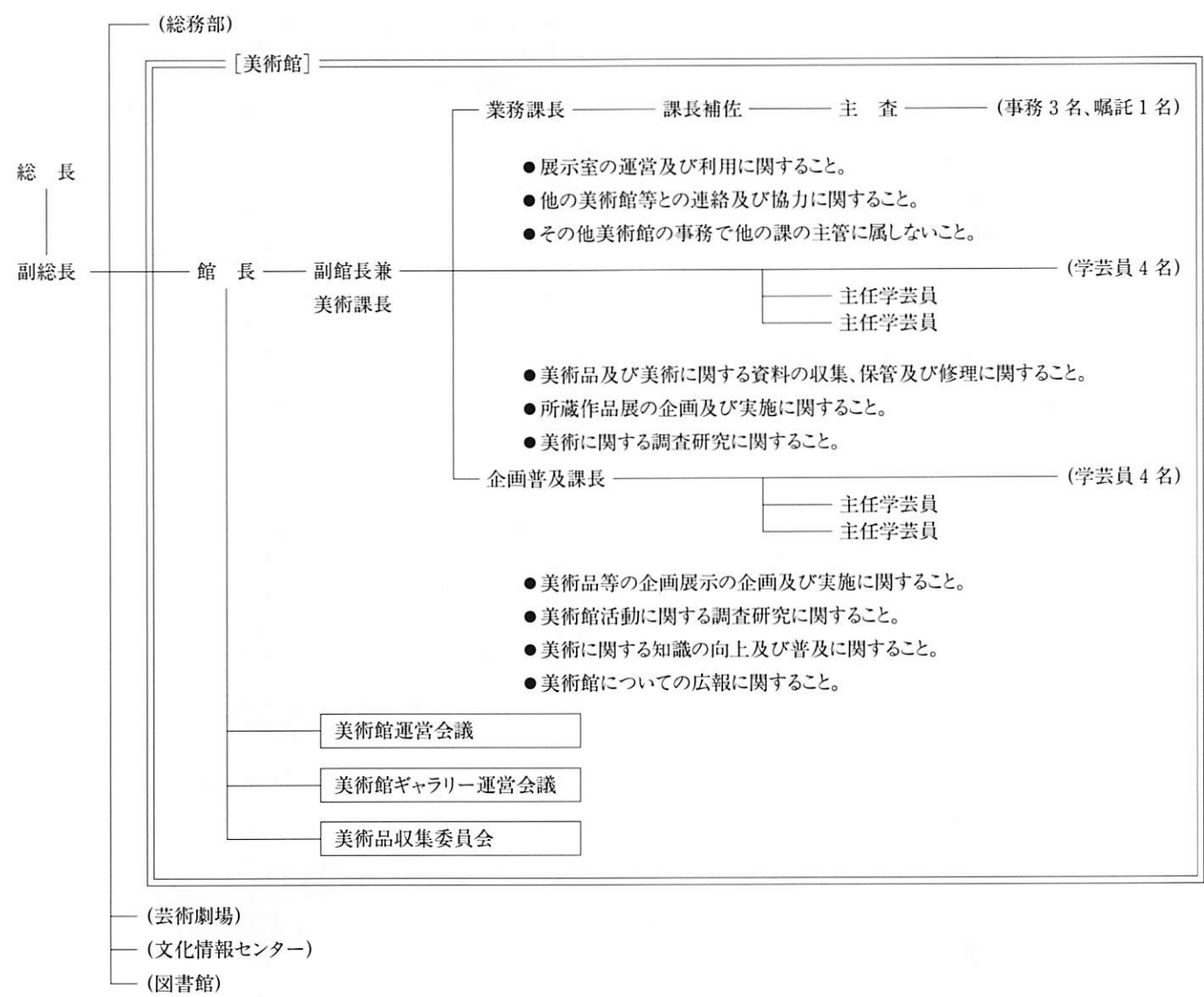
（ア）防火：館内防災センターにて集中管理

区 分	種 別
火災報知器	複合GR型
煙感知器	光電式スポット型 1、2 種他
熱感知器	差動式スポット型 2 種他
消火装置	ハロンガス消火設備 （展示室、収蔵庫、企画保管庫等）
消 火 器	ABC型粉末消火器を館内各所に設置

（イ）防犯：館内防災センターにて集中管理

区 分	内 容
警 備	24時間有人警備
展示監視	開館時には常時展示室内に監視員を配置 警備員と職員による随時巡回
監視カメラ	展示室等各所に設置 防災センター、事務室、学芸員室でモニター可能
防犯センサー	赤外線センサーの設置
扉 管 理	展示室進入経路の各扉には開閉信号取り出し機能
作品センサー	作品取り付けセンサーによる防犯システム
防犯ブザー	作品盗難防止用ブザーの取り付け可能

愛知県美術館組織図 Organization



■愛知県美術館職員名簿（1994年3月）

館長	浅野 徹	美術課学芸員	深山 孝彰
副館長兼美術課長	長谷川三郎	" "	栗田 秀法
業務課課長	久野 寛	" "	長屋菜津子
" 課長補佐	榊原 勝雄	" "	寺門臨太郎
" 主査	成田 佳隆	企画普及課課長	坂下 雄彦
" 主事	松原 光彦	" 主任学芸員	牧野研一郎
" "	高木 伸彦	" "	村田 眞宏
" "	山田 由紀	" 学芸員	村上 博哉
美術課主任学芸員	木本 文平	" "	古田 浩俊
" "	高橋 秀治	" "	拝戸 雅彦
		" "	藤島 美栄

関係委員会名簿(1994年 3 月)

Members of Committees

■愛知芸術文化センター愛知県美術館運営会議委員名簿

岩崎吉一	東京国立近代美術館次長
陰里鐵郎	三重県立美術館長
笠井誠一	愛知県立芸術大学美術学部教授
川上 実	愛知県立芸術大学教授
清水正一	愛知県文化振興局長
清水 武	名古屋市博物館長
千足伸行	成城大学教授
建畠嘉門	愛知県立芸術大学学長
谷 隆夫	名古屋市美術館長
中村英樹	名古屋造形芸術大学教授
林 幸雄	愛知県文化振興事業団事務局長
村田慶之輔	美術評論家
森田恒之	国立民族学博物館教授

■愛知県美術館ギャラリー運営会議委員名簿

石黒鏘二	彫刻家・行動美術協会会員
笠井誠一	愛知県立芸術大学美術学部教授 洋画家・立軌会会員
加藤清之	陶芸家・日展会員
島田章三	洋画家・国画会会員
清水正一	愛知県文化振興局長
清水 武	名古屋市博物館長
高木桑風	中日書道会理事長 書家・日展会員
中村英樹	名古屋造形芸術大学教授
林 幸雄	愛知県文化振興事業団事務局長
平川敏夫	日本画家・創画会会員
山脇一夫	名古屋市美術館学芸課長

■愛知県美術館美術品収集委員会委員名簿

岩崎吉一	東京国立近代美術館次長
陰里鐵郎	三重県立美術館長
千足伸行	成城大学教授
中村英樹	名古屋造形芸術大学教授
村田慶之輔	美術評論家

美術館の利用状況(1993年度)

Statistics of Visitors

ア 企画展の開催状況

企画展名	会期	日数(日)	入場者数(人)	1日平均(人)
パウル・クレーの芸術	1993年 4月 2日－ 5月23日	45	103,239	2,294
小川芋銭展	6月 4日－ 7月 4日	27	26,106	966
現代の陶芸＝1950－1990＝	7月16日－ 8月22日	33	13,153	398
安田靫彦展	9月 3日－ 10月17日	39	43,003	1,102
リール市美術館所蔵 バロック・ロココの絵画	10月29日－1994年 1月16日	63	47,042	746
戸張孤雁と大正期の彫刻	1994年 1月25日－ 3月 6日	36	7,996	222
色彩の宇宙 クブカ展	3月18日－ 3月31日	12	7,058	588
合 計		255	247,597	970

(注)色彩の宇宙 クブカ展は、1994年3月18日から5月8日まで開催

イ 所蔵作品展の開催状況

展覧会名	会期	日数(日)	入場者数(人)	1日平均(人)
第Ⅰ期 20世紀の美術	1993年 4月 2日－ 7月11日	82	131,976	1,609
第Ⅱ期 戦後の美術	7月16日－ 10月24日	84	60,155	716
第Ⅲ期 20世紀の美術	10月29日－1994年 1月16日	63	48,232	765
第Ⅳ期 戦後の美術	1994年 1月25日－ 3月13日	42	9,049	215
第Ⅰ期	3月18日－ 3月31日	12	7,206	600
合 計		283	256,618	906

(注)第Ⅰ期展は、1994年3月18日から6月2日まで開催

ウ ギャラリー展示室利用状況

利用月	展覧会種別利用件数 (件)								ギャラリー展示室 (A～J室)		
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	計	利用日数(日)	入場者数(人)	1日平均(人)
1993年 4月	4	6	－	－	6	－	－	16	26	63,165	2,429
5月	3	10	2	－	2	－	－	17	25	63,955	2,558
6月	5	5	2	2	2	－	1	17	21	51,605	2,457
7月	5	4	－	1	5	－	3	18	25	42,401	1,696
8月	5	8	－	－	4	－	－	17	26	71,908	2,765
9月	5	2	－	－	3	－	2	12	26	116,783	4,491
10月	5	5	－	1	2	2	－	15	27	57,715	2,137
11月	6	5	－	2	3	－	－	16	25	52,447	2,097
12月	6	6	－	－	2	－	－	14	23	43,918	1,909
1994年 1月	3	8	－	－	3	1	－	15	23	178,369	7,755
2月	1	－	－	－	1	1	－	3	24	12,763	531
3月	6	1	－	－	4	2	1	14	27	49,658	1,839
合計	54	60	4	6	37	6	7	174	298	804,687	2,700

(注)総合展とは、複数の種別にまたがる展覧会であり、規模の大小には関係ない。
なお入場者数は、展覧会会期の初日に属する月で整理してある。

愛知芸術文化センター条例（抜粋）

(設置)

第1条 芸術文化の振興及び普及を図るため、愛知芸術文化センター（以下「センター」という。）を設置する。

2 センターは、次に掲げる施設をもって構成する。

(1) 愛知県美術館

(2) 愛知県芸術劇場

(3) 愛知県文化情報センター

(4) 愛知県図書館

(位置及び業務)

第2条 センターの各施設の位置及び業務は、別表第1のとおりとする。

(運営)

第3条 センターは、センターを構成する各施設相互の連携を図ることにより、芸術文化に関する総合施設として有機的に運営されなければならない。

(職員)

第4条 センターに、総長その他の職員を置く。

(利用の許可等)

第5条 次に掲げる者は、センターの利用について、各施設の長の許可を受けなければならない。

(1) 愛知県美術館の展示室を利用して、展覧会を行おうとする者

(2) 愛知県芸術劇場のホール又はリハーサル室を利用して、舞台芸術の公演、国際会議等を行おうとする者

(3) 愛知県文化情報センターの催事室を利用して、講演会、展示会等を行おうとする者

2 各施設の長は、施設の管理上必要があるときは、前項の許可に条件を付けることができる。

(使用料)

第6条 前条第1項の許可を受けた者からは、別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 使用料は、当該施設の利用開始日までににおいて知事が指定する日までに、納付しなければならない。

3 納付された使用料は、次に掲げる場合を除き、還付しない。

(1) 第9条第2項の規定により、知事が公共の福祉のために許可を取り消し、又は利用の中止を命じたとき。

(2) 前条第1項の許可を受けた者が各施設の長の承認を受けて利用を中止したとき。

4 知事は、災害その他の特別の理由がある者に対しては、使用料の全部若しくは一部を免除し、又はその徴収を延期することができる。

5 使用料を納期限までに納付しなかった者からは、納付すべき金額（千円未満の端数金額及び千円未満の金額は、切り捨てる。）に、当該期限の翌日から納付の日までの期間の日数に応じ、年14.5パーセントの割合を乗じて計算した金額に相当する延滞金を徴収する。ただし、延滞金に百円未満の端数があるとき、又は延滞金が百円未満であるときは、その端数金額又は、その全額を切り捨てる。

6 第4項の規定は、前項の延滞金について準用する。

(観覧料)

第7条 愛知県美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者（小学校就学前の者を除く。）は、別表第3に定める額の観覧料を納付しなければならない。

2 納付された観覧料は、特別の理由がある場合を除き、還付しない。

3 知事は、特別の理由がある者に対しては、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(利用者の義務)

第8条 センターの利用者は、センターの利用に際しては、この条例及びこれに基づく規則の規定並びに第5条第2項の定により許可に付けられた条件及び関係職員の提示に従うとともに、センターの秩序を乱すような行為をしてはならない。

(許可取消し及び利用の中止命令)

第9条 各施設の長は、センターの利用者が前条の規定に違反したときは、第5条第1項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

2 知事は、公共の福祉のためやむを得ない理由があるときは、第5条第1項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

(規則への委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、センターの利用条件その他のセンターの管理

に関し必要な事項は、規則で定める。

(過料)

第11条 詐偽その他不正の行為により、第6条の規定による使用料又は第7条の規定による観覧料の徴収を免れた者に対しては、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料を科する。

2 前項に定めるものを除くほか、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、一万円以下の過料を科する。

(1) 第5条第2項の規定により許可に付けられた条件に違反してセンターを利用した者

(2) 第9条の規定による許可の取消し又は利用の中止命令に違反してセンターを利用した者

(3) その他不正の方法により許可を受けてセンターを利用した者

3 第8条の規定に違反してセンターの秩序を乱した者に対しては、五千円以下の過料を科する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。ただし、第5条及び第7条の規定並びに別表愛知県図書館の項業務の欄の規定中県民の利用に関する部分は同月20日から、第1条第2項第1号から第3号まで及び同表愛知県美術館の項から愛知県文化情報センターの項までの規定は規則で定める日から施行する。

附 則

この条例は、平成4年10月30日から施行する。

別表第1（第2条関係）抜粋

施設の名称	位置	業務
愛知県美術館	名古屋市東区	(1) 美術品及び美術に関する資料を収集し、保管し及び展示すること。 (2) 美術に関する調査研究を行うこと。 (3) 展示室を利用させること。

別表第2（第6条関係）抜粋
愛知県美術館 展示室使用料

区分		単位	使用料の額(単位円)
A室、B室又はC室		全日	13,500
		時間外1時間につき	2,000
D室		全日	14,100
		時間外1時間につき	2,100
E室		全日	8,800
		時間外1時間につき	1,300
F室		全日	8,900
		時間外1時間につき	1,300
G室	全部利用	全日	22,100
		時間外1時間につき	3,300
	2分の1利用	全日	11,000
		時間外1時間につき	1,700
H室		全日	10,200
		時間外1時間につき	1,500
I室		全日	10,400
		時間外1時間につき	1,600
J室	全部利用	全日	9,500
		時間外1時間につき	1,400
	2分の1利用	全日	4,700
		時間外1時間につき	700
附属第1審査 保管室	全部利用	全日	5,200
	2分の1利用	時間外1時間につき	800
附属第2審査 保管室	全部利用	全日	2,600
		時間外1時間につき	400
	2分の1利用	全日	4,400
		時間外1時間につき	700
保管室		全日	2,200
		時間外1時間につき	300

- 備考
- (1) この表において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるところによる。
- イ～ハ省略
- ニ 全日 愛知県美術館にあっては午前10時から午後6時（金曜日にあっては、午後8時）までを、愛知県芸術劇にあっては午前9時から午後10時までを、愛知県文化情報センターにあっては午前9時から午後9時までをいう。
- ホ 時間外 愛知県美術館にあっては午後6時（金曜日にあっては、午後8時）以後を、愛知県芸術劇場にあっては午後10時以後を、愛知県文化情報センターにあっては午後9時以後をいう。
- 二 特別の設備又は器具を設けて電力又は水道を使用する場合の使用料の額は、この表に定める額に実費として知事が定める額を加算した額とする。
- 3 センターの各施設の長は、必要があると認めるときは、臨時に第1項の利用時間又は入館時間を変更することができる。
- (入館の禁止等)
- 第4条 総長及びセンターの各施設の長は、めいてい者その他センターの秩序を乱し、若しくは乱すおそれがある者又はセンターの施設に損害を加え、若しくは加えるおそれのある者に対し、センターへの立入りを禁じ、又は立ち退かせることができる。
- 第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理
- 第1款 利用期間
- (利用期間)
- 第5条 美術館、芸術劇場及び文化情報センター（以下「美術館等」という。）の利用期間は、次のとおりとする。

表第3（第7条関係）

区分			単位	観覧料の額(単位円)
常設展示	個人	一般	1人1回につき	500
		大学生又は高校生	1人1回につき	300
		中学生又は小学生	1人1回につき	100
	団体 (20人以上)	一般	1人1回につき	400
		大学生又は高校生	1人1回につき	240
		中学生又は小学生	1人1回につき	80
企画展示			1人1回につき	2,000円以内でその 都度知事が定める額

愛知県芸術文化センター管理規則（抜粋）

- 目次
- 第1章 総則（第1条）
- 第2章 センターの管理
- 第1節 通則（第2条～第4条）
- 第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理
- 第1款 利用期間（第5条）
- 第2款 利用の許可等（第6条～第10条）
- 第3款 美術品等の観覧及び模写等（第11条～第13条）
- 第4款 文化情報センターの図書等の利用（第14条～第23条）
- 第3節 図書館の管理
- 第1款 図書等の館内利用（第24条～第26条）
- 第2款 図書等の館外貸出し（第27条～第30条）
- 第3款 図書等の郵送による貸出し（第31条～第33条）
- 第4款 利用の停止（第34条）
- 第3章 雑則（第35条・第36条）
- 附則
- 第1章 総則
- (趣旨)
- 第1条 この規則は、愛知芸術文化センター（以下「センター」という。）の管理に関する事項を定めるものとする。
- 第2章 センターの管理
- 第1節 通則
- (休館日)
- 第2条 センターの各施設の休館日は、次のとおりとする。
- 愛知県美術館 月曜日（当該月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律（以下「美術館」 第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に該当するいう。） 場合はその翌日以降の最初の休日でない日）
- 12月28日から翌年1月3日まで
- 2 総長は、必要があると認めるときは、臨時に前項の休館日を変更し、又は休館日を設けることができる。
- (利用時間)
- 第3条 センターの各施設の利用時間は、次のとおりとする。
- 美術館 午前10時から午後6時（金曜日にあっては、午後8時）まで
- 2 美術館が主催して展示する美術品等を観覧するため美術館に入館できる時間（次項において「入館時間」という。）は、午前10時から午後5時30分（金曜日にあっては、午後7時30分）までとする。
- 3 センターの各施設の長は、必要があると認めるときは、臨時に第1項の利用時間又は入館時間を変更することができる。
- (入館の禁止等)
- 第4条 総長及びセンターの各施設の長は、めいてい者その他センターの秩序を乱し、若しくは乱すおそれがある者又はセンターの施設に損害を加え、若しくは加えるおそれのある者に対し、センターへの立入りを禁じ、又は立ち退かせることができる。
- 第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理
- 第1款 利用期間
- (利用期間)
- 第5条 美術館、芸術劇場及び文化情報センター（以下「美術館等」という。）の利用期間は、次のとおりとする。
- 美術館
- 展示室 35日以内
- 展示室附属審査保管室 20日以内
- 2 美術館等の長は、必要があると認めるときは、臨時に前項の利用期間を変更することができる。
- 第2款 利用の許可等
- (利用の許可)
- 第6条 愛知芸術文化センター条例（平成3年愛知県条例第2号）第5条第1項の許可を受けようとする者は、利用許可申請書（様式第1）を美術館等の長に提出しなければならない。
- 2 美術館等の長は、前項の規定により利用許可申請書を提出した者について利用を許可したときは、利用許可書（様式第2）を交付するものとする。
- 3 前2項の規定により利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）の美術館等を利用する権利は、他人に譲渡し、又は転貸することができない。
- (利用の変更の許可)
- 第7条 利用者は、利用期間その他利用許可書に記載された事項を変更しようとするときは、利用変更許可申請書（様式第3）に利用許可書を添えて美術館等の長に提出しその許可を受けなければならない。
- (利用の取消しの承認)
- 第8条 利用者は、美術館等の利用の取消しをしようとするときは、利用取消承認申請書（様式第4）に利用許可書を添えて速やかに美術館等の長に提出し、その承認を受けなければならない。
- (利用後の届出)
- 第9条 利用者は、美術館等の利用を終わり、又は利用を中止したときは、速やかに利用した設備を原状に回復し、その旨を美術館等の長に届け出なければならない。
- (指示及び調査)
- 第10条 美術館等の長は、美術館等の秩序の維持及び美術館等の管理上必要があると認めるときは、利用者に対し美術館等の利用に関し、指示をし、又は利用中の施設に職員を立ち入らせ、利用の状況を調査させることができる。
- 第3款 美術品等の観覧及び模写等
- (観覧券の交付)
- 第11条 美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者（小学校就学前の者及び条例第7条第3項の規定により観覧料の全部を免除された者を除く。）は、観覧料の納付と引換えに観覧券（様式第5）の交付を受けるものとする。
- 2 団体で観覧券の交付を受けようとするときは、その団体の代表者は、あらかじめ団体観覧券交付申込書（様式第6）を美術館長に提出しなければならない。
- (観覧料の免除)
- 第12条 条例第7条第3項の規定により観覧料を免除する場合及びその額は、次のとおりとする。
- (1) 小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動の一環として児童又は生徒及びこれらの者の引率者が常設展の会場へ入場する場合 観覧料の全額
- (2) その他知事が特別の理由があると認める場合 その都度知事が定める額
- 2 全項第1号の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書（様式第7）を知事に提出して、その承認を受けなければならない。
- 3 知事は、前項の申請があった場合において免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第8）を交付するものとする。
- (模写等の許可)
- 第13条 美術館が主催して展示する美術品等の模写及び複写をしようとする者は、美

術品等模写等許可申請書(様式第9)を美術館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 美術館長は、模写等を許可する時は、美術品等模写等許可書(様式第10)を交付するものとする。

第3章 雑則

(損害賠償)

第35条 センターを利用する者は、故意又は過失によってセンターの施設、附属設備、美術品等及び図書等を損傷し、滅失し、又は忘失したときは、それによって生じた損害を賠償しなければならない。

(雑則)

第36条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、総長が定める。ただし、次に掲げる利用等に関し必要な事項は、センターの各施設の長が定める。

- (1) 美術館の展示室の利用
- (2) 美術品等の模写及び複写
- (3) 芸術劇場のホール及びリハーサル室の利用
- (4) 文化情報センターの催事室及びアートプラザの利用
- (5) 文化情報センター及び図書館の図書等の利用

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成4年10月30日から施行する。

(愛知芸術文化センター愛知県図書館規則の廃止)

2 愛知芸術文化センター愛知県図書館規則(平成3年愛知県規則第41号)は、廃止する。

(経過措置)

3 この規則の施行の際、現に前項の規定による廃止前の愛知芸術文化センター愛知県図書館規則(以下「旧規則」という。)第9条第1項の規定により交付を受けている利用カードは、第29条の規定により交付を受けた利用カードとみなす。

4 この規則の施行の際、現に旧規則の規定に基づきなされている図書等の館外貸出し、図書等の郵送による貸出し又は郵送貸出しの登録は、この規則の相当規定に基づきなされたものとみなす。

(愛知県公印規則の一部改正)

5 愛知県公印規則(昭和30年愛知県規則第1号)の一部を次のように改正する。

第2条に次の1号を加える。

12 愛知芸術文化センターの各施設(愛知県図書館を除く。)の長の印

愛知県美術館運営会議設置要領

(目的)

第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館(以下「美術館」という。)の円滑かつ適正な運営を図るため、愛知県美術館運営会議(以下「運営会議」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 運営会議は、次の事項について協議する。

- (1) 美術館の運営に関すること。
- (2) 企画展、常設展及び教育普及事業等の美術館の事業に関すること。
- (3) その他必要と認められる事項。

(構成員)

第3条 運営会議は、次の各号に掲げる委員15名以内をもって構成する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 美術館関係者
- (3) 県関係者
- (4) その他館長が適当と認める者

2 前項の委員は、愛知芸術文化センター総長が依頼する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は3年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会長等)

第5条 運営会議に会長を置く。

2 会長は、委員の互選により選出する。

3 会長は、運営会議を代表し、会務を総理する。

4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、会長の職務を代理

する。

(召集)

第6条 運営会議は、会長が召集する。

(事務)

第7条 運営会議の事務は、美術館において処理する。

(その他)

第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成4年6月1日から施行する。

愛知県美術館美術品収集委員会開催要項

(設 置)

第1条 愛知芸術文化センターに設けられる愛知県美術館において収蔵しようとする美術品及び美術に関する資料(以下「美術品」という。)の選定に関する事務を適正かつ円滑に行うため愛知県美術館美術品収集委員会(以下「収集委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 収集委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 購入する美術品の選定及び評価に関すること。
- (2) 寄贈又は寄託に係る美術品の受入れに関すること。
- (3) 美術品の処分に関すること。

(組 織)

第3条 収集委員会は、7人以内の委員で組織する。

2 委員は、美術に関する専門知識を有する者のうちから、愛知芸術文化センター総長(以下「総長」という。)が依頼する。

3 委員の任期は、3年とする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は再任されることができる。ただし、当該委員の年齢が、70歳を越えた場合はこの限りではない。

(委員長)

第4条 収集委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により定める。

2 委員長は、収集委員会の会議を主宰する。ただし、委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会 議)

第5条 収集委員会は、委員長が招集する。

2 収集委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 収集委員会は、必要があると認めるときは、委員でない者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(評価員)

第6条 収集委員会は、美術品の評価に関し、必要があると認めるときは、総長に対して、特別評価員(以下「評価員」という。)の評価を要請することができる。

2 評価員は、その都度次の各号に掲げる要件を備える者のうちから、3人以内を総長が依頼する。

- (1) 当該美術品に関して、専門的知識を有すること。
- (2) 人格が高潔であり、かつ、公正な判断ができること。
- (3) 当該美術品と利害関係を有しないこと。

(庶 務)

第7条 収集委員会の庶務は、愛知芸術文化センター美術館において処理する。

(雑 則)

第8条 この要項に定めるもののほか収集委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、昭和63年6月15日から施行する。

附 則

この要項は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成4年4月1日から施行する。

愛知芸術文化センター愛知県美術館所蔵品貸出要領(平12.1施行)

(目 的)

第1条 この要領は、県が愛知県美術館の所蔵品とするために収集した美術品等(以下「美術品等」という。)の貸出しに関し、必要な事項を定めるものとする。

(貸出しの承認)

第2条 愛知県美術館長(以下「館長」という。)は、次に掲げるものから美術品等の借用の申請があった場合において、美術文化の普及上適当と認めたときは、無償で美術品等の貸出しを承認することができる。

- (1) 国、公共団体又は公益的団体
- (2) 館長が特に必要と認めたもの

(貸出しの申請)

第3条 美術品等の貸出しを受けようとする者は、次の事項を記載した美術品等借用申請書を館長に提出しなければならない。

- (1) 申請者の住所、団体名及び代表者名
- (2) 借用目的
- (3) 借用期間
- (4) 借用しようとする美術品等の名称及びデータ
- (5) 陳列のための施設及び設備の概要
- (6) 借用期間中の管理の方法
- (7) その他参考となる事項

(貸出期間)

第4条 美術品等の貸出期間は3月以内とする。ただし、館長が必要と認めるときは、貸出期間を延長することができる。

(承 認)

第5条 館長は、美術品等の貸出しを承認したときは、申請者に対して承認書を交付するものとする。

(遵守事項)

第6条 美術品等を借り受けるものは、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 美術品等の梱包輸送等に要する一切の費用は、貸出しの承認を受けた者の負担とすること。
- (2) 貸出期間中の美術品等の保管は、貸出しの承認を受けた者の責任とし、亡失、汚損、き損等のあったときは、館長の指示に従い賠償の責を負うものとする。
- (3) 貸出しを承認された美術品等の撮影、模写、印刷物掲載等については、事前に館長と協議すること。
- (4) 美術品等の貸出時及び返還時には、双方の担当者が作品状況を点検確認すること。
- (5) 図録等には、愛知県美術館所蔵品であることを明記すること。
- (6) その他館長が必要と認めて指示した事項

(撮影模写等の承認)

第7条 館長は、前条第3号の協議があった場合において、著作権者の同意のない美術品等については、承認しないものとする。

(美術品等借用書)

第8条 美術品等の貸出しを承認された者は、美術品等借用書を提出し、これと引換えに美術品等を受領しなければならない。

2 館長は、美術品等が返還されたときは、これと引換えに美術品等借用書を返付する。

附 則

この要領は、平成元年12月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成4年10月30日から施行する。

愛知県美術館美術品等寄託受入れ規程(平5.4.1施行)

(趣 旨)

第1条 この規程は、愛知県美術館(以下「美術館」という。)が行う美術品等の受入れの取扱いについて、愛知県財務規則(昭和39年規則第10号)等に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(寄託の申込み)

第2条 美術館に美術品等の展示等に供するため、長期にわたり保管委託(以下「寄託」という。)しようとする者(以下「寄託者」という。)は、美術品等寄託申請申込書(様式第1)を愛知県美術館長(以下「館長」という。)に提出し、その

承認を受けるものとする。

(寄託品の決定)

第3条 館長は、寄託申込書の提出があったときは、その内容を調査し、当該美術品等(以下「寄託品」という。)が次のいずれかに該当するときは、受託承認書(様式第2)を交付するものとする。

- (1) 美術館の展示又は研究の用に供すると認められるもの。
- (2) 美術館に保管することが適当であると認められるもの。
- (3) その他館長が特に必要と認めるもの。

(寄託期間)

第4条 寄託期間は、2年とする。ただし、特別の理由があるときは、その都度協議の上、定めるものとする。

(寄託品の預り及び返還)

第5条 館長は、寄託品を受け入れようとするときは、寄託者に預り証(様式第3)を交付するものとする。

2 寄託品の返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

3 寄託品の返還を受けようとする者が寄託者の代理人であるときは、預り証に、委任状その他これを証する書面を添えるものとする。

(寄託品の取扱い)

第6条 寄託品の保管の責は、館長が負うものとする。ただし、美術館の責めによらない理由による場合は、この限りでない。

(寄託品の荷造り運搬等)

第7条 館長は、寄託品の受入れ及び返還に伴う荷造り運搬等に要する経費の一部又は全部を負担することができる。

(寄託品の変更等)

第8条 寄託者は、次のいずれかに該当するときは、速やかに預り証にその理由を証す書面を添えて館長に提出するものとする。

- (1) 寄託者が、他人に寄託品を譲渡するとき。
- (2) 住所変更など、寄託申込書の記載事項に変更が生じるとき。

(預り証の再交付)

第9条 寄託者が、預り証を亡失又は破損したときは、寄託品預り証再交付願(様式第4)を館長に提出し、再交付を受けるものとする。なお、預り証を破損した場合は、当該預り証を添付するものとする。

(寄託品の一時返還)

第10条 寄託者は、寄託品の一時返還を求めようとするときは、少なくとも返還日の2か月前に寄託品一時返還願(様式第5)を館長に提出するものとする。

2 館長は、寄託品一時返還願の提出があったときは、調査の上、寄託品一時返還承認書(様式第6)を交付するものとする。

3 寄託品の一時返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

(寄託期間内の返還申し出)

第11条 寄託者は、寄託期間中に寄託品の返還を求めようとするときは、少なくとも2か月前に寄託品期間内返還申し出書(様式第7)を館長に提出するものとする。

2 館長は、寄託品期間内返還申し出書の提出があったときは、調査の上、寄託品期間内返還同意書(様式第8)を交付するものとする。

3 寄託品の返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

(寄託品の借用)

第12条 館長は、展示又は調査研究のため、美術品等を寄託品としてすすんで受け入れようとするときは、当該美術品の所有者(以下「所有者」という。)に寄託品依頼書(様式第9)を提出し、その所有者から承諾書(様式第10)を受け取るものとする。

(借用書の発行)

第13条 館長は、承諾書を受けたときは、所有者に借用書(様式第11)を発行するものとする。

(準 用)

第14条 第4条(寄託期間)、第5条第2項(返還)、同条第3項(代理人による返還)及び第6条から第11条(寄託品の取扱い等)までの規定は、美術館がすすんで受け入れようとする寄託品について準用する。この場合において、「預り証」とあるのは、「借用書」と読み替える。

(公表及び写真撮影等)

第15条 館長は、次のいずれかに該当するときは、所有者の承諾を得るものとする。

- (1) 寄託品の所有者名の公表

(2) 美術館が発行する展覧会目録への掲載、資料としての保管、報道機関に対する資料提供など、美術館が公共の利用に資する目的で行う寄託品の写真撮影、複写等
(補 則)
第16条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は館長が定める。
附 則
この規程は、平成5年4月1日から施行する。
(様式の記載は省略)

愛知県美術館ギャラリー運営会議設置要領

(目 的)
第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館（以下「美術館」という。）ギャラリーの円滑かつ適正な運営を図るため、愛知県美術館ギャラリー運営会議（以下「ギャラリー運営会議」という。）を設置する。
(協議事項)
第2条 ギャラリー運営会議は、次の事項について協議する。
(1) 美術館ギャラリーの運営に関すること。
(2) 美術館ギャラリー展示室の利用の調整に関すること。
(3) その他必要と認められる事項。
(構成員)
第3条 ギャラリー運営会議は、次の各号に掲げる委員15名以内をもって構成する。
(1) 学識経験を有する者
(2) 美術作家
(3) 美術館（ギャラリー）関係者
(4) 県関係者
(5) その他館長が適当と認める者
2 前項の委員は、愛知芸術文化センター総長が依頼する。
(委員の任期)
第4条 委員の任期は3年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。
(会長等)
第5条 ギャラリー運営会議に会長を置く。
2 会長は、委員の互選により選出する。
3 会長は、運営会議を代表し、会務を総理する。
4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が会長の職務を代理する。
(召 集)
第6条 ギャラリー運営会議は、会長が召集する。
(事 務)
第7条 ギャラリー運営会議の事務は、美術館において処理する。
(その他)
第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。
附 則
この要領は、平成4年6月1日から施行する。

愛知県美術館ギャラリー展示室利用受付許可要領（平4、10、30施行）

(趣 旨)
第1条 この要領は、愛知芸術文化センター条例及び愛知芸術文化センター管理規則（以下「規則」という。）の規定に基づく愛知県美術館ギャラリーの展示室（附属審査保管室を除く。以下「展示室」という。）の利用許可等に関し必要な事項を定めるものとする。
(利用仮申込書の受付時間)
第2条 展示室の利用を希望する者は、展示室の利用開始期日の次表に掲げる利用期間に応じて、それぞれ右欄に掲げる仮受付期間（休館日を除く。）に展示室利用仮申込書（以下「仮申込書」という。）を提出するものとする。

利用期間	仮受付期間
1月4日から6月30日までの間のもの	展示室利用開始予定期日の含まれる年の前年の6月1日から20日までの間
7月1日から12月27日までの間のもの	展示室利用開始予定期日の含まれる年の前年の12月1日から20日までの間

2 仮申込書の受付時間は、午前10時から午後6時までとする。
(抽選枠の設定)
第3条 美術館長（以下「館長」という。）は、第2条の規定に基づく仮受付ごとに、展示室Jの利用について、当該仮受付の対象となる利用期間中の一定期間について、あらかじめ抽選枠を設定する。
(利用仮申込みの区分)
第4条 第2条の規定に基づく展示室利用仮申込みの区分は、次の各号に定めるとおりとする。
(1) 一般仮受付 展示室AからIまでの利用及び第3条の規定に基づき、館長が設定した抽選枠に係る利用を除く展示室Jの利用
(2) 抽選仮受付 第3条の規定に基づき、館長が設定した抽選枠に係る展示室Jの利用
(一般仮受付の利用許可スケジュール案の作成)
第5条 館長は、第2条の規定に基づく仮申込書の受付終了後、それぞれおおむね1か月以内に、第4条第1号に規定する一般仮受付に係る利用について、展示室利用許可スケジュール案（以下「スケジュール案」という。）を作成する。
2 スケジュール案の作成に当たっては、関係各展示室利用仮申込者の希望、展示予定作品の種類、点数及び内容並びに過去の利用実績又は各展示室利用仮申込者に係る美術団体の会歴、会員組織、業績等を考慮して、利用させる会場及び利用期間を調整するものとする。
3 館長は、スケジュール案の作成後、愛知県美術館ギャラリー運営会議（以下「ギャラリー運営会議」という。）を開催し、その意見を聴取のうえ、スケジュール案の所要の調整を行い、スケジュール案を確定する。
(一般仮受付の利用許可の内定)
第6条 館長は、第5条の規定に基づくスケジュール案に基づき、利用許可を内定し、関係各展示室利用仮申込者に対し、利用させる会場、利用期間等を記載した展示室利用許可内定書（以下「内定書」という。）を送付する。
(抽選参加者の決定)
第7条 館長は、ギャラリー運営会議を開催し、その意見を聴取のうえ、第4条第2号に規定する抽選仮受付に係る各仮申込者について、抽選に参加させるか否かを決定する。
(抽選の実施)
第8条 館長は、第4条第1号に規定する一般仮受付に係る利用について、第6条の規定に基づき内定書を送付した後、第4条第2号に規定する抽選仮受付に係る利用について、関係各展示室仮申込者に日時を通知のうえ、抽選を行う。
(抽選仮受付の利用許可の内定)
第9条 館長は、第8条の規定に基づく抽選の結果に基づき、利用許可を内定する。
2 前項の規定にかかわらず、館長は、抽選に参加できる関係展示室仮申込者の人数が、第3条の規定に基づき設定した抽選枠の枠数を超えない場合は、すべての関係展示室仮申込者の利用許可を内定する。
3 館長は、前2項の規定に基づき利用許可を内定したときは、関係各展示室利用仮申込者に対し、利用させる会場、利用期間等を記載した内定書を送付する。
(利用許可申請書の受付)
第10条 第6条又は第9条の規定に基づく内定書の送付を受けた各展示室利用仮申込者は、館長の指定する期日（以下「利用許可申請書提出期日」という。）までに来館のうえ、規則第6条第1項の規定に基づく展示室利用許可申請書（以下「許可申請書」という。）を提出するものとする。
(利用許可書の交付等)
第11条 許可申請書の提出を受けた館長は、各展示室利用仮申込者に対し、規則第6条第2項の規定に基づく利用許可書を交付する。
(利用の許可を受け得るものの範囲等)
第12条 利用の許可を受け得る者は、県民の芸術文化の向上に資すると認められる次の各号に掲げる展覧会を開催しようとする者とする。
(1) 主要美術団体による全国的又は全県的な規模による創作美術品の一般公募展
(2) 国、地方公共団体及び公共性を有する機関等による国際的又は国内的に定評のある美術作品の展覧会
(3) 愛知県文化振興事業団による美術作品の展覧会
(4) その他芸術振興、国際親善等のため適当と認められる美術展
(利用許可を与えない場合)
第13条 次の各号に掲げる場合には、利用許可を与えない。

- (1) 利用許可申請者が、未成年者又は無能力者（禁治産者等）である場合
- (2) 利用許可申請者が、法的又は社会的な責任を十分に取得する者でない場合
- (3) 展示しようとする作品が、「愛知県美術館ギャラリーにおける展示作品の種類、展示の方法、規格基準等」に抵触する場合

（一般仮受付に係る利用許可の優先順位）

第14条 第4条第1号に規定する一般仮受付に係る利用許可をするに当たっての優先順位は、原則として、次のとおりとする。

- 第1順位 全国的な規模による創作美術品の一般公募及び国際的又は国内的に定評のある美術作品の展覧会の開催を目的とする利用
- 第2順位 全県的な規模による創作美術品の一般公募展の開催を目的とする利用
- 第3順位 その他芸術振興、国際親善等のため適当と認められる美術展の開催を目的とする利用

（利用区分）

第15条 展示室の利用許可に当たっては、展示室ごとの利用を許可するほか、複数の展示室の組合せの利用を許可する。また、展示室G及びJについては、2分割の利用も許可するものとする。

（利用許可の単位等）

第16条 展示室AからIの利用許可は、休館日の翌日から次の休館日の前日までの期間（以下「単位期間」という。）を最少の期間とし、引き続き単位期間を限度として、この期間に含まれる日について行う。

2 美術館長が、作品の搬入、搬出等のため特に必要があると認める期間については、当該期間に限り、前項に規定する限度を超えて、この期間に含まれる日についても、利用許可を行う。

3 展示室Jの利用許可は、引き続き2日以上の日について、休館日を除き10日を限度として行う。ただし、展示室AからIまでと組合せ利用の場合は、前2項の規定に準じて利用許可を行う。

（休館日に係る利用許可）

第17条 休館日については、展示室の利用許可は行わない。ただし、利用者が、展示室の利用開始日から利用終了日までの間に含まれる休館日に作品の展示替え等のために展示室に立ち入る必要がある場合は、この限りではない。

附 則

この要領は、平成4年10月30日から施行する。

愛知県文化会館美術館	愛知芸術文化センター愛知県美術館
1952年 4月 サンフランシスコ講和条約の発効に際し、講和記念事業文化施設基本計画樹立委員会設置 10月 愛知県文化会館懸賞競技設計募集開始 1953年 2月 愛知県文化会館懸賞競技設計入選者発表 6月 基本設計着手 1954年 2月 美術館建設着工 1955年 1月 美術館建設竣工 2月 美術館開館 4月 『愛知県文化会館美術館ニュース窓口』創刊 5月 藤井達吉氏より1,460点の絵画・工芸品の寄贈 1957年 10月 最初の企画展「愛知総合文化財展」開催 1959年 4月 ブールデル作《アルヴァール將軍の記念碑》のための4体のブロンズ像《力》《自由》《勝利》《雄弁》購入 1967年 7月 最初の所蔵品展開催 1971年 3月 『美術館所蔵品目録』発行 1975年 5月 開館20周年記念事業として移動展「愛知県美術館所蔵名作展」開催 1979年 4月 常設展示室開設 1985年 9月 開館30周年記念・特別展「郷土の画家たち～愛知県美術館30年のあゆみ展」開催 1992年 2月 常設展入場者数40万人達成 3月 常設展示室閉室 10月 閉館	1983年 4月 知事、記者会見で新文化会館の審議会設置を事務局に指示した旨、発表 7月 新文化会館（仮称）構想懇談会設置 1985年 3月 建設基金条例制定 「新文化会館基本構想」提言 4月 新文化会館建設事務局設置 7月 新文化会館建設委員会に美術館部会設置 1986年 8月 栄地区施設公開設計競技開始 11月 美術品収集計画研究会設置 1987年 5月 栄地区施設最優秀作品発表 12月 栄地区施設基本設計終了 1988年 4月 美術品等取得基金設置 6月 美術品収集委員会設置 11月 栄地区施設実施設計終了 1989年 3月 栄地区施設起工式 10月 「新収蔵作品展」開催 1991年 4月 文化振興局設置 11月 第2回「新収蔵作品展」開催 1992年 4月 愛知県美術館準備室開設 6月 美術館運営会議・美術館ギャラリー運営会議設置 栄地区施設竣工 10月 美術館開館 開館記念展第1部「フォーヴィスムと日本近代洋画」開催 『美術館所蔵作品選』発行 1993年 1月 開館記念展第2部「近代の日本画 西洋との出会いと対話」開催 2月 開館記念展第3部「20世紀 愛知の美術」開催 3月 『美術館所蔵作品目録』発行 5月 第42回全国美術館会議総会開催会場 10月 愛知芸術文化センター開館1周年記念事業として 「リール市美術館所蔵バロック・ロココの絵画」展及び連続美術館講座6回「バロック・ロココの芸術空間」開催

- 開館時間 午前10時～午後 6 時（入館は 5 時30分まで）
金曜日は午後 8 時まで夜間開館（入館は 7 時30分
まで）
- 休館日 月曜日（祝祭日の場合はその翌日）、年末年始
（12月28日～ 1 月 3 日）、整理期間
- 観覧料 （1 人 1 回につき）

区 分	所蔵作品展示		企画展示
	個人	団体	
小・中学生	100円	80円	2,000円以内で知 事が定める額
高・大学生	300円	240円	
一 般	500円	400円	

- 交通案内 ・地下鉄
東山線・名城線「栄」下車、東へ徒歩 2 分
桜通線・名城線「久屋大通」下車、南へ徒歩10分
名鉄瀬戸線「栄町」下車、東へ徒歩 2 分
・駐車場（有料）
約600台（地下）
- 所在地 〒461 名古屋市東区東桜一丁目13番 2 号
TEL 052(971)5511(代)
FAX 052(971)5604

愛知県美術館年報	1993年度版
	1995年3月発行
編集・発行	愛知県美術館
	名古屋市東区東桜1-13-2
	Tel.:052-971-5511
表紙デザイン・本文レイアウト	小谷恭二
印刷	凸版印刷株式会社

1993 Annual Report, Aichi Prefectural Museum of Art

Edited and Published by

Aichi Prefectural Museum of Art

1-13-2 Higashisakura Higashiku, Nagoya, 461, Japan

Designed and layouted by

Kyoji Kotani

Printed by

Toppan Print Co.

©1995

Printed in Japan